HP『海軍砲術学校』公開史料

明治四十一年二月印刷

秋山海軍中佐講述

海軍戰務 全

海軍大學校

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

明治四十一年二月印刷

秋山海軍中佐講述

海軍戰務

全

海軍大學校

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

發行年月日	沿革
明治四十一年二月二十八日	本書ハ明治三十六年ヨリ仝四十年ニ亘リ（其間日露戰爭ヲ除ク）秋山教官カ第四、第五、第六期甲種學生ニ對シ三回講授シタルモノナリ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

海軍戰務

○緒言

戰務トハ兵術ヲ實施スルニ當リ、軍隊ヲ指揮統率シ、或ハ之レカ行動生存ヲ經理スル等ノ業務ニシテ、戰略戰術等ノ如ク直接ニ敵ト戰フ技術ニアラスト雖モ、此要務ノ媒介ニ依ラサレハ如何ナル巧妙ノ兵術モ實施スル能ハサルコト、尙ホ如何ナル卓絶ノ意見ヲ有スル達士モ辯舌若クハ文章ノ媒助無クシテ之ヲ人ニ傳ヘテ世ヲ稗益スル能ハサルト一般ナリ。故ニ戰務ハ兵術ニ屬セサル普通ノ庶務ニ過キサルモ、兵術ト密接ノ關係ヲ有スルノミナラス、其大ナルモノニ至リテハ殆ント兵術ニ近邇シテ相區別スル能ハサルモノアリ

泰西諸軍國ニテハ戰務ヲ Logistics ト稱シ、Strategy 及ヒ Tactics ト並立シ兵術ノ一科トシテ講究セルモノ多シ。蓋シ Logistics ナル兵語ノ淵源ハ往時軍隊ヲ宿營〔Loge〕セシムルノ戰務ニ此語ヲ用ヒタルニ起因シ、爾來戰務ノ範圍漸次ニ擴張シテ諸種ノ業務ヲ包含スルニ至リシモ、尙ホ今日此語ヲ襲用セルモノニシテ、我陸軍ニテハ之ヲ帥兵術ト譯稱ス。海軍ニテハ實際此業務ノ存在セルニ拘ラス、之レニ與ヘタル特別ノ名稱ナク、且ツ其研究モ陸軍ニ於ケルカ如ク信切ナラサルノ觀アリ。是レ本校ニ於テ特ニ海軍戰務ノ一科ヲ創設サレタル所以ナリ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

作戰上戰務ノ欠ク可ラサルハ言フヲ俟タスト雖モ、今之ヲ例證センニ、茲ニ艦隊指揮官アリ、已ニ對敵ノ胸算ヲ立テ作戰計畫ヲ策定スト雖モ、之ヲ命令トナシテ迅速確實ニ其部下ニ傳達シ得ルニアラサレハ所要ノ時機ニ此計畫ヲ實施セシムルコト能ハス。又已ニ作戰命令ヲ部下ニ傳達シ了リ、或ル時機ニ或ル地點ニ於テ、敵ト會戰スルノ目的ヲ以テ其麾下艦隊ヲ率ヒ出動セントスルモ、其出發時刻迄ニ炭水補給等ノ了ラサル艦アレハ、遂ニ出發ヲ延期シ、空シク會敵ノ好機ヲ逸スルコトアルヘシ。即チ此命令ノ傳達若クハ炭水補給等ノ如キ、皆之レ戰務ノ擔任スルモノナレハ、兵術ノ實施カ戰務ニ負フ處少カラサルヲ知ルニ足ルナリ。換言スレハ戰務ノ助力無クシテ兵術ハ實施セラル、モノニアラス。故ニ或ル場合ニ於テハ戰務却テ主トナリテ戰略戰術ヲ支配シ、戰務上ノ要求ヨリ作戰計畫ヲ變更セサル可ラサルコトアリ。例ハ戰略ハ某日某時ニ根據地ヲ出發シテ何節ノ速力ヲ以テ航行スルヲ艦隊ニ要求スルモ、載炭ノ數量之レニ應スル能ハサルカ爲ニ、出發時刻ヲ延期シ航行速力ヲ減少スルカ如キ是レナリ。斯ノ如キハ戰務ノ發達セサル軍隊ニ往々見ル處ニシテ最モ忌ムヘキ現象ナリトス。前記スル處ハ單ニ戰務一部ノ整否カ兵術實施ニ影響スル一例ヲ擧ケタルニ過キサルモノニテ、其他諸種ノ戰務ニ就キテ考察スルトキハ、其作戰ノ成敗ヲ左右スルニ至大ノ與力アルコト言フヲ俟タサルナリ

更ニ小陸戰ノ古例ニ依リ之ヲ引證センニ、賤ヶ嶽ノ役ニ先チ、秀吉大軍ヲ率ヒ、岐阜ノ織田信孝ヲ攻ントシテ大垣ニアリ。時ニ佐久間盛政精兵一萬ヲ率ヒ柳瀨ヨリ來リテ賤ヶ嶽ニ於ケル中川清秀ノ要塞

HP『海軍砲術学校』公開史料

ヲ擊破シ、未タ其軍ヲ退ケサルノ急報ニ接シ、方ニ晝食ヲ喫シツヽアリシヲ止メ、直ニ作戰ノ正面ヲ轉換シテ輕兵一萬五千ヲ率ヒ賤ケ嶽ニ向ヘリ。而テ先ツ吏卒數十人ヲ發シ沿道ノ民家ニ徵發シテ戶々若干ノ酒食湯桶等ヲ準備シ、夜ハ熾ニ炬火ヲ焚キ、山路ノ嚮導タラシメタリ。故ニ大軍俄カニ移動スルモ毫モ飢渴ヲ感セス、又道ニ迷フコト無ク、翌拂曉前已ニ賤ケ嶽ニ達シ、敵軍ニ觸接シテ直ニ激烈ナル攻擊ヲ開始シ、一擧ニ盛政ヲ破リテ之ヲ擒ニシ、更ニ勝ニ乘シテ越前ニ侵入シ、遂ニ其勁敵柴田勝家ヲモ擊滅セリ。戰記ハ此戰勝ヲ傳フルニ、主トシテ賤ケ嶽ニ於ケル七槍三刀等ノ武功ヲ稱揚スレトモ、抑々此成効ノ主因ハ秀吉カ優勢ナル大軍ノ作戰正面ヲ變シテ半日ニ長程ノ急行軍ヲナサシメ得タル戰務上ノ用意周到ナリシニ歸セサル可ラス

海軍ニ於テモ戰務ノ必要ナルハ陸軍ニ讓ラス。此業務ノ整備ナクシテ適當ノ時機ニ適當ノ地點ニ大艦隊ヲ動カサント欲スルモ得可カラサルナリ。而テ戰務ナルモノハ指揮官ヨリハ寧ロ之ヲ補佐スル參謀將校カ直接擔任セルモノ多キヲ以テ、將來其任ニ當ラントスルモノハ先ツ此業務ニ習熟セサル可ラス

明治三十六年四月

秋山海軍少佐述

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

海軍戰務

目次

第一章　令達　一頁
第一節　令達ノ種別　一
第二節　令達ノ要義　三
第三節　令達ノ文法　七
第二章　報告及通報　二三
第一節　報告及通報ノ種別　二三
第二節　報告及通報ノ要義並文法　二三
第三章　通信　二九
第一節　通信法ノ種類　二九
第二節　通信線ノ系統　三三
第四章　航行　三八
第一節　航行ノ種別及要義　三八
第二節　航行ノ方法　四一

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

第五章　碇泊　四七
第一節　碇泊ノ種別及要義　四七
第二節　碇泊ノ方法　五〇
第六章　捜索及偵察　五五
第一節　捜索及偵察ノ要義　五五
第二節　捜索ノ種別及方法　五九
第三節　偵察ノ種別及方法　六六
第七章　警戒　七一
第一節　警戒ノ要義　七一
第二節　航行中ノ警戒法　七四
第三節　碇泊中ノ警戒法　七八
第八章　封鎖　八三
第一節　封鎖ノ種別及要義　八三
第二節　封鎖中ノ警戒法　八七

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

第九章　陸軍ノ護送及揚陸掩護　九一
第一節　護送及揚陸掩護ノ要義　九一
第二節　護送ノ方法　九五
第三節　揚陸掩護ノ方法　九九
第十章　給與　一〇三
第一節　給與ノ要義及品目　一〇三
第二節　給與ノ種別及方法　一〇六
（附錄）　艦隊戰務用圖書ノ分類

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

海軍戰務

第一章　令達

第一節　令達ノ種別

○令達ハ各級指揮官カ其職責ニ基ケル意志ヲ遂行遵守セシムルタメ、其部下ニ示令スルモノナリ。而シテ部下全隊ニ普ク示令スルモノヲ一般令達ト謂ヒ、又部下ノ一部ニ個別ニ示令スルモノヲ特別令達ト謂フ

一指揮官カ其任務ヲ遂行セントスル等ノ場合ニ當リ、一般令達ハ各部隊ヲシテ悉ク其友隊ノ爲スヘキ處ヲ了解セシメ、一令ノ下ニ全軍ノ意志ヲ疏通シ、共同ノ一目的ニ對シ協力動作セシムルノ便利アルカ故ニ、作戰命令等ニハ主トシテ此法ヲ用ユ。又特別令達モ特ニ一部隊ノミヲ使役スル等ノ場合ニ於テ却テ繁ヲ省キ要ヲ充タスノ便益アルカ故ニ、一般令達ト共ニ之ヲ併用スルノ必要アリ

○近世戰務ノ發達ニ伴ヒ軍隊ニ用フル令達法ハ其取扱上ノ便利ノタメ主トシテ左ノ六種ニ區別セラルヽニ至レリ

(一)命令、(二)訓令、(三)日令、(四)法令、(五)訓示、(六)告示、

一、命令ハ受令者カ發令者ニ對シ絶對的ニ服從遂行スルノ責任アルモノニシテ、作戰其他重大ナル

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

役務等ニ關スル令達ハ大抵命令ヲ以テス、而テ其必要ニ應シテ一般令達若クハ特別令達トシテ之ヲ發ス

命令ハ前記ノ如ク受令者ニ對シ强制的ナルカ故ニ、發令者ハ先ツ愼重ノ考慮ヲ盡クシ、果シテ實行シ得ラルヘキヤ否ヤヲ判定シタル後ニアラサレハ濫ニ發スヘカラス

二、訓令ハ固ヨリ命令ノ性質ヲ有スト雖モ、主トシテ受令者ニ達成スヘキ目的若クハ爲スヘキ任務ノ綱領ノミヲ指示シ、之ヲ遂行スルノ方法手段等ニ就テハ受令者ヲ制肘セス、其意圖ニ一任セルモノナリ。故ニ將來ニ於ケル情勢ノ變化知ル可ラサル場合、或ハ遠隔ノ地點ニ分離セル部下ニ令達スル場合等ニハ大抵訓令ヲ用フ。又近時ハ比較的重要ノ度少キ作業等ヲ命令スルニ方リ、往々訓令ノ名ヲ以テスルコトアリ

訓令モ亦命令ノ如ク必要ニ應シテ一般令達若クハ特別令達トシテ發令セラル

三、日令モ亦命令ノ如ク强制的性質アリト雖モ、日常ノ隊内經理若クハ細末ノ事業等ノ如キ重要ノ程度低少ナルモノニ就キテ之ヲ使用ス。是レ日令〔Daily Order〕ノ名稱アル所以ナリ

日令ハ單ニ一般令達ノミトシテ發令セラルヽヲ例トス

四、法令ハ其名稱ノ如ク受令者ニ於テ永久ニ服從遵守スヘキ律令ナリ。即チ命令訓令等ノ如ク臨時的ノモノニアラスシテ、廢棄若クハ改定セラレサル限リ、永久ニ其効力ヲ有スルモノナリ。故ニ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

隊内ノ例則、規定、編制、若ハ通信法等ノ如キモノハ法令ニ依リ發令セサル可ラス。而テ全隊ニ普及セシムルノ要アルヲ以テ常ニ一般令達トシテ發令スルモノナリ

五、訓示ハ指揮官カ其部下ヲ戒飾奬勵、慰諭スル等ノタメ發スル令達ニシテ、固ヨリ命令ノ性質ヲ有スルモノニアラスト雖モ、尚ホ受令者ニ於テ之ヲ服膺スルノ責任アルモノトス。而テ其主旨受令者ヲ强制セスシテ其精神上ニ作用スルガ故ニ、場合ニ依リ命令ヲ以テ令達スルヨリモ却テ其効力ノ大ナルコトアリ

訓示モ亦必要ニ應シテ一般令達若クハ特別令達トシテ發令セラル

六、告示ハ指揮官カ其隊内隊外ノ事件若クハ情報等ニ就キ其部下ニ了知セシムルノ必要アルトキ之ヲ下示スルモノニテ、是レ亦命令ノ性質ヲ有セスト雖モ、告示サレタル事項ハ受令者ニテ之ヲ知悉スルノ責アルモノナリ。「例ハ某水道ニハ防材ヲ設置シ、某所ニハ航路浮標ヲ置ケリ」ト告示サレタルトキハ、受令者ハ其航路上ノ保安ニ就キ、自ラ責ニ任スルカ如シ。又戰時ニ於テハ告示ヲ以テ隊外ノ戰報等ヲ下示シ戰陣ノ勞苦ヲ慰シ士氣ノ弛倦ヲ豫防スル等ニ利用セラルヽコトアリ

第二節　令達ノ要義

○令達ハ軍隊ニ於ケル指揮官ト其部下トヲ連繫シテ計畫ト實施トヲ結合シ、以テ其隊ノ任務ヲ遂行シ目的ヲ達成セシムヘキ唯一ノ神經ナリ。發令ト其實行ハ恰カモ人身ニ於ケル頭腦ト手足ノ關係ノ如ク

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

常ニ相感應調和スルヲ要ス。頭腦若シ過重ノ力行ヲ命スルトキハ四肢爲ニ疲憊シ、手足若シ頭腦ノ指導ヲ受ケサルトキハ擧止凡テ節度ヲ失ス。故ニ人躰ノ神經系統ハ電氣ノ如ク一瞬ニ感應シテ兩者ノ間ニ寸毫ノ齟齬ヲ許サス。軍隊ニ於ケル發令者ト受令者間ノ神經ハ斯ノ如ク鋭敏ナル能ハス。一タヒ發令セハ之ヲ變更スルコト容易ナラサルノミナラス、假令變更シ得ルモ適マ以テ其實施ヲ錯亂シ益々惡果ヲ呈スルニ至ル、特ニ作戰命令等ニ於テ然リトス。若シ夫レ指揮官爲シ得可ラサル令達ヲ決行セシムルトキハ單ニ其企圖ヲ成就スル能ハサルニ止ラス、部下ニ對スル其威信ヲ損失シ、率テ軍紀ヲ弛廢セシムルニ至ルコトアリ。此故ニ發令者ハ常ニ自ラ受令者ノ位地ニ立テルモノト假想シ、其果シテ爲シ得ヘキヤ否ヤヲ考察シテ令達ヲ起草シ、尙ホ充分ノ熟慮ヲ盡シタル後之ヲ發令セサル可ラス。乃チ左ニ令達中最要ナル作戰命令ニ就キテ留意スヘキ要義ヲ列擧ス

一、發令者ノ意圖決心ヲ明カニシ、發令ノ理由ヲ言ハサルヲ要ス

(註) 發令者ノ意志明瞭ナラサルトキハ受令者ハ適從スヘキ處ヲ知ラス、爲ニ其力行ヲ鈍クシ實施ノ効果ヲ擧クルコト難シ。又理由ヲ附シテ發令スレハ却テ受令者ノ理會ヲ複雜ニシ疑惑ヲ生セシムルノミナラス、命令ノ威嚴ヲ損ス。要スルニ命令ハ凡テ嚴明ナラサル可ラス

二、受令者ノ任務ヲ明示シ、之ヲ遂行スルノ手段ニ就キ細末ニ亘ラサルヲ要ス

(註) 各受令者ノ任務ノ分限明劃ナラサルトキハ全軍ノ協同動作ヲ妨害シ、友隊相衝突スル等ノ原因

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

トナルヘシ。然レトモ其任務ヲ遂行スルノ手段ニ干渉スルコト深ケレハ受令者ノ獨立心ヲ抑壓シ、唯タ上命ノミニ拘泥シ其機動ノ活力ヲ亡失セシムルニ至ル。戰鬪部隊ニ對シ「後命ヲ待ツヘシ」ト令スル如キハ可成的之ヲ避ケサル可ラス

三、作戰目的ヲ達スルニ必要ナル參考資料ヲ下示スルヲ要ス

(註) 作戰ノ參考タルヘキ敵情並ニ友軍ノ情況等ヲ下示スルハ受令者ヲシテ戰勢ヲ了得セシメ、戰機ニ應シテ協同動作セシムルノ利アリ。但シ詳細ニ亘リテ了解スルニ難キカ、或ハ矛盾セル二種ノ情報ヲ示シテ其判斷ヲ促カスカ如キハ最モ不可ナリ

四、未然ヲ豫想シ、多ク未來ヲ豫定セサルヲ要ス

(註) 作戰ノ事或程度迄ハ未來ヲ豫定セサル可ラス、然レトモ未然ヲ豫想スルトキハ受令者ニ先入ノ思想ヲ固着シ、往々戰勢ノ觀察ヲ過ラシムルコトアルノミナラス、其然ラサリシ場合ニ於テハ發令者ノ威信ヲ損ス。凡テ兵戰ハ意想外ニ變移スルモノナルカ故ニ、機ニ臨ミ變ニ應スルノ餘裕ヲ保蓄シ置クヲ要ス

五、退却若クハ敗軍ニ處スル事項ヲ豫示セサルヲ要ス

(註) 作戰ハ常ニ必勝ヲ期シテ之ヲ決行セサル可ラス、初ヨリ敗退ニ應セントスルトキハ受令者ノ決心ヲ薄弱ナラシメ、爲ニ却テ敗退スルニ至ルコトアリ。且ツ夫レ激戰ニ於テ彼我ノ衝力相拮抗

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

スル場合等ニハ戰況利アルモ尙ホ自ラ之ヲ不利ナリト誤想シ、豫定ニ基キ機ニ先チテ退却スル等ノ虞アルナリ。凡テ作戰命令ハ敵ニ對シ積極主働的ナルヲ可トシ、消極受働的ナルヲ不可トス

六、發令ノ時機適當ナルヲ要ス

(註) 發令ハ之レカ實施ニ移ルニ先チ、其傳達ニ要スル時間ト、受令者カ之ヲ了解シテ必要ノ準備ヲナスヘキ時間ノ餘裕アル如ク發送スルヲ要ス。然レトモ亦決シテ早キニ失スル可ラス、敵情ハ常ニ變化スルモノナルカ故ニ、命令已ニ成ルモ尙ホ最終ノ時機迄之ヲ發セサルヲ可トス。加之發令後時日ヲ經過スルトキハ往々敵ニ漏洩スルノ虞アルナリ

七、發令ノ機密ヲ保護スルヲ要ス

(註) 凡テ令達ハ其作戰命令ナルト否トヲ問ハス、可成的其機密ヲ保護セサル可ラス。交通ノ發達セル現時ニ於テハ我カ軍機ノ敵ニ漏洩スルコト頗ル迅速ナリ。令達ニシテ下士卒ニ傳達スルモノハ已ニ外部ニ漏洩セルモノト覺悟セサル可ラス。故ニ各種ノ令達ハ其重要ノ程度ニ準シテ之ヲ極秘、外秘、普通ノ三種ニ區別シ、就中極秘及外秘ノモノハ其通覽ヲ將校以上ノ責任者ノミニ限ルヲ要ス、又極密命令ヲ時機ニ先チテ發スルトキハ之ヲ封密トシ、適當ノ時機ニ至リテ開披セシムルヲ可トス

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

前記ノ諸要義ハ特ニ作戰命令ニ就キ一般ノ通則ヲ示スニ過キサルモノニテ、之ヲ實際ニ應用スルニ當リテハ受令者ノ識量、材幹、氣力等ニ準シ多少ノ斟酌ナカラサル可ラス。然レトモ平時ノ演習等ニハ爲シ得ル限リ此通則ノ如ク發令シ、以テ受令者ヲ訓練スルヲ可トス。凡ソ軍事ノ何タルヲ問ハス、平時ニ於テハ正格ノ法規ヲ勵行シ、軍隊ヲシテ之レニ慣習セシムルヲ可トスレトモ、戰時ニ當リテハ適宜ノ變法ヲ施シ以テ作戰ヲ利セサル可ラス。是レ平時ハ教育ヲ目的トシ、戰時ハ作戰ヲ目的トスルヲ以テナリ

第三節　令達ノ文法

○令達ハ其種類ノ何タルヲ問ハス、明瞭確切ニシテ受令者ノ了解ヲ容易ナラシメサル可ラス。受令者カ往々令達ヲ誤解スルコトアルハ其責メ多クハ發令者ニアリ。故ニ令達ノ文章辭句ハ單調ニシテ簡短ナルヲ要シ、奇異婉曲ノ章句等ヲ用ユ可ラス、又必要ナキ形容詞、副詞等ハ勉メテ之ヲ省クヲ可トス。是レ單ニ受令者ヲシテ了解シ易カラシムルノミナラス、令達通信ノ時間ヲ節減スルニ於テ少カラサル利益アルヲ以テナリ。而テ之ヲ起草シタル後充分ニ復讀シテ受令者カ如何ニ了解スルヤヲ考察シ、更ニ必要ノ訂正ヲ施シ、而後之ヲ發令スヘシ。此主旨ニ基キ左ニ令達文法ニ關スル通則ヲ列記ス

一、令達中ニ記載スル月日ハ常ニ數字ヲ冠スルヲ要ス、例ハ明十一日昨九日ト記スルカ如シ。又時刻ニハ必ス午前若クハ午後ノ別ヲ冠記シ、且ツ正午ノ語ト共ニ正子ノ語ヲ用ヒサルヲ可トス、是

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

レ正子ノ字ハ一見正午ト誤讀セラル、ノミナラス、正子ハ常用日ノ分界タルカ故ニ往々一日ヲ誤算スルノ虞アルヲ以テナリ。又夜ハ日沒ヨリ拂曉迄ヲ意味シ、某日ノ夜ト記載セルトキハ翌日ノ拂曉ニ亘ルモノトス

又外國ニ作動セルトキ、標準時ノ制定ナキ場合ニハ臨時其地方ニ於ケル標準時ヲ定ムルコト必要ナリ。凡ソ時辰ノ齊一ハ作戰ノ基礎ナルヲ以テ常ニ之レカ整合ヲ忽ニスヘカラス

二、地名ヲ記スルニハ海圖若クハ地圖ニ記載シアルモノヲ用ヒ、若シ記載ナキトキハ名稱アル某地ノ某方位、某距離ノ無名灣等ト記スルモノトス。又海上ニ於テハ經緯度若クハ地點番號ヲ以テ指示スルカ或ハ名稱アル某地ノ某方位、某距離ノ地點ト記セサルヘカラス

三、右、左、前、後等ノ語ハ敵ニ對スル我正面ヲ基準トシテ呼稱スルモノトス。而テ敵軍ニ就キテ謂フトキハ特ニ敵ノノ二字ヲ冠スヘシ、例ハ敵ノ右翼列先頭ト記スルカ如シ

四、兵力ヲ記スルニハ可成的部隊ノ隊號ヲ以テ之ヲ呼稱シ、若シ其部隊ノ兵力ニ加欠アルトキハ其隊號ノ下ニ括弧ヲ附シ(某艦欠ク)若クハ(某艦ヲ加フ)ト記スヘシ

五、令達特ニ命令、訓令及日令等ヲ書スルニハ事項ノ異ナル毎ニ項ヲ分ツテ列記シ、各項ニハ其順序ニ從ヒ番號ヲ冠スヘシ、又一項ノ記事中較ヤ異ナリタル數件ヲ含ムトキハ毎件字行ヲ新ニスルヲ分明ナリトス

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

六、地形、構造、配備、航路、泊地等ニ關スルコトハ平面略圖ヲ以テ圖示スルヲ明瞭ナリトス。而テ其略圖ノ縮尺ハ可成的常用ノ海圖ト仝一ニシ（海圖第何號ト同尺）ト附記スルヲ要ス、若シ然ラサルトキハ特ニ用ヒタル縮尺ヲ圖示セサル可ラス

七、多數ノ兵力、兵具、材料等ノ如キ凡テ員數ニ關ズル事項ハ令達ノ本文中ニ記入セスシテ別表トナシ、本文ニ附添スルヲ可トス。是レ簡明ノ主旨ニ適合スルノミナラス、受令者カ其別表ノミヲ使用シ得ルノ利アレハナリ。其他複雜ナル行動、作業等ヲ豫令スル場合ニモ豫定表トシテ指示スルヲ簡明ナリトス

八、各種一般令達ノ表題ニハ其隊號ヲ冠記シ、其受令者ノ範圍ヲ表示スルヲ要ス。例ハ「第一艦隊命令」、「第二艦隊日令」、「第三戰隊訓令」或ハ「第一艦隊告示」等ト記スルカ如シ。又特別令達ニハ其受令者ノ名稱ヲ冠記シ受令者ヲ指名セサル可ラス。例ハ「某三笠艦長ニ命令」、或ハ「第三驅逐隊司令ニ訓令」ト記スルカ如シ。又此表題ノ下ニハ發令時及發令地ヲ附記スルモノトス

以上ハ單ニ令達文書ヲ起草スルニ當リ遵守スヘキ通則ニシテ、尚ホ之レ以外ニ習練ヲ要スルモノ多シ。乃チ左ニ各種令達ノ書例ヲ掲ケ參照ニ供ス

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

乙隊機密第六七號

第二艦隊命令

五月十二日午前八時
於尾崎灣旗艦磐手

（敵情）

一、最近情報ニ據レハ「旅順」ニアル敵ノ主力ハ依然動カス、又浦潮ニ在リシ敵ノ支隊ハ昨十一日午後二時頃舞水端望樓ノ東方約二十五浬ニ出現シ南航シツヽアリシコト確實ナリ、其兵力附表ノ如シ

（作戰ニ關係アル友軍ノ情況）

二、竹敷第十六、第十七、第十八艇隊ハ本日午後四時ヨリ韓崎ト絶影島ノ線上ニ於テ西水道ヲ巡邏シ、又佐世保第九、第十艇隊ハ本日午後五時ヨリ鄕ノ浦ト呼子ノ線上ニ於テ壹岐水道ヲ巡邏シ敵ヲ待ツ

（作戰目的）

三、第二艦隊ハ主トシテ東水道ヲ監視シ、敵ノ支隊ヲ海峽ニ迎擊セントス

（作戰計畫大要）

四、索敵ノタメ搜索部署ヲ定ムルコト附圖第一號ノ如シ

（各部隊若ハ各艦ノ任務）

五、笠置及千歲ハ直ニ單獨出發本日午前十一時迄ニ笠置ハ(PS)千歲ハ(PZ)地點ニ至リ、正午ヨリ日沒迄各西方ニ向ヒ搜索弧法ヲ以テ敵ヲ搜索スヘシ

此搜索運動中敵ヲ發見セハ海峽ニ近ツク迄之レト觸接ヲ保持シ時々電報スヘシ、又日沒

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

迄敵ヲ發見セサレハ十三日午前八時迄ニ(T)地點ニ會合スヘシ

（注意）敵ノ航行速力十二節ト認ム

六、第四戰隊（千早ヲ加フ）ハ本日午前九時出發搜索圖ニ指示セル要領ニ準シ午后四時迄ニ第一哨線ニ達シ日沒迄靜止搜索列ヲ張リテ哨戒シ、日沒ヨリ第二哨線ニ反航シ明十三日日出第二哨線上ニ到達シテ靜止哨戒スヘシ

此行動中敵ヲ發見シタル哨艦ハ直ニ之ヲ警報シ爾後敵ト觸接ヲ保持シ、爾餘ノ各哨艦ハ警報ヲ知ルト令時ニ(S)地點ニ急速集合スヘシ

七、第二戰隊及第三戰隊（笠置千歲ヲ欠ク）ハ本日正午出發(T)地點ニ至リテ停止ス

八、第四、第五、第六驅逐隊ハ本日午後二時出發搜索圖ニ指示セル要領ニ準シテ午後六時ヨリ明十三日日出迄東水道ヲ巡邏シ、明朝竹敷ニ歸航スヘシ

九、特務艦船ハ尾崎灣ニ止リテ後命ヲ待ツヘシ

十、第二戰隊(T)地點ヨリ動ケハ龍田ヲ殘留シ通信ノ連絡ヲ保持セシム

又第三戰隊ヨリ一艦ヲTN地點ニ配置シ、北方哨艦トノ通信中繼タラシムヘシ

十一、主隊敵ト觸接セハ別紙戰策ニ準シテ戰フ

（通信連絡）

（戰策）

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

（會合點）

十二、天候其他ノ異變ニ應スル會合點ヲ左ノ如ク定ム

第二及第三戰隊　(T)地點

第四戰隊　(S)地點

各驅逐隊　三浦灣

（旗艦ノ所在）

十三、本職ノ旗艦ハ當要港部ト渉議ヲ了リタル後出發午后六時迄ニ(T)地點ニ至ル

第二艦隊司令長官　姓名

（附記）本令ニ附屬スル附表、附圖及戰策等ハ之ヲ省略ス

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

（作業命令書例）

七戰第二五號

第七戰隊命令

六月十日正午
於羅津浦旗艦扶桑

一、第七戰隊ハ當港ヲ防備スルノ任務ヲ有ス

二、當港ノ防備計畫附圖ノ如シ

三、第一小隊ハ圖示ノ要領ニ準シ明十一日日沒迄ニ馬島ト「ロヂヲノツフ」角ノ防材閉塞作業ヲ完成スヘシ

四、第二小隊ハ明十一日正午迄ニ擬水雷百個ヲ假製シ圖示ノ要領ニ準シ明後十二日午後二時迄ニ之ヲ馬島ノ西端ヨリ正西ニ向ヒ距岸三鏈ノ間ニ敷設スヘシ

五、第一小隊ノ鳥海、摩耶、赤城ハ防材作業ヲ了レハ馬島ノ北方ニ於テ圖示ノ位地ニ碇泊シ、爾後防材ノ修理ヲ擔任シ且ツ當該方面ノ防備ニ任スヘシ

六、第二小隊ノ高雄、筑紫ハ本日午後五時ヨリ「スブシイ」島ノ南北ニ於テ圖示ノ位地ニ移錨シ、毎夜日沒ヨリ翌午前四時三十分迄圖示ノ方位ニ向ヒ探海燈ノ固定照射ヲナスヘシ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

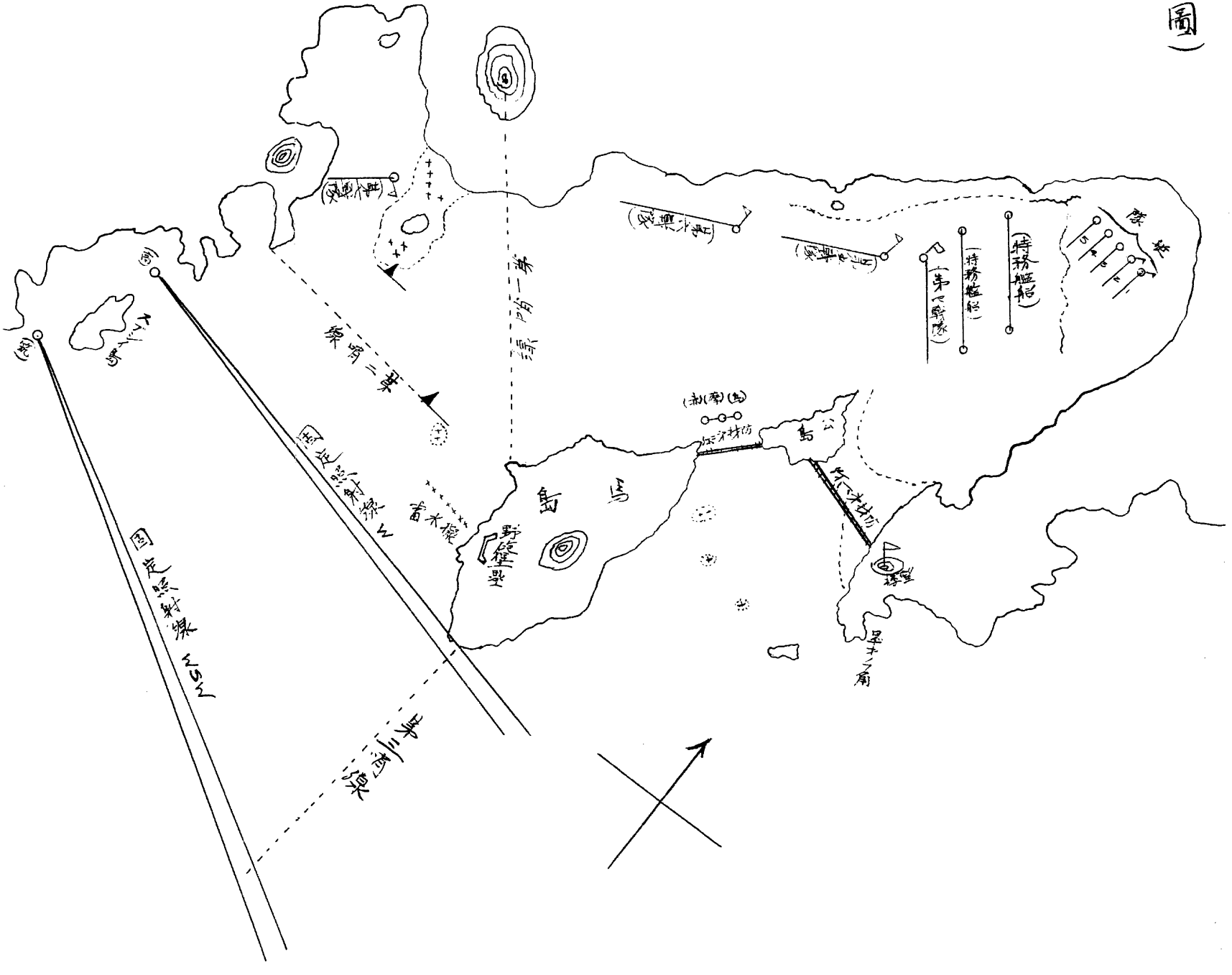
七、第三小隊ハ明十一日午後四時迄ニ馬島ノ西南岸擬水雷線ノ末端ニ近ク適宜ノ地點ヲ撰ミテ野砲堡壘ヲ急造シ、各艦ヨリ野砲一門(可成機砲ヲ用フヘシ)宛ヲ陸揚裝備シ、爾後之レニ配員シ其給與ヲ擔任スヘシ

八、擔任作業ヲ完整セハ直ニ信號又ハ電信ニテ報告スヘシ

第三艦隊司令官　姓　名

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

附圖


第一防禦線
第二防禦線
第三防禦線
第四防禦線
第五防禦線
第六防禦線
第七防禦線
第八防禦線
第九防禦線
第十防禦線
第十一防禦線
第十二防禦線
第十三防禦線
第十四防禦線
第十五防禦線
第十六防禦線
第十七防禦線
第十八防禦線
第十九防禦線
第二十防禦線
第二十一防禦線
第二十二防禦線
第二十三防禦線
第二十四防禦線
第二十五防禦線
第二十六防禦線
第二十七防禦線
第二十八防禦線
第二十九防禦線
第三十防禦線
第三十一防禦線
第三十二防禦線
第三十三防禦線
第三十四防禦線
第三十五防禦線
第三十六防禦線
第三十七防禦線
第三十八防禦線
第三十九防禦線
第四十防禦線
第四十一防禦線
第四十二防禦線
第四十三防禦線
第四十四防禦線
第四十五防禦線
第四十六防禦線
第四十七防禦線
第四十八防禦線
第四十九防禦線
第五十防禦線
第五十一防禦線
第五十二防禦線
第五十三防禦線
第五十四防禦線
第五十五防禦線
第五十六防禦線
第五十七防禦線
第五十八防禦線
第五十九防禦線
第六十防禦線
第六十一防禦線
第六十二防禦線
第六十三防禦線
第六十四防禦線
第六十五防禦線
第六十六防禦線
第六十七防禦線
第六十八防禦線
第六十九防禦線
第七十防禦線
第七十一防禦線
第七十二防禦線
第七十三防禦線
第七十四防禦線
第七十五防禦線
第七十六防禦線
第七十七防禦線
第七十八防禦線
第七十九防禦線
第八十防禦線
第八十一防禦線
第八十二防禦線
第八十三防禦線
第八十四防禦線
第八十五防禦線
第八十六防禦線
第八十七防禦線
第八十八防禦線
第八十九防禦線
第九十防禦線
第九十一防禦線
第九十二防禦線
第九十三防禦線
第九十四防禦線
第九十五防禦線
第九十六防禦線
第九十七防禦線
第九十八防禦線
第九十九防禦線
第百防禦線
第百一防禦線
第百二防禦線
第百三防禦線
第百四防禦線
第百五防禦線
第百六防禦線
第百七防禦線
第百八防禦線
第百九防禦線
第百十防禦線
第百十一防禦線
第百十二防禦線
第百十三防禦線
第百十四防禦線
第百十五防禦線
第百十六防禦線
第百十七防禦線
第百十八防禦線
第百十九防禦線
第百二十防禦線
第百二十一防禦線
第百二十二防禦線
第百二十三防禦線
第百二十四防禦線
第百二十五防禦線
第百二十六防禦線
第百二十七防禦線
第百二十八防禦線
第百二十九防禦線
第百三十防禦線
第百三十一防禦線
第百三十二防禦線
第百三十三防禦線
第百三十四防禦線
第百三十五防禦線
第百三十六防禦線
第百三十七防禦線
第百三十八防禦線
第百三十九防禦線
第百四十防禦線
第百四十一防禦線
第百四十二防禦線
第百四十三防禦線
第百四十四防禦線
第百四十五防禦線
第百四十六防禦線
第百四十七防禦線
第百四十八防禦線
第百四十九防禦線
第百五十防禦線
第百五十一防禦線
第百五十二防禦線
第百五十三防禦線
第百五十四防禦線
第百五十五防禦線
第百五十六防禦線
第百五十七防禦線
第百五十八防禦線
第百五十九防禦線
第百六十防禦線
第百六十一防禦線
第百六十二防禦線
第百六十三防禦線
第百六十四防禦線
第百六十五防禦線
第百六十六防禦線
第百六十七防禦線
第百六十八防禦線
第百六十九防禦線
第百七十防禦線
第百七十一防禦線
第百七十二防禦線
第百七十三防禦線
第百七十四防禦線
第百七十五防禦線
第百七十六防禦線
第百七十七防禦線
第百七十八防禦線
第百七十九防禦線
第百八十防禦線
第百八十一防禦線
第百八十二防禦線
第百八十三防禦線
第百八十四防禦線
第百八十五防禦線
第百八十六防禦線
第百八十七防禦線
第百八十八防禦線
第百八十九防禦線
第百九十防禦線
第百九十一防禦線
第百九十二防禦線
第百九十三防禦線
第百九十四防禦線
第百九十五防禦線
第百九十六防禦線
第百九十七防禦線
第百九十八防禦線
第百九十九防禦線
第二百防禦線
第二百一防禦線
第二百二防禦線
第二百三防禦線
第二百四防禦線
第二百五防禦線
第二百六防禦線
第二百七防禦線
第二百八防禦線
第二百九防禦線
第二百十防禦線
第二百十一防禦線
第二百十二防禦線
第二百十三防禦線
第二百十四防禦線
第二百十五防禦線
第二百十六防禦線
第二百十七防禦線
第二百十八防禦線
第二百十九防禦線
第二百二十防禦線
第二百二十一防禦線
第二百二十二防禦線
第二百二十三防禦線
第二百二十四防禦線
第二百二十五防禦線
第二百二十六防禦線
第二百二十七防禦線
第二百二十八防禦線
第二百二十九防禦線
第二百三十防禦線
第二百三十一防禦線
第二百三十二防禦線
第二百三十三防禦線
第二百三十四防禦線
第二百三十五防禦線
第二百三十六防禦線
第二百三十七防禦線
第二百三十八防禦線
第二百三十九防禦線
第二百四十防禦線
第二百四十一防禦線
第二百四十二防禦線
第二百四十三防禦線
第二百四十四防禦線
第二百四十五防禦線
第二百四十六防禦線
第二百四十七防禦線
第二百四十八防禦線
第二百四十九防禦線
第二百五十防禦線
第二百五十一防禦線
第二百五十二防禦線
第二百五十三防禦線
第二百五十四防禦線
第二百五十五防禦線
第二百五十六防禦線
第二百五十七防禦線
第二百五十八防禦線
第二百五十九防禦線
第二百六十防禦線
第二百六十一防禦線
第二百六十二防禦線
第二百六十三防禦線
第二百六十四防禦線
第二百六十五防禦線
第二百六十六防禦線
第二百六十七防禦線
第二百六十八防禦線
第二百六十九防禦線
第二百七十防禦線
第二百七十一防禦線
第二百七十二防禦線
第二百七十三防禦線
第二百七十四防禦線
第二百七十五防禦線
第二百七十六防禦線
第二百七十七防禦線
第二百七十八防禦線
第二百七十九防禦線
第二百八十防禦線
第二百八十一防禦線
第二百八十二防禦線
第二百八十三防禦線
第二百八十四防禦線
第二百八十五防禦線
第二百八十六防禦線
第二百八十七防禦線
第二百八十八防禦線
第二百八十九防禦線
第二百九十防禦線
第二百九十一防禦線
第二百九十二防禦線
第二百九十三防禦線
第二百九十四防禦線
第二百九十五防禦線
第二百九十六防禦線
第二百九十七防禦線
第二百九十八防禦線
第二百九十九防禦線
第三百防禦線
第三百一防禦線
第三百二防禦線
第三百三防禦線
第三百四防禦線
第三百五防禦線
第三百六防禦線
第三百七防禦線
第三百八防禦線
第三百九防禦線
第三百十防禦線
第三百十一防禦線
第三百十二防禦線
第三百十三防禦線
第三百十四防禦線
第三百十五防禦線
第三百十六防禦線
第三百十七防禦線
第三百十八防禦線
第三百十九防禦線
第三百二十防禦線
第三百二十一防禦線
第三百二十二防禦線
第三百二十三防禦線
第三百二十四防禦線
第三百二十五防禦線
第三百二十六防禦線
第三百二十七防禦線
第三百二十八防禦線
第三百二十九防禦線
第三百三十防禦線
第三百三十一防禦線
第三百三十二防禦線
第三百三十三防禦線
第三百三十四防禦線
第三百三十五防禦線
第三百三十六防禦線
第三百三十七防禦線
第三百三十八防禦線
第三百三十九防禦線
第三百四十防禦線
第三百四十一防禦線
第三百四十二防禦線
第三百四十三防禦線
第三百四十四防禦線
第三百四十五防禦線
第三百四十六防禦線
第三百四十七防禦線
第三百四十八防禦線
第三百四十九防禦線
第三百五十防禦線
第三百五十一防禦線
第三百五十二防禦線
第三百五十三防禦線
第三百五十四防禦線
第三百五十五防禦線
第三百五十六防禦線
第三百五十七防禦線
第三百五十八防禦線
第三百五十九防禦線
第三百六十防禦線
第三百六十一防禦線
第三百六十二防禦線
第三百六十三防禦線
第三百六十四防禦線
第三百六十五防禦線
第三百六十六防禦線
第三百六十七防禦線
第三百六十八防禦線
第三百六十九防禦線
第三百七十防禦線
第三百七十一防禦線
第三百七十二防禦線
第三百七十三防禦線
第三百七十四防禦線
第三百七十五防禦線
第三百七十六防禦線
第三百七十七防禦線
第三百七十八防禦線
第三百七十九防禦線
第三百八十防禦線
第三百八十一防禦線
第三百八十二防禦線
第三百八十三防禦線
第三百八十四防禦線
第三百八十五防禦線
第三百八十六防禦線
第三百八十七防禦線
第三百八十八防禦線
第三百八十九防禦線
第三百九十防禦線
第三百九十一防禦線
第三百九十二防禦線
第三百九十三防禦線
第三百九十四防禦線
第三百九十五防禦線
第三百九十六防禦線
第三百九十七防禦線
第三百九十八防禦線
第三百九十九防禦線
第四百防禦線
第四百一防禦線
第四百二防禦線
第四百三防禦線
第四百四防禦線
第四百五防禦線
第四百六防禦線
第四百七防禦線
第四百八防禦線
第四百九防禦線
第四百十防禦線
第四百十一防禦線
第四百十二防禦線
第四百十三防禦線
第四百十四防禦線
第四百十五防禦線
第四百十六防禦線
第四百十七防禦線
第四百十八防禦線
第四百十九防禦線
第四百二十防禦線
第四百二十一防禦線
第四百二十二防禦線
第四百二十三防禦線
第四百二十四防禦線
第四百二十五防禦線
第四百二十六防禦線
第四百二十七防禦線
第四百二十八防禦線
第四百二十九防禦線
第四百三十防禦線
第四百三十一防禦線
第四百三十二防禦線
第四百三十三防禦線
第四百三十四防禦線
第四百三十五防禦線
第四百三十六防禦線
第四百三十七防禦線
第四百三十八防禦線
第四百三十九防禦線
第四百四十防禦線
第四百四十一防禦線
第四百四十二防禦線
第四百四十三防禦線
第四百四十四防禦線
第四百四十五防禦線
第四百四十六防禦線
第四百四十七防禦線
第四百四十八防禦線
第四百四十九防禦線
第四百五十防禦線
第四百五十一防禦線
第四百五十二防禦線
第四百五十三防禦線
第四百五十四防禦線
第四百五十五防禦線
第四百五十六防禦線
第四百五十七防禦線
第四百五十八防禦線
第四百五十九防禦線
第四百六十防禦線
第四百六十一防禦線
第四百六十二防禦線
第四百六十三防禦線
第四百六十四防禦線
第四百六十五防禦線
第四百六十六防禦線
第四百六十七防禦線
第四百六十八防禦線
第四百六十九防禦線
第四百七十防禦線
第四百七十一防禦線
第四百七十二防禦線
第四百七十三防禦線
第四百七十四防禦線
第四百七十五防禦線
第四百七十六防禦線
第四百七十七防禦線
第四百七十八防禦線
第四百七十九防禦線
第四百八十防禦線
第四百八十一防禦線
第四百八十二防禦線
第四百八十三防禦線
第四百八十四防禦線
第四百八十五防禦線
第四百八十六防禦線
第四百八十七防禦線
第四百八十八防禦線
第四百八十九防禦線
第四百九十防禦線
第四百九十一防禦線
第四百九十二防禦線
第四百九十三防禦線
第四百九十四防禦線
第四百九十五防禦線
第四百九十六防禦線
第四百九十七防禦線
第四百九十八防禦線
第四百九十九防禦線
第五百防禦線
第五百一防禦線
第五百二防禦線
第五百三防禦線
第五百四防禦線
第五百五防禦線
第五百六防禦線
第五百七防禦線
第五百八防禦線
第五百九防禦線
第五百十防禦線
第五百十一防禦線
第五百十二防禦線
第五百十三防禦線
第五百十四防禦線
第五百十五防禦線
第五百十六防禦線
第五百十七防禦線
第五百十八防禦線
第五百十九防禦線
第五百二十防禦線
第五百二十一防禦線
第五百二十二防禦線
第五百二十三防禦線
第五百二十四防禦線
第五百二十五防禦線
第五百二十六防禦線
第五百二十七防禦線
第五百二十八防禦線
第五百二十九防禦線
第五百三十防禦線
第五百三十一防禦線
第五百三十二防禦線
第五百三十三防禦線
第五百三十四防禦線
第五百三十五防禦線
第五百三十六防禦線
第五百三十七防禦線
第五百三十八防禦線
第五百三十九防禦線
第五百四十防禦線
第五百四十一防禦線
第五百四十二防禦線
第五百四十三防禦線
第五百四十四防禦線
第五百四十五防禦線
第五百四十六防禦線
第五百四十七防禦線
第五百四十八防禦線
第五百四十九防禦線
第五百五十防禦線
第五百五十一防禦線
第五百五十二防禦線
第五百五十三防禦線
第五百五十四防禦線
第五百五十五防禦線
第五百五十六防禦線
第五百五十七防禦線
第五百五十八防禦線
第五百五十九防禦線
第五百六十防禦線
第五百六十一防禦線
第五百六十二防禦線
第五百六十三防禦線
第五百六十四防禦線
第五百六十五防禦線
第五百六十六防禦線
第五百六十七防禦線
第五百六十八防禦線
第五百六十九防禦線
第五百七十防禦線
第五百七十一防禦線
第五百七十二防禦線
第五百七十三防禦線
第五百七十四防禦線
第五百七十五防禦線
第五百七十六防禦線
第五百七十七防禦線
第五百七十八防禦線
第五百七十九防禦線
第五百八十防禦線
第五百八十一防禦線
第五百八十二防禦線
第五百八十三防禦線
第五百八十四防禦線
第五百八十五防禦線
第五百八十六防禦線
第五百八十七防禦線
第五百八十八防禦線
第五百八十九防禦線
第五百九十防禦線
第五百九十一防禦線
第五百九十二防禦線
第五百九十三防禦線
第五百九十四防禦線
第五百九十五防禦線
第五百九十六防禦線
第五百九十七防禦線
第五百九十八防禦線
第五百九十九防禦線
第六百防禦線
第六百一防禦線
第六百二防禦線
第六百三防禦線
第六百四防禦線
第六百五防禦線
第六百六防禦線
第六百七防禦線
第六百八防禦線
第六百九防禦線
第六百十防禦線
第六百十一防禦線
第六百十二防禦線
第六百十三防禦線
第六百十四防禦線
第六百十五防禦線
第六百十六防禦線
第六百十七防禦線
第六百十八防禦線
第六百十九防禦線
第六百二十防禦線
第六百二十一防禦線
第六百二十二防禦線
第六百二十三防禦線
第六百二十四防禦線
第六百二十五防禦線
第六百二十六防禦線
第六百二十七防禦線
第六百二十八防禦線
第六百二十九防禦線
第六百三十防禦線
第六百三十一防禦線
第六百三十二防禦線
第六百三十三防禦線
第六百三十四防禦線
第六百三十五防禦線
第六百三十六防禦線
第六百三十七防禦線
第六百三十八防禦線
第六百三十九防禦線
第六百四十防禦線
第六百四十一防禦線
第六百四十二防禦線
第六百四十三防禦線
第六百四十四防禦線
第六百四十五防禦線
第六百四十六防禦線
第六百四十七防禦線
第六百四十八防禦線
第六百四十九防禦線
第六百五十防禦線
第六百五十一防禦線
第六百五十二防禦線
第六百五十三防禦線
第六百五十四防禦線
第六百五十五防禦線
第六百五十六防禦線
第六百五十七防禦線
第六百五十八防禦線
第六百五十九防禦線
第六百六十防禦線
第六百六十一防禦線
第六百六十二防禦線
第六百六十三防禦線
第六百六十四防禦線
第六百六十五防禦線
第六百六十六防禦線
第六百六十七防禦線
第六百六十八防禦線
第六百六十九防禦線
第六百七十防禦線
第六百七十一防禦線
第六百七十二防禦線
第六百七十三防禦線
第六百七十四防禦線
第六百七十五防禦線
第六百七十六防禦線
第六百七十七防禦線
第六百七十八防禦線
第六百七十九防禦線
第六百八十防禦線
第六百八十一防禦線
第六百八十二防禦線
第六百八十三防禦線
第六百八十四防禦線
第六百八十五防禦線
第六百八十六防禦線
第六百八十七防禦線
第六百八十八防禦線
第六百八十九防禦線
第六百九十防禦線
第六百九十一防禦線
第六百九十二防禦線
第六百九十三防禦線
第六百九十四防禦線
第六百九十五防禦線
第六百九十六防禦線
第六百九十七防禦線
第六百九十八防禦線
第六百九十九防禦線
第七百防禦線
第七百一防禦線
第七百二防禦線
第七百三防禦線
第七百四防禦線
第七百五防禦線
第七百六防禦線
第七百七防禦線
第七百八防禦線
第七百九防禦線
第七百十防禦線
第七百十一防禦線
第七百十二防禦線
第七百十三防禦線
第七百十四防禦線
第七百十五防禦線
第七百十六防禦線
第七百十七防禦線
第七百十八防禦線
第七百十九防禦線
第七百二十防禦線
第七百二十一防禦線
第七百二十二防禦線
第七百二十三防禦線
第七百二十四防禦線
第七百二十五防禦線
第七百二十六防禦線
第七百二十七防禦線
第七百二十八防禦線
第七百二十九防禦線
第七百三十防禦線
第七百三十一防禦線
第七百三十二防禦線
第七百三十三防禦線
第七百三十四防禦線
第七百三十五防禦線
第七百三十六防禦線
第七百三十七防禦線
第七百三十八防禦線
第七百三十九防禦線
第七百四十防禦線
第七百四十一防禦線
第七百四十二防禦線
第七百四十三防禦線
第七百四十四防禦線
第七百四十五防禦線
第七百四十六防禦線
第七百四十七防禦線
第七百四十八防禦線
第七百四十九防禦線
第七百五十防禦線
第七百五十一防禦線
第七百五十二防禦線
第七百五十三防禦線
第七百五十四防禦線
第七百五十五防禦線
第七百五十六防禦線
第七百五十七防禦線
第七百五十八防禦線
第七百五十九防禦線
第七百六十防禦線
第七百六十一防禦線
第七百六十二防禦線
第七百六十三防禦線
第七百六十四防禦線
第七百六十五防禦線
第七百六十六防禦線
第七百六十七防禦線
第七百六十八防禦線
第七百六十九防禦線
第七百七十防禦線
第七百七十一防禦線
第七百七十二防禦線
第七百七十三防禦線
第七百七十四防禦線
第七百七十五防禦線
第七百七十六防禦線
第七百七十七防禦線
第七百七十八防禦線
第七百七十九防禦線
第七百八十防禦線
第七百八十一防禦線
第七百八十二防禦線
第七百八十三防禦線
第七百八十四防禦線
第七百八十五防禦線
第七百八十六防禦線
第七百八十七防禦線
第七百八十八防禦線
第七百八十九防禦線
第七百九十防禦線
第七百九十一防禦線
第七百九十二防禦線
第七百九十三防禦線
第七百九十四防禦線
第七百九十五防禦線
第七百九十六防禦線
第七百九十七防禦線
第七百九十八防禦線
第七百九十九防禦線
第八百防禦線
第八百一防禦線
第八百二防禦線
第八百三防禦線
第八百四防禦線
第八百五防禦線
第八百六防禦線
第八百七防禦線
第八百八防禦線
第八百九防禦線
第八百十防禦線
第八百十一防禦線
第八百十二防禦線
第八百十三防禦線
第八百十四防禦線
第八百十五防禦線
第八百十六防禦線
第八百十七防禦線
第八百十八防禦線
第八百十九防禦線
第八百二十防禦線
第八百二十一防禦線
第八百二十二防禦線
第八百二十三防禦線
第八百二十四防禦線
第八百二十五防禦線
第八百二十六防禦線
第八百二十七防禦線
第八百二十八防禦線
第八百二十九防禦線
第八百三十防禦線
第八百三十一防禦線
第八百三十二防禦線
第八百三十三防禦線
第八百三十四防禦線
第八百三十五防禦線
第八百三十六防禦線
第八百三十七防禦線
第八百三十八防禦線
第八百三十九防禦線
第八百四十防禦線
第八百四十一防禦線
第八百四十二防禦線
第八百四十三防禦線
第八百四十四防禦線
第八百四十五防禦線
第八百四十六防禦線
第八百四十七防禦線
第八百四十八防禦線
第八百四十九防禦線
第八百五十防禦線
第八百五十一防禦線
第八百五十二防禦線
第八百五十三防禦線
第八百五十四防禦線
第八百五十五防禦線
第八百五十六防禦線
第八百五十七防禦線
第八百五十八防禦線
第八百五十九防禦線
第八百六十防禦線
第八百六十一防禦線
第八百六十二防禦線
第八百六十三防禦線
第八百六十四防禦線
第八百六十五防禦線
第八百六十六防禦線
第八百六十七防禦線
第八百六十八防禦線
第八百六十九防禦線
第八百七十防禦線
第八百七十一防禦線
第八百七十二防禦線
第八百七十三防禦線
第八百七十四防禦線
第八百七十五防禦線
第八百七十六防禦線
第八百七十七防禦線
第八百七十八防禦線
第八百七十九防禦線
第八百八十防禦線
第八百八十一防禦線
第八百八十二防禦線
第八百八十三防禦線
第八百八十四防禦線
第八百八十五防禦線
第八百八十六防禦線
第八百八十七防禦線
第八百八十八防禦線
第八百八十九防禦線
第八百九十防禦線
第八百九十一防禦線
第八百九十二防禦線
第八百九十三防禦線
第八百九十四防禦線
第八百九十五防禦線
第八百九十六防禦線
第八百九十七防禦線
第八百九十八防禦線
第八百九十九防禦線
第九百防禦線
第九百一防禦線
第九百二防禦線
第九百三防禦線
第九百四防禦線
第九百五防禦線
第九百六防禦線
第九百七防禦線
第九百八防禦線
第九百九防禦線
第九百十防禦線
第九百十一防禦線
第九百十二防禦線
第九百十三防禦線
第九百十四防禦線
第九百十五防禦線
第九百十六防禦線
第九百十七防禦線
第九百十八防禦線
第九百十九防禦線
第九百二十防禦線
第九百二十一防禦線
第九百二十二防禦線
第九百二十三防禦線
第九百二十四防禦線
第九百二十五防禦線
第九百二十六防禦線
第九百二十七防禦線
第九百二十八防禦線
第九百二十九防禦線
第九百三十防禦線
第九百三十一防禦線
第九百三十二防禦線
第九百三十三防禦線
第九百三十四防禦線
第九百三十五防禦線
第九百三十六防禦線
第九百三十七防禦線
第九百三十八防禦線
第九百三十九防禦線
第九百四十防禦線
第九百四十一防禦線
第九百四十二防禦線
第九百四十三防禦線
第九百四十四防禦線
第九百四十五防禦線
第九百四十六防禦線
第九百四十七防禦線
第九百四十八防禦線
第九百四十九防禦線
第九百五十防禦線
第九百五十一防禦線
第九百五十二防禦線
第九百五十三防禦線
第九百五十四防禦線
第九百五十五防禦線
第九百五十六防禦線
第九百五十七防禦線
第九百五十八防禦線
第九百五十九防禦線
第九百六十防禦線
第九百六十一防禦線
第九百六十二防禦線
第九百六十三防禦線
第九百六十四防禦線
第九百六十五防禦線
第九百六十六防禦線
第九百六十七防禦線
第九百六十八防禦線
第九百六十九防禦線
第九百七十防禦線
第九百七十一防禦線
第九百七十二防禦線
第九百七十三防禦線
第九百七十四防禦線
第九百七十五防禦線
第九百七十六防禦線
第九百七十七防禦線
第九百七十八防禦線
第九百七十九防禦線
第九百八十防禦線
第九百八十一防禦線
第九百八十二防禦線
第九百八十三防禦線
第九百八十四防禦線
第九百八十五防禦線
第九百八十六防禦線
第九百八十七防禦線
第九百八十八防禦線
第九百八十九防禦線
第九百九十防禦線
第九百九十一防禦線
第九百九十二防禦線
第九百九十三防禦線
第九百九十四防禦線
第九百九十五防禦線
第九百九十六防禦線
第九百九十七防禦線
第九百九十八防禦線
第九百九十九防禦線
第千防禦線
第千一防禦線
第千二防禦線
第千三防禦線
第千四防禦線
第千五防禦線
第千六防禦線
第千七防禦線
第千八防禦線
第千九防禦線
第千十防禦線
第千十一防禦線
第千十二防禦線
第千十三防禦線
第千十四防禦線
第千十五防禦線
第千十六防禦線
第千十七防禦線
第千十八防禦線
第千十九防禦線
第千二十防禦線
第千二十一防禦線
第千二十二防禦線
第千二十三防禦線
第千二十四防禦線
第千二十五防禦線
第千二十六防禦線
第千二十七防禦線
第千二十八防禦線
第千二十九防禦線
第千三十防禦線
第千三十一防禦線
第千三十二防禦線
第千三十三防禦線
第千三十四防禦線
第千三十五防禦線
第千三十六防禦線
第千三十七防禦線
第千三十八防禦線
第千三十九防禦線
第千四十防禦線
第千四十一防禦線
第千四十二防禦線
第千四十三防禦線
第千四十四防禦線
第千四十五防禦線
第千四十六防禦線
第千四十七防禦線
第千四十八防禦線
第千四十九防禦線
第千五十防禦線
第千五十一防禦線
第千五十二防禦線
第千五十三防禦線
第千五十四防禦線
第千五十五防禦線
第千五十六防禦線
第千五十七防禦線
第千五十八防禦線
第千五十九防禦線
第千六十防禦線
第千六十一防禦線
第千六十二防禦線
第千六十三防禦線
第千六十四防禦線
第千六十五防禦線
第千六十六防禦線
第千六十七防禦線
第千六十八防禦線
第千六十九防禦線
第千七十防禦線
第千七十一防禦線
第千七十二防禦線
第千七十三防禦線
第千七十四防禦線
第千七十五防禦線
第千七十六防禦線
第千七十七防禦線
第千七十八防禦線
第千七十九防禦線
第千八十防禦線
第千八十一防禦線
第千八十二防禦線
第千八十三防禦線
第千八十四防禦線
第千八十五防禦線
第千八十六防禦線
第千八十七防禦線
第千八十八防禦線
第千八十九防禦線
第千九十防禦線
第千九十一防禦線
第千九十二防禦線
第千九十三防禦線
第千九十四防禦線
第千九十五防禦線
第千九十六防禦線
第千九十七防禦線
第千九十八防禦線
第千九十九防禦線
第千百防禦線
第千百一防禦線
第千百二防禦線
第千百三防禦線
第千百四防禦線
第千百五防禦線
第千百六防禦線
第千百七防禦線
第千百八防禦線
第千百九防禦線
第千百十防禦線
第千百十一防禦線
第千百十二防禦線
第千百十三防禦線
第千百十四防禦線
第千百十五防禦線
第千百十六防禦線
第千百十七防禦線
第千百十八防禦線
第千百十九防禦線
第千百二十防禦線
第千百二十一防禦線
第千百二十二防禦線
第千百二十三防禦線
第千百二十四防禦線
第千百二十五防禦線
第千百二十六防禦線
第千百二十七防禦線
第千百二十八防禦線
第千百二十九防禦線
第千百三十防禦線
第千百三十一防禦線
第千百三十二防禦線
第千百三十三防禦線
第千百三十四防禦線
第千百三十五防禦線
第千百三十六防禦線
第千百三十七防禦線
第千百三十八防禦線
第千百三十九防禦線
第千百四十防禦線
第千百四十一防禦線
第千百四十二防禦線
第千百四十三防禦線
第千百四十四防禦線
第千百四十五防禦線
第千百四十六防禦線
第千百四十七防禦線
第千百四十八防禦線
第千百四十九防禦線
第千百五十防禦線
第千百五十一防禦線
第千百五十二防禦線
第千百五十三防禦線
第千百五十四防禦線
第千百五十五防禦線
第千百五十六防禦線
第千百五十七防禦線
第千百五十八防禦線
第千百五十九防禦線
第千百六十防禦線
第千百六十一防禦線
第千百六十二防禦線
第千百六十三防禦線
第千百六十四防禦線
第千百六十五防禦線
第千百六十六防禦線
第千百六十七防禦線
第千百六十八防禦線
第千百六十九防禦線
第千百七十防禦線
第千百七十一防禦線
第千百七十二防禦線
第千百七十三防禦線
第千百七十四防禦線
第千百七十五防禦線
第千百七十六防禦線
第千百七十七防禦線
第千百七十八防禦線
第千百七十九防禦線
第千百八十防禦線
第千百八十一防禦線
第千百八十二防禦線
第千百八十三防禦線
第千百八十四防禦線
第千百八十五防禦線
第千百八十六防禦線
第千百八十七防禦線
第千百八十八防禦線
第千百八十九防禦線
第千百九十防禦線
第千百九十一防禦線
第千百九十二防禦線
第千百九十三防禦線
第千百九十四防禦線
第千百九十五防禦線
第千百九十六防禦線
第千百九十七防禦線
第千百九十八防禦線
第千百九十九防禦線
第千二百防禦線
第千二百一防禦線
第千二百二防禦線
第千二百三防禦線
第千二百四防禦線
第千二百五防禦線
第千二百六防禦線
第千二百七防禦線
第千二百八防禦線
第千二百九防禦線
第千二百十防禦線
第千二百十一防禦線
第千二百十二防禦線
第千二百十三防禦線
第千二百十四防禦線
第千二百十五防禦線
第千二百十六防禦線
第千二百十七防禦線
第千二百十八防禦線
第千二百十九防禦線
第千二百二十防禦線
第千二百二十一防禦線
第千二百二十二防禦線
第千二百二十三防禦線
第千二百二十四防禦線
第千二百二十五防禦線
第千二百二十六防禦線
第千二百二十七防禦線
第千二百二十八防禦線
第千二百二十九防禦線
第千二百三十防禦線
第千二百三十一防禦線
第千二百三十二防禦線
第千二百三十三防禦線
第千二百三十四防禦線
第千二百三十五防禦線
第千二百三十六防禦線
第千二百三十七防禦線
第千二百三十八防禦線
第千二百三十九防禦線
第千二百四十防禦線
第千二百四十一防禦線
第千二百四十二防禦線
第千二百四十三防禦線
第千二百四十四防禦線
第千二百四十五防禦線
第千二百四十六防禦線
第千二百四十七防禦線
第千二百四十八防禦線
第千二百四十九防禦線
第千二百五十防禦線
第千二百五十一防禦線
第千二百五十二防禦線
第千二百五十三防禦線
第千二百五十四防禦線
第千二百五十五防禦線
第千二百五十六防禦線
第千二百五十七防禦線
第千二百五十八防禦線
第千二百五十九防禦線
第千二百六十防禦線
第千二百六十一防禦線
第千二百六十二防禦線
第千二百六十三防禦線
第千二百六十四防禦線
第千二百六十五防禦線
第千二百六十六防禦線
第千二百六十七防禦線
第千二百六十八防禦線
第千二百六十九防禦線
第千二百七十防禦線
第千二百七十一防禦線
第千二百七十二防禦線
第千二百七十三防禦線
第千二百七十四防禦線
第千二百七十五防禦線
第千二百七十六防禦線
第千二百七十七防禦線
第千二百七十八防禦線
第千二百七十九防禦線
第千二百八十防禦線
第千二百八十一防禦線
第千二百八十二防禦線
第千二百八十三防禦線
第千二百八十四防禦線
第千二百八十五防禦線
第千二百八十六防禦線
第千二百八十七防禦線
第千二百八十八防禦線
第千二百八十九防禦線
第千二百九十防禦線
第千二百九十一防禦線
第千二百九十二防禦線
第千二百九十三防禦線
第千二百九十四防禦線
第千二百九十五防禦線
第千二百九十六防禦線
第千二百九十七防禦線
第千二百九十八防禦線
第千二百九十九防禦線
第千三百防禦線
第千三百一防禦線
第千三百二防禦線
第千三百三防禦線
第千三百四防禦線
第千三百五防禦線
第千三百六防禦線
第千三百七防禦線
第千三百八防禦線
第千三百九防禦線
第千三百十防禦線
第千三百十一防禦線
第千三百十二防禦線
第千三百十三防禦線
第千三百十四防禦線
第千三百十五防禦線
第千三百十六防禦線
第千三百十七防禦線
第千三百十八防禦線
第千三百十九防禦線
第千三百二十防禦線
第千三百二十一防禦線
第千三百二十二防禦線
第千三百二十三防禦線
第千三百二十四防禦線
第千三百二十五防禦線
第千三百二十六防禦線
第千三百二十七防禦線
第千三百二十八防禦線
第千三百二十九防禦線
第千三百三十防禦線
第千三百三十一防禦線
第千三百三十二防禦線
第千三百三十三防禦線
第千三百三十四防禦線
第千三百三十五防禦線
第千三百三十六防禦線
第千三百三十七防禦線
第千三百三十八防禦線
第千三百三十九防禦線
第千三百四十防禦線
第千三百四十一防禦線
第千三百四十二防禦線
第千三百四十三防禦線
第千三百四十四防禦線
第千三百四十五防禦線
第千三百四十六防禦線
第千三百四十七防禦線
第千三百四十八防禦線
第千三百四十九防禦線
第千三百五十防禦線
第千三百五十一防禦線
第千三百五十二防禦線
第千三百五十三防禦線
第千三百五十四防禦線
第千三百五十五防禦線
第千三百五十六防禦線
第千三百五十七防禦線
第千三百五十八防禦線
第千三百五十九防禦線
第千三百六十防禦線
第千三百六十一防禦線
第千三百六十二防禦線
第千三百六十三防禦線
第千三百六十四防禦線
第千三百六十五防禦線
第千三百六十六防禦線
第千三百六十七防禦線
第千三百六十八防禦線
第千三百六十九防禦線
第千三百七十防禦線
第千三百七十一防禦線
第千三百七十二防禦線
第千三百七十三防禦線
第千三百七十四防禦線
第千三百七十五防禦線
第千三百七十六防禦線
第千三百七十七防禦線
第千三百七十八防禦線
第千三百七十九防禦線
第千三百八十防禦線
第千三百八十一防禦線
第千三百八十二防禦線
第千三百八十三防禦線
第千三百八十四防禦線
第千三百八十五防禦線
第千三百八十六防禦線
第千三百八十七防禦線
第千三百八十八防禦線
第千三百八十九防禦線
第千三百九十防禦線
第千三百九十一防禦線
第千三百九十二防禦線
第千三百九十三防禦線
第千三百九十四防禦線
第千三百九十五防禦線
第千三百九十六防禦線
第千三百九十七防禦線
第千三百九十八防禦線
第千三百九十九防禦線
第千四百防禦線
第千四百一防禦線
第千四百二防禦線
第千四百三防禦線
第千四百四防禦線
第千四百五防禦線
第千四百六防禦線
第千四百七防禦線
第千四百八防禦線
第千四百九防禦線
第千四百十防禦線
第千四百十一防禦線
第千四百十二防禦線
第千四百十三防禦線
第千四百十四防禦線
第千四百十五防禦線
第千四百十六防禦線
第千四百十七防禦線
第千四百十八防禦線
第千四百十九防禦線
第千四百二十防禦線
第千四百二十一防禦線
第千四百二十二防禦線
第千四百二十三防禦線
第千四百二十四防禦線
第千四百二十五防禦線
第千四百二十六防禦線
第千四百二十七防禦線
第千四百二十八防禦線
第千四百二十九防禦線
第千四百三十防禦線
第千四百三十一防禦線
第千四百三十二防禦線
第千四百三十三防禦線
第千四百三十四防禦線
第千四百三十五防禦線
第千四百三十六防禦線
第千四百三十七防禦線
第千四百三十八防禦線
第千四百三十九防禦線
第千四百四十防禦線
第千四百四十一防禦線
第千四百四十二防禦線
第千四百四十三防禦線
第千四百四十四防禦線
第千四百四十五防禦線
第千四百四十六防禦線
第千四百四十七防禦線
第千四百四十八防禦線
第千四百四十九防禦線
第千四百五十防禦線
第千四百五十一防禦線
第千四百五十二防禦線
第千四百五十三防禦線
第千四百五十四防禦線
第千四百五十五防禦線
第千四百五十六防禦線
第千四百五十七防禦線
第千四百五十八防禦線
第千四百五十九防禦線
第千四百六十防禦線
第千四百六十一防禦線
第千四百六十二防禦線
第千四百六十三防禦線
第千四百六十四防禦線
第千四百六十五防禦線
第千四百六十六防禦線
第千四百六十七防禦線
第千四百六十八防禦線
第千四百六十九防禦線
第千四百七十防禦線
第千四百七十一防禦線
第千四百七十二防禦線
第千四百七十三防禦線
第千四百七十四防禦線
第千四百七十五防禦線
第千四百七十六防禦線
第千四百七十七防禦線
第千四百七十八防禦線
第千四百七十九防禦線
第千四百八十防禦線
第千四百八十一防禦線
第千四百八十二防禦線
第千四百八十三防禦線
第千四百八十四防禦線
第千四百八十五防禦線
第千四百八十六防禦線
第千四百八十七防禦線
第千四百八十八防禦線
第千四百八十九防禦線
第千四百九十防禦線
第千四百九十一防禦線
第千四百九十二防禦線
第千四百九十三防禦線
第千四百九十四防禦線
第千四百九十五防禦線
第千四百九十六防禦線
第千四百九十七防禦線
第千四百九十八防禦線
第千四百九十九防禦線
第千五百防禦線
第千五百一防禦線
第千五百二防禦線
第千五百三防禦線
第千五百四防禦線
第千五百五防禦線
第千五百六防禦線
第千五百七防禦線
第千五百八防禦線
第千五百九防

HP『海軍砲術学校』公開史料

（訓示ノ書例）

甲隊機密第四七五號

出征ニ就キ麾下將校ニ訓示

今ヤ我艦隊ハ上命ニ基キ、當港ヲ發シテ戰境ニ赴カントスルニ際シ、茲ニ將來ノ作戰ニ就キ本職カ麾下將校一同ニ期待スル處ヲ訓示セントス、抑モ這回ノ戰爭ハ帝國興廢ノ由テ繫カル處、而カモ全局ノ勝敗ハ一ツニ海上作戰ノ結果ヲ以テ定ルカ故ニ、我艦隊ノ責任ハ邦家ノ隆替ヲ荷フテ重且ツ大ナリト謂フ可シ、此行素ヨリ敵ヲ索メテ之ヲ殲滅スルニ在レハ上下死力ヲ竭シテ此目的ヲ達セサル可ラスト同時ニ若シ之ヲ遂ケサランニハ再ヒ此鄕土ヲ踏マサルノ覺悟アルヲ要ス、若シ夫レ作戰ノ業務ニ關シテハ始終左ノ諸項ヲ服膺シテ、對敵ノ後寸毫ノ遺憾ナカランコトヲ望ム

一、作戰ノ萬事警戒ヲ第一トス、事アルニ臨ミ意外ノ不覺ヲ取ルハ我カ警戒足ラスシテ敵ノ爲ニ乘セラルヽノ虛アルニ原因スルモノ多シ、「油斷大敵」ナリ寤寐ニモ怠慢アル可ラス

二、對敵ノ行爲ハ斷行敢爲ヲ可トシ、狐疑猶豫ヲ不可トス、夫レ戰況ハ千變萬化シテ、豫メ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

之レニ對シ策定ヲ指示スル能ハス、斯ノ如キ時ニ當リ當該指揮官ハ各其見ル處ニ從ヒ爲スヘキ處ヲ獨斷スヘシ、假令之レカ爲ニ効果ノ見ルヘキモノナキモ、尙ホ爲スハ爲サ、ルニ優ルコト萬々ナリ

三、戰鬪準備ノ目的ハ我艦船構造上ノ弱點ヲ補除シテ其防禦力ヲ增大スルニ在リ、故ニ苟モ此目的ニ合フモノハ規定ノ有無ニ拘ラヾ各其職責ニ準シテ爲シ得ル限リノ手段ヲ盡スヲ要ス、一事ノ粗漏遂ニ全艦ノ行動ヲ澁滯シ、一艦ノ異變率ヒテ全軍ノ覆滅ヲ招キタル實例頗ル多シ、凡テ事ノ何タルヲ問ハス人力ノ及フ限リヲ盡シ而テ後天命ニ委スルヲ可トス

四、已ニ敵ト對シタル後ハ又防禦ヲ言フノ要無ク、唯タ攻擊ノ一方アルノミ、蓋シ積極ノ攻擊ハ最上ノ防禦ニシテ我攻擊ニ依テ敵ノ砲火ヲ擊壓スレハ取リモ直サス我防禦力ヲ無限ニ增大シタルニ均シ、故ニ合戰ニ臨ミテハ勇往敢爲一ツニ攻擊ニ全力ヲ專注スルヲ要ス、予ハ敵ノ魚雷ヲ恐レテ避退ノ運動ヲ執ランヨリハ寧ロ我魚雷ヲ發射シテ敵ヲ轟沈シ得ルノ距離ニ近ツカント欲スルモノナリ

五、下瀨彈ハ今回ノ作戰ニ予カ主用セントスル最强ノ武器ナリ、而カモ其百發百命ヲ期セント欲セハ須ク先ツ敵艦射距離ノ測定及通報ヲ確實迅速ナラシメ且ツ彈着ニ依リ射距離ヲ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

修正スルノ方法ヲ講セサル可ラス、我艦船ノ多數未タ之レニ對スル設備完全ナラサルヲ以テ主務將校タルモノ尚ホ充分ノ工夫ヲ凝ラシ置クヲ要ス

六、予ハ平素ノ練磨ニ依リ我下士卒現有ノ技能ニ信頼スト雖モ、戰場ノ經歷少ナキモノハ合戰ニ臨ンテ心氣激昂シ、爲ニ其術力ノ多分ヲ亡失スヘキヲ豫想ス、故ニ將校タルモノハ其沈着ナル態度ト勇敢ナル行爲ニ依リ部下ノ士氣ヲ制御シ、以テ彼等術力ノ減退ヲ補ハサル可ラス、特ニ酣戰砲丸雨飛ノ際ニハ勝戰ニ於テモ尚ホ士氣ノ沮喪ヲ免レサルヲ以テ此際ニ於ケル將校ノ擧止最モ留意ヲ要ス

七、古兵家曰ク凡ソ兵戰ノ場生ヲ幸スルモノハ敗レ、死ヲ必スルモノハ勝ツト、故ニ全軍ノ上下ハ唯タ必死ヲ以テ必勝ヲ獲得セサル可ラス、而カモ大膽ノ行爲ハ最モ安全ノ方法ナルコトヲ銘記スヘシ

年　月　日

甲艦隊司令長官　　姓　名

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

（法令ノ書例）

甲隊法令第六一四號

自今麾下艦船ハ毎日午前十時計數信號ヲ以テ石炭現在額噸數及眞水現在額噸數ヲ逐次ニ報告スヘシ

年　月　日

甲艦隊司令長官　姓　名

乙隊法令第六一五號

常備艦隊軍艦日課週課中別紙ノ通リ改定シ渤海灣内航泊中當隊限リ之ヲ實施セシム

年　月　日

別紙ハ畧ス

乙艦隊司令長官　姓　名

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

（作業豫定表ノ書例）

自七月二十日
至八月十五日　第一戰隊作業豫定表

所在	月日	艦名	初瀬	朝日	富士	三笠	記事
青	（日曜）七月廿日		週課通リ				半舷上陸ヲ許ス
	仝 廿一日		各艦一般操練				此間餘時アレハ各艦適宜内筒砲射撃ヲ施行ス
	仝 廿二日						
	仝 廿三日		旗信一般操練				
	仝 廿四日						
	仝 廿五日		（午前）右仝（午后）豊島海戰紀念端舟競漕				
	仝 廿六日		（午前）將校兵棋演習其他週課通リ				
森	仝（日曜）廿七日		週課通リ				半舷上陸ヲ許ス
	仝 廿八日		各艦一般操練若クハ内筒砲射撃				

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

陸奥灣内	仝廿九日	艦砲射撃	艦砲射撃	水雷發射	水雷發射
	仝三十日	右仝	右仝	右仝	右仝
	仝卅一日	水雷發射	水雷發射	艦砲射撃	内筒砲射撃
	八月一日	右仝	右仝	右仝	艦砲射撃
青森	仝二日	（午前）將校艦載水雷艇ニテ艦隊對抗運動其他週課通リ			
	仝三日（日曜）	週課通リ			
大湊	仝四日	小銃及野砲射撃並ニ艦載水雷艇水雷發射			
	仝五日				
陸奥灣内	自仝六日至仝八日	四季演習			
函館	仝九日	四季演習講評其他週課通リ			
	仝十日（日曜）	週課通リ			

陸奥灣内	此間各艦青森錨地ニ歸泊スルト否トハ隨意トス
青森	半舷上陸ヲ許ス
大湊	右仝
函館	半舷上陸ヲ許ス
函館	右仝

四日早朝大湊ニ廻航ス砲銃射撃ハ射的地ノ都合ニ依リ繰更ヘルコトアルヘシ

演習終結後函館ニ廻航ス

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

室蘭	仝十一日	室蘭ニ廻航途上艦隊運動	
	仝十二日	石炭搭載	入湯上陸ヲ許ス
	仝十三日	艇砲射撃	右仝
	仝十四日	艇砲射撃	半舷上陸ヲ許ス
	仝十五日	航海準備其他適宜	右仝

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

第二章　報告及通報

第一節　報告及通報ノ種別

○凡ソ各級指揮官ハ其直屬セル上級指揮官ニ對シ其任務ヲ遂行セル顚末、其他自己ノ率フル部隊及之レニ對スル敵軍ノ情況等ニ就キ具申スヘキ責任ヲ有スルノミナラス、其任務上ノ干繫ヨリ隣接部隊等ニ相互ノ事情ヲ通知スヘキモノトス。前者ハ之ヲ報告ト謂ヒ、後者ハ之ヲ通報ト稱別ス

○報告ハ其事項ノ種類ニ準ヒ之ヲ左ノ三種ニ區別ス

(一)任務報告　(二)事件報告　(三)情況報告

一、任務報告ハ作戰、戰鬪、作業、偵察、視察、哨戒、搜索等ノ如キ凡テ命セラレタル任務ニ關スル臨時ノ報告ニシテ、其任務ノ種類ニ準ヒ戰鬪報告、視察報告等ト冠稱ス。而テ其任務結了後直ニ之ヲ進達スヘキモノトス

二、事件報告ハ遭遇ノ事件又ハ不時ノ事變等ニ關スル臨時ノ報告ニシテ、其事件ノ種類ニ準ヒ遭難報告、衝突報告等ト冠稱ス。而テ其事件ノ發生シタル後直ニ進達スヘキモノトス

三、情況報告ハ任務、事件等ノ有無如何ヲ問ハス、凡テ現在ノ情況ニ關スル定期又ハ臨時ノ報告ニシテ其敵軍若クハ外部ノ情況ニ關スルモノヲ外情報告ト謂ヒ、自隊若クハ自艦ニ關スルモノヲ內情報

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

告ト謂フ。而テ是亦其觀察實見セル事項ノ種類ニ準シ、敵情報告、艦船現狀報告、衞生現狀報告等ト冠稱シ、必要ニ應シテ定期又ハ臨時ニ進達スヘキモノトス

前記各種ノ報告、特ニ任務及事件報告ハ發報ノ粗密及時期ニ準ヒ、之ヲ概報、詳報及時報ニ分類ス。概報ハ迅速ヲ主旨トシ概要ヲ速報スルモノニシテ、時宜ニ依リ口頭、信號若クハ電信等ヲ以テ之ヲ發送ス。詳報ハ概報ヲ進達シタル後、尙ホ精査ヲ遂ケ詳細ノ顚末ヲ具報スルモノニシテ、大抵文書ヲ以テ之ヲ發送ス。又時報ハ長時日ニ亘レル作戰、作業等ニ於テ或ル時期間ノ經過等ヲ報告スルモノニシテ、其時期ニ準シ、之ヲ日報、週報、月報等ト稱別ス

又情況報告ノ連續シテ數回ニ發送サル、モノハ之ヲ第何回報告ト冠稱スルヲ例トス

○通報ハ凡テ報告ニ類似スト雖モ、其主要ナルモノハ情況ニ關スルモノナリ。故ニ特ニ其種別ヲ設ケスシテ、單ニ某隊通報ト總稱ス。又自隊ノ行動若クハ事情等ヲ隣接部隊ニ通知スルニハ、之レニ用ヒタル令達及報告文書ニ(通報)ト捺印シ、其儘通報ニ代ユルコトアリ

第二節　報告及通報ノ要義并文法

○令達ヲ以テ上意ヲ下達シ軍隊ノ任務ヲ遂行スル命脈トスレハ、報告及通報ハ下情ヲ上達シ且ツ友隊ノ事情ヲ疏通シ、以テ上級指揮官ノ計畫施設ヲ資ケ、全軍ノ意志ヲ融合シテ協同ノ目的ヲ達成シムル唯一ノ神經ナリトス。良好ナル作戰計畫ハ大抵適切ナル報告ノ參考ニ成リ、有効ナル協同動作ハ主ト

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

シテ機宜ノ通報ニ促サル、モノ多シ

○報告及通報ヲシテ受報者ノ要求ニ適應シ且ツ必要ノ時機ニ到達セシメンニハ、確實ニシテ迅速ナラサル可ラス。不確實ナル報道ハ受報者ヲ利セサルノミナラス、却テ誤算ノ原因ヲ成スヘシ。又確實ナルモ遲緩ナルモノハ、時機ニ後レテ是亦受報者ヲ益スルコト無シ。故ニ確實ト迅速ハ両立スルヲ要ス、特ニ戰時ノ敵情報告及通報ニ於テ然リトス。而テ敵情等ヲ確實ナラシムルニハ其兵力、時刻、地所及動靜ノ四要件ヲ具備セサル可ラス。此四件ノ内其一ツヲ欠ケル報告ハ其價値ノ過半ヲ失フ。例ハ左ノ敵情報告ニ於テ、若シ其ノ一要件ヲ欠ケリトセハ、受報者ノ參考トシテ何等得ル處ナキカ如シ

〔例〕午前六時四十分（時刻）、敵艦四隻（兵力）内巡洋艦二隻、一八九地點（地所）ニアリテ、北々東（動靜）ニ向針シ其速力約十四節ナリ

又報告ハ之ヲ確實ナラシムルノ主旨ニ基キ、其出所ヲ明示シ、自己ノ目擊セル處ト、他ヨリ聞知セル處及其推測ナルヤ否ヤヲ判然差別スルヲ要ス。例ハ「哨艦ノ目擊報告スル處ニ據レハ云々」「漁民（捕虜）ノ言ニ據レハ云々」或ハ「推測スルニ云々」等ト記スルカ如シ

報告及通報ヲ迅速ナラシメンニハ、其章句ヲ簡短ニシ文意ヲ明瞭ナラシムルコト最モ必要ナリ。報告ヲ概報及詳報ニ分類シタルモ、主トシテ此主旨ニ基ケルモノニテ、先ツ即時ニ簡短ナル概報ヲ發シテ受報者ノ參考ニ資シ、次テ詳報ヲ提出シテ發報者ノ職責ヲ全フスルニ外ナラス。而テ其迅速ノ程度ニ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

ハ定限ナシト雖モ、情況ノ變化測リ難キ場合等ニ於テ倉卒ニ瞥見セル處ヲ報知スルトキハ、往々直ニ之ヲ取消シ若クハ改正セサル可カラサルコトアルカ故ニ、發報者ハ至急ヲ要スト認ムルトキノ外、勉メテ情況ノ變化ニ着眼シ、畧ホ確實ナル判斷ヲ得ルニ及ンテ發報スルヲ可トス。例ハ交戰中意外ノ邊ニ敵ノ新兵力ヲ發見シタル場合等ニハ直ニ之ヲ即報スヘキモ、既知ノ敵軍カ其擧動ヲ變スル等ノ場合ニハ暫時其動靜ヲ監視シ畧ホ確實ト認ムルニ至リテ發信スルカ如シ

○報告及通報ノ文法ニ關スル通則ハ凡テ令達ノモノト異ル處無シ。然レトモ詳報等ハ事實及情況ヲ詳記スルモノナルヲ以テ、其叙事明劃ナラサレバ受報者ヲシテ其長文ノ要領ヲ會得シ、之ニ對スル處理ヲ速ニスル能ハサラシム。凡テ任務報告ノ叙事ハ形勢、計畫、實施、成績及所見ノ五段ニ分劃シ、事件報告ノモノハ事件前ノ情況、事件中ノ情況及措置幷ニ事件後ノ結果及措置ノ三段ニ分劃シ、又情況報告ノモノハ報告セントスル事項ノ種類及範圍等ニ準シテ數段ニ分劃スルヲ明瞭ナリトス。固ヨリ報告ノ種類ニ依リ必スシモ前記ノ叙事法ニ則リ難キコトアリト雖モ、大体ニ於テ此要領ニ準據スルヲ受報者ノ閲覧及處理ヲ便易ナラシムルモノナリ。仍チ左ニ任務報告ノ一例ヲ掲ケテ參照ニ供ス

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

二驅機密第二〇四號

第二驅逐隊行動（戰鬪）詳報

於竹敷　三十六年九月五日

第二驅逐隊司令　某

一、形　勢（彼我一般ノ情勢）

此項ニハ發動前ニ於ケル敵情、彼我兵力ノ配備對勢並ニ當時ノ天候等ヲ記スルモノトス、但シ其必要ナケレハ省略シテ可ナリ

二、計　畫（我目的、企圖及方案）

此項ニハ行動（戰鬪）ニ關シ受ケ又ハ發シタル命令、訓令、規約、報告、通報幷ニ之レカ爲メ施行シタル準備作業等ヲ列記シ、凡テ對敵ノ目的企圖及方案ヲ明ニス

三、實　施（行動若ハ戰鬪ノ經過）

此項ニハ行動（戰鬪）ヲ實施シタル經過幷ニ其間ニ起リタル事件ヲ時刻ニ準ヒ列記シ、彼我ノ運動對勢等ハ行動圖及合戰圖ヲ以テ示スモノトス

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

行動(戰鬪)中臨機發受シタル命令報告等ハ本項記事ノ中ニ記入スルヲ可トス

四、成　績(行動若クハ戰鬪ノ結果)

此項ニハ行動(戰鬪)ニ因テ収メ得タル成果及事後ニ於ケル情勢ノ變化等ヲ叙シ又彼我ノ損害、死傷、俘虜、鹵獲等ノ程度狀態、兵器需品、材料等ノ消耗數量幷ニ現狀等ヲ細記スルモノトス

而テ死傷、俘虜、鹵獲、消耗兵器、需品、人名、員數等ハ別表トシテ附スヘキモノトス

五、所　見

此項ニハ此行動(戰鬪)ニ於ケル計畫及實施ノ利害得失並ニ此行動(戰鬪)ノ成果ヲ得ルニ至ラシムルニ格段ノ與力アリタル部下ノ功績等ヲ記シ、又戰后ニ於ケル敵狀ノ判斷、之ニ對シ我カ執ラントスル將來ノ企圖、意圖、意見及希望等ヲ附加スルモノトス

第一艦隊司令長官　某　殿

(附　記)

一、本例ハ行動(戰鬪)詳報ノ書例ヲ示スモノニテ、偵察、視察、作業等ノ如キ任務報告書例ハ多少

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

其項目ヲ異ニス、但シ大体ニ於テ本例ノ要領ニ準フヲ明瞭ナリトス

二、事件報告ノ書例ハ任務報告ニ準スト雖モ、其項目ハ事件ノ種類ニ依リ主トシテ事件前ノ情況、事件中ノ情況及措置並ニ事件後ノ結果（則チ事件ニテ生シタル損害等ノ程度）及執ラントスル措置等ニ分別シテ記載スルモノトス

又所見ヲ添フルノ必要アレハ之ヲ最後ニ記スルモノトス

三、情況報告ノ書式モ任務報告ニ準ス但シ其項目ハ情況ヲ報告セントスル事項ノ種類及範圍等ニ依リ分別スルモノトス

例ハ某防備隊ノ情況報告ニ於テハ左ノ數項ニ分別スルカ如シ

一、兵力配備ノ變更　二、防禦工事ノ程度　三、通信機關ノ增設　四、給與ノ現狀　五、衞生ノ現狀　六、所見

又某部隊ノ教育現狀報告ニ於テハ教育組織ノ範圍ニ依リ砲術、水雷術、運用術、信號及轉舵術、機關術等ノ數項ニ分ツカ如シ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

第三章　通信

第一節　通信法ノ種類

○凡ソ二人以上ノモノ相結合シテ全一ノ事業ニ從フトキハ必ス其意志ノ交通ヲ要ス。故ニ人類ハ自然ノ必要ニ應スヘキ言語ヲ有シ、其聽官ノ聞識シ得ル距離内ニ於テハ、能ク之ヲ以テ相互ノ意志ヲ談通ス。然レトモ此距離以外ニ隔離スルトキハ、他人ノ遞傳若ハ文字、記號等ノ媒介ニ依ラサル可ラス。此ニ於テ通信ノ必要ヲ生ス

軍事ニ於テ通信ノ欠ク可ラサルハ言フヲ俟タス。軍隊ノ命脈タル令達、報告及通報等ハ皆ナ通信ノ媒助ニ依リ其通達ヲ全フスルモノニシテ、小ハ一戰場ニ於ケル司令部ト戰鬪部隊間ノ近距離通信ヨリ、大ハ遠距離ニ隔離セル大本營ト出征艦隊司令部間ノ交通ニ至ル迄、一ツトシテ通信力ノ普及セサル處アラサルナリ

○通信法ヲ大別シテ左ノ三種トス

一、文書通信　二、信號通信　三、電氣通信

通信ハ其通達ノ確實ト迅速ヲ並備スルヲ要スト雖モ、通信法ノ種類ニ依リ機力上ノ長短アルヲ免レス。文書通信ハ最モ確實ニシテ精密ナルモ、其速度迅速ナラス。信號通信ハ簡便ナルモ粗畧ニシテ遠

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

距離ニ達セス。電氣通信ハ最モ迅速ニシテ且ツ確實ナルモ其設備ナキ處ニ用フル能ハス。何レモ長短利害アルカ故ニ、通信事項ノ種類ニ準シ此等ヲ適用スルヲ要ス

○文書通信ハ方今印刷機ノ發達ニ依リ大ニ其速度ヲ增加セリ。作戰命令等ヲ近距離ニアル多數ノ受令者ニ傳達スル場合等ニハ、各部隊若クハ各艦ヨリ受令者ヲ召集シテ口達シ或ハ信號ヲ以テスルヨリモ、却テ多數ノ通信艇ヲ利用シ文書ニテ發送スルヲ迅速且ツ確實ナリトス。凡ソ令達ト報告ノ別ナク、多少重要ナルモノハ口頭ヲ以テ傳達ス可ラス、口頭ハ受信者ヲ招致シテ直接ニ傳達スルモ、尙ホ意義ノ誤解若クハ要件ノ忘却等ヲ來タスノ虞アリ、特ニ間接ニ使者ヲ經由シテ受信者ニ達スルトキハ益々此過失ヲ增加ス。故ニ口頭ヲ以テ令達スル場合等ニハ、文書ニ準シテ之ヲ筆記復誦セシムルヲ可トス。然レトモ近時ノ最良ナル謄寫機ハ能ク一時間ニ數百枚ヲ印刷シ得ルカ故ニ、受信者多數ナルトキハ筆記セシムルヨリモ謄寫シテ配布スルヲ却テ迅速ナリトス

艦隊ニ於テハ文書通信ヲ送達スル爲メ、各部隊ニ一隻以上ノ通信瀛艇ヲ常置スルヲ要ス。特ニ最高司令部ノ旗艦ニハ傳令用トシテ數隻ノ驅逐艦若クハ水雷艇ヲ附屬スルヲ可トス。又隊外遠距離通信ノタメニハ通報艦若クハ通信船ノ常置ナカラサル可ラス。文書通信ノ速度ハ主トシテ此等通信艦艇ノ隻數ト其速力ニ正比例スルモノナリ

艦隊航行中ニ文書通信ヲ送達スルニハ通信用水雷艇ヲ艦側ニ來ラシメ、竿頭ニ封書ヲ附着シテ授受ス

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

ルヲ簡便ナリトス。近時文書送達器ヲ艦尾ヨリ浮流シテ單縦陣ヲナセル艦隊ノ文書通信ニ用フト雖モ、未タ至便ト謂フニ至ラス

遠距離文書通信ノ一種トシテ、今日モ尚ホ傳書鴿ヲ使用スルコトアリ。然レトモ多年ノ實驗ニ依ルニ、傳書鴿ハ屢々其途ヲ失ヒ或ハ途中他鳥ニ獲殺サル、コト多キヲ以テ其通達頗ル不確實ナリ。加之之ヲ有効ニ使役セントセハ長時日ノ間一所ニ於テ訓練シ、所要ニ瀕ンテ他所ニ移サヽル可ラサルノ不便アリ。且ツ充分訓育シタルモノモ其最大通信距離ハ六十浬ニ超フルコト稀ナリ。故ニ無線電信ノ發達セル今日ニ於テハ此ノ如キ不便不確實ナル通信ニ依賴スルノ要無シ

○信號通信ハ簡短ナル近距離通信ニ適應シ、特ニ晝間ハ旗旒信號ヲ用ルヲ最モ迅速ニシテ且ツ確實ナリトス。信號法整良ニシテ信號書精備スルトキハ益々其効用ヲ大ニス。然レトモ手旗及發光信號ハ片仮名符ヲ用フルカ故ニ、比較的長時間ヲ要スルノミナラス、往々誤讀ノ虞アリ、特ニ中繼者ノ數ヲ增スニ從ヒ然リトス

信號ノ速度ハ信號術ヨリモ主トシテ信號法ノ良否ニ關係ス。信號法ニ於テ最モ必要ナルモノハ隊號、艦名、地名等ニ附與スヘキ符字ノ制定是ナリ。若シ之レ無カリセハ呼ンテ應セス、通シテ解スル能ハサルヘシ。特ニ隊號、艦名ニハ呼稱ノタメ必要ナル第二人稱及第三人稱ノ區別アルヲ要ス。此故ニ新ニ一部隊ヲ編成シ或ハ臨時ニ特定地點ヲ設クル等ノ場合ニハ、必ス此符字ノ制定ヲ忘ル可ラス。又信

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

文ハ之ヲ單語、連語及文章ノ三種ニ分類シ、作戰等ニ必要アルヘキ信文ハ凡テ文章ヲ用ヒ、一字若クハ二字ノ符字ニテ之ヲ表示セシムルヲ可トス。然ラサレハ著シク通信速度ヲ減シ、緊急ノ要求ニ應セシムルコト難シ

○電氣通信ハ無線及有線電信幷ニ電話ニシテ、其迅速ナルト通達距離ノ大ナル故ヲ以テ、遠距離通信ニハ最モ適應スルモノナリ。然レトモ近距離通信ニ於テハ其速度却テ信號ニ及ハサルコトアルノミナラス、無線電信ニテハ爲ニ遠距離通信ヲ阻害スルヲ以テ、已ムヲ得サルノ外之ヲ用ヒサルヲ可トス。又戰時ニ於テハ作戰ニ關スル通信ノ速度分秒ノ遲速ヲ爭フカ故ニ、不急ノ通信等ハ勉メテ之レニ據ラサルヲ要ス。又電話ハ電信ニ比シ其通達迅速ナリト雖モ、口頭通信ノ如ク誤解忘却等ノ虞アルカ故ニ常ニ筆記復誦セシムルコト最モ必要ナリ

電信ノ速度ハ其技術ニ由ル處多シト雖モ、是亦信號ノ如ク符字暗號ニ依リ字數ヲ省略シ得ルナリ。特ニ敵前ニ用フル無線電信ハ妨信及混信ヲ豫期セサル可ラサルヲ以テ、爲シ得ル限リ簡短ナル畧符ヲ用ヒサル可ラス

有線電信ハ線數並ニ現字機ノ單送式、複送式及重複送式ナルトニ依リ著シク其速度ヲ消長ス。故ニ戰時ニ當リ通信ノ輻輳スヘキ通信幹線等ニハ少クモ貳線以上ニ複送式現字機ヲ裝置シタルモノヲ撰ムヲ可トス

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

海陸ノ電氣通信ノ連絡ヲ確實且ツ迅速ナラシメンニハ、海岸ニ達スル有線電信ノ端末ニ無線電信所ヲ設置スルノ必要アリ。若シ之レ無キ場合ニ於テハ無線電信機ヲ裝備セル通信船ヲ其地ニ碇泊セシメ之レニ代用セサル可ラス。特ニ海岸望樓等ニ於テ無線電信ノ設備ナキモノハ殆ント其効用ノ半ハヲ減シ、之レカ爲メ作戰ニ從事スル艦隊ヲシテ徒ニ迂路ヲ取ラシメ、或ハ其兵力ヲ分離セシムルノ己ヲ得ササルニ至ラシムルコトアリ

第二節　通信線ノ系統

○通信ノ速度ハ單ニ通信法ノ適否ニ關係スルノミナラス、又通信線系統ノ整否ニ依リテ消長スルモノナリ。通信線ノ系統混雜スルトキハ、各通信線ヲ通過スル信數ニ過不足ヲ生シ、或ハ多數ノ通信一時ニ一線ニ輻輳シテ漸次ニ其遲滯ヲ來タシ、或ハ有効ナル通信線ヲ無用ニ休止セシムルコトアリ。故ニ通信ノ速度ヲ增加スルニハ、其通信法ヲ撰擇スルト仝時ニ其系統ヲ整理セサル可ラス

○通信線ノ系統ニ二種アリ、分岐線系統及幹線系統是レナリ。此両系統法ハ通信ノ種類及其多寡、通信點ノ遠近及其多寡幷ニ通信機關ノ種類及其數量等ニ準ヒ其應用ノ適否アルモノニテ、其何レヲ執ルヘキカハ時ノ要求ニ應シテ之ヲ撰定スヘキモノトス

○分岐線系統ハ第一圖ニ示スカ如ク、通信基點ヨリ第一分岐點ニ各分岐線ヲ設ケ、更ニ第二分岐點ヨリ分岐線ヲ設クル如クシ、尙必要ニ應シテ第三、第四分岐線ヲ設ケ、且ツ各分岐點ヲ接續スル接續線

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

ヲ設クルコト圖示ノ如クスルモノナリ。此系統法ハ最モ完備シタルモノニテ通信ノ速度モ迅速ナレトモ其機關ニ比較的多大ノ設備ヲ要ス。而テ其設備ニ關スル通則左ノ如シ

一、各分岐點ニ集合スル分岐線ノ數ヲ均一ナラシムルヲ要ス

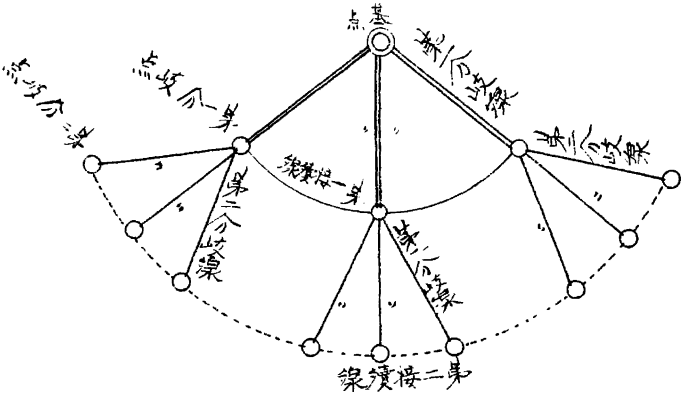
二、少クモ第一分岐線ニハ主副ノ通信裝置ヲ設クルヲ要ス

三、第一分岐線ニハ最モ確實ニシテ迅速ナル機關ヲ撰定スルヲ要ス

四、少クモ第一分岐點ノ接續線ヲ設ルヲ要ス

此系統法ヲ應用スルニハ、例ハ艦隊ノ隊内通信ニ於テ最高司令部ノ旗艦ヲ基點、各戰隊ノ旗艦ヲ第一分岐點トシ、其間ニ第一分岐線タルヘキ確實ナル通信水雷艇ヲ常置シ、更ニ各戰隊ノ旗艦ヨリ其部下ノ諸艦ニ第二分岐線タルヘキ通信瀛艇ヲ設置スルカ如シ

第一圖

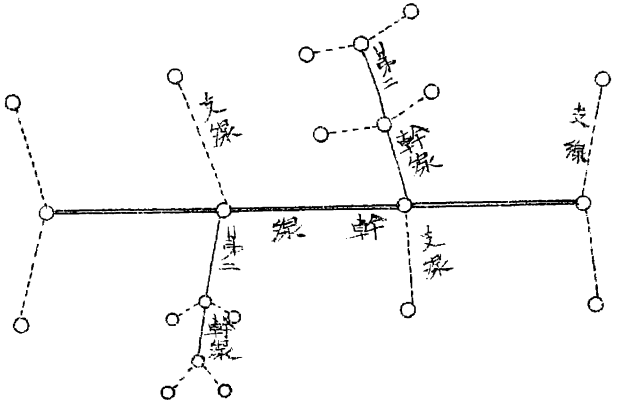


http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

或ハ又之ヲ海岸望楼ノ通信ニ應用スレハ大本營所在地ヲ通信基點、各鎮守府及要港部ヲ第一分岐點トシ、其間ニ貳線以上ヲ有スル電信線ヲ設ケ、更ニ各鎮守府若クハ要港部ヨリ各望楼ニ第二分岐線ヲ設置スルカ如シ

第二圖



○幹線系統ハ第二圖ニ示スカ如ク、重要ナル數個ノ通信點ヲ貫通セル幹線ヲ設ケ、其通信點ヨリ必要ニ應シテ第二幹線若クハ支線ヲ支設スルモノニテ、此法ハ通信線ニ比較的多大ノ設備ヲ要セスシテ、一般通信ノ要求ヲ充タスノ利アリ。然レトモ各通信點ノ通信頻繁ニシテ其交換數一定セサルトキハ其速度分岐線系統ニ及ハス。此欠點ヲ或ル程度迄補足スルニハ第三圖ニ示スカ如ク幹線ヲ回歸線トナスニアリ。而テ其設備ニ關スル通則左ノ如シ

一、幹線上ノ各通信點ニ集合スル支線ノ數ヲ可成的均一ナラシムルヲ要ス

二、幹線ニハ主副ノ通信裝置ヲ設クルヲ要ス

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

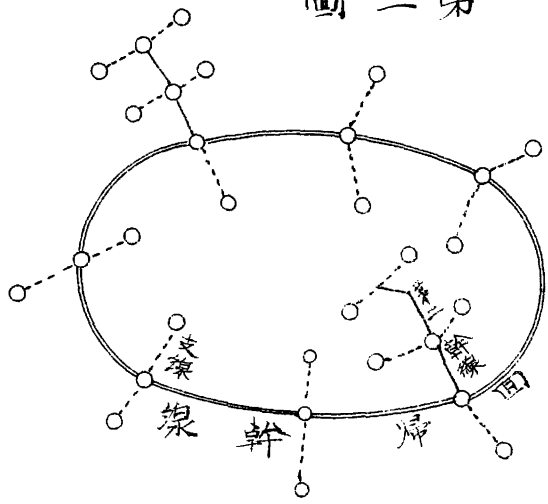
HP『海軍砲術学校』公開史料

三、幹線ニハ最モ確實ニシテ迅速ナル機關ヲ撰定スルヲ要ス

四、幹線ハ可成的回歸線ナラシムルヲ要ス

此幹線系統法ヲ應用スルニハ例ハ艦隊ノ隊内通信ニ於テ最高司令部ノ旗艦及各戰隊ノ旗艦ヲ通シテ通信水雷艇ノ回歸幹線ヲ設ケ、更ニ各旗艦ヨリ其部下艦船ニ對シ通信瀛艇ノ支線ヲ設クルカ如シ。或ハ海岸望樓ノ通信ニ於テ犬本營所在地及各鎮守府其他ノ重要地點ヲ貫通スル通信幹線ヲ設ケ、其幹線上ヨリ各望樓ニ支線ヲ支設スルカ如シ

第三圖



○凡ソ通信區域ノ大小ヲ問ハス、新タニ通信系統ヲ編成セントスルトキハ先ツ前記両系統法ノ何レガ適應スヘキヤヲ撰定シ、然ル後之レニ要スル機關ヲ設置スルヲ順序トス。然レトモ戰時應急ノ場合等ニハ現有スル機關ノ數量等ニ考ヘ、機力ノ許ス可キ系統法ヲ撰マサル可ラサルノミナラス、其系統ヲモ適宜ニ變更セサル可ラス。例ハ或ル作戰地域ニ於テ、地形ニ應スル作戰上ノ要求ハ(甲)地ヨリ(乙)地ヲ經由シ(丙)地ニ至ル通信線ヲ設クルヲ可トスルモ、現ニ設置シアル(甲)地ヨリ(丁)地ヲ經テ(乙)地ニ至ル電信線

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

ノ通信力最モ大ナルカ故ニ、之ヲ幹線ニ撰定スルカ如キ、或ハ又之レニ反シ(甲)地ヨリ(丁)地ヲ經由スルモノハ到底作戰ノ要求ヲ充タサヽルカ故ニ、新ニ(乙)地ヨリ(丙)地ニ新電線ヲ急設スルカ如キコトアリ。斯クノ如ク通信機關ノ現狀ハ作戰ノ要求ニ適應スルコトヽ、然ラサルコトアルカ故ニ、在來機關ノ利用ト新機關ノ設備ハ相須テ考慮ヲ要スルモノナリ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

第四章　航行

第一節　航行ノ種別及要義

○凡ソ平時ト戰時トヲ問ハス、艦隊行動ノ大部分ヲ占ムルモノハ航行ニシテ、其方法宜シキヲ得サルトキハ、行動ノ目的ヲ達成スル能ハサルノミナラス、却テ不慮ノ過失ヲ招クコトアリ。特ニ戰時ノ行動ニ於テ、作戰目的ノ成敗ハ航行ノ正確適良ナルト否トニ起因スルコト多シ

○航行ハ途上ニ於ケル遭敵ノ顧慮ヨリ生スル警戒ノ有無ニ準シ、之ヲ警戒航行及通常航行ノ二種ニ種別ス。艦隊平時ニ於テハ、固ヨリ通常航行ヲ執ルト雖モ、戰時ニ於テハ敵ノ所在、遠近其動靜等ニ準シ、両者孰レヲ執ルヘキカヲ定ムルモノトス。其警戒ノ方法ニ就テハ後段第七章ニ之ヲ詳記ス

航行ハ又艦隊ノ兵力ヲ一團ニ集結シテ全一航路ヲ行進スルト、數團ニ分離シテ別航路若ハ別航程ヲ分進スルトニ依リ、之ヲ集團航行及分離航行ノ二種ニ種別ス。集團航行ハ艦隊全隊ノ意志ヲ疏通シ、其行動ノ連繫ヲ確實ナラシメ、個々ニ敵ヲ受ケサルノ利アリト雖モ、其兵力多大ナルトキハ、途上ニ於ケル混雜ノ虞アルノミナラス、且ツ給與ノ困難ヲ增加スルモノナリ。分離航行ハ之ニ反シ、各部隊間ノ通信連絡ヲ保持スルコト較ヤ難キノ不利アリ。故ニ艦隊指揮官若シ行動若ハ給與上ノ必要等ヨリ分離航行法ヲ執ルトキハ、常ニ通信連絡ニ留意セサルヘカラス

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

○航行ノ種別如何ヲ問ハス、又航行部隊ノ大小、其航程ノ遠近ニ論ナク、航行ノ目的トスル處ハ一ツニ所要ノ兵力ヲ所要ノ時機ニ所要ノ地點ニ到達セシムルニアリ。而シテ此目的ヲ達スルノ要義ハ概子左ニ列記スルカ如シ

一、航路及航程ノ安全ナルコト

(註)危險ナル航路ハ以テ艦隊ヲ進行セシメ難シ。安全ナル航海ハ航路ニ於テ天候、潮候等ニ應スル顧慮幷ニ遭敵ニ對スル豫戒アルヲ要シ、又航程ニ於テ難所要害等ヲ通過スルノ時期ヲ撰マサル可ラス

二、航時ヲ短縮スルコト

(註)凡ソ航時ハ航路ノ屈折少キト航行速力ノ大ナルトニ比例シテ短縮ス。行動ノ迅速ナルハ電光ノ如クナルモ尚ホ疾キニ失セス。迂遠遲緩ナル航行ハ時日ト勞力ヲ徒費スルノミナラス、事變發生ノ機會ヲ增加スルモノナリ。特ニ戰時ノ作戰行動ニ於テ然リトス

三、航程ニ遲速ナキコト

(註)航程ハ終始正確ニ其歩度ヲ進メサル可ラス。是レ他隊若ハ他部トノ連絡ヲ保持シ、全局ノ行動ニ錯誤ナカラシメンカ爲メナリ。特ニ重ンスヘキハ正確ニ目的地點ニ着在スルコトニシテ、其過キタルハ尚ホ及ハサルカ如シ。此節度ヲ得ントセハ、豫メ航行日程ヲ定メ、速力ノ調整ニ依

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

リ、之ニ準據シテ航進スルヲ要ス

四、時辰ヲ整合スルコト

(註)時辰ノ齊一ハ作戰萬事ノ基礎ナリ。特ニ航行ニ於テ時辰不全ナルトキハ、行動ノ連繫得テ望ム可ラス。故ニ航行セル艦隊ハ毎日時ヲ期シテ其時辰ヲ整合スルト全時ニ、其測定位地ヲ一定スルヲ要ス。又標準時ノ制定ナキ地方ニ航スルトキハ、必ス先ツ之ヲ一定シテ其ノ實施ノ區域ヲ全軍ニ豫示セサル可ラス

五、兵力ヲ分散セサルコト

(註)兵力離散シ相前後シテ航行スルトキハ、譬ヒ安全迅速ニ目的地ニ到達スルモ其効用ヲ減少スルノミナラス、途上ニ於ケル遭敵ノ危急ニ即應スルコト難シ。故ニ豫メ適良ナル航行序列及隊形ヲ案畫シテ部隊ノ縱長ヲ緊縮スルト全時ニ終始其ノ整頓ニ力メサルヘカラス

六、異變ニ應急シ得ルコト

(註)航行ノ計畫ニ遺算ナキモ、尙ホ其實施ニ當リ、天候及遭敵等ノ異變ハ往々豫定ヲ齟齬セシメ、兵力ヲ分散セシムルコトアリ。斯クノ如キ場合ニ應スルタメ、豫メ會合點ヲ指定シ置カサル可ラス

七、通信ノ便利ナルコト

(註)航行セル艦隊ハ一時隊外ノ連絡ヲ斷チ、其間往々發受スヘキ緊急ノ通信アルコトアリ。故ニ爲

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

シ得ル限リ通信ノ便利多キ航路及航程ヲ撰ミ、且ツ之レニ要スル配備ナカラサル可ラス。特ニ戰時ノ作戰行動中情況ノ變化豫知スヘカラサル場合ニ於テ然リトス

八、給與ノ容易ナルコト

（註）艦隊ヲシテ目的地ニ到達シタル後、其航續力ヲ保全セシメントセハ、軍需ノ補充ヲ忽ニス可ラス。而カモ航行中ノ給與事業ハ時間ト勞力ヲ要スルコト多ク、洋中給與ノ困難ナル場合ニハ寄泊給與ニ依ルヲ要スルコトアリ。此等ノ要求ニ對シ航路及航程ハ可成的給與ノ容易ナルモノタルヲ要ス

九、軍需ヲ經濟スルコト

（註）已ニ給與ノ困難アリトセハ常ニ軍需（特ニ燃料）ノ經濟ヲ圖ラサル可ラス。航時ヲ短縮スルタメ航行速力ハ多々益々大ナルヲ可トスト雖モ、亦炭水ノ消耗ヲ節約シテ航續力ノ伸長ニ顧慮スルヲ要ス

○如上ノ諸要義ハ航行ノ計畫實施ニ當リ、何レモ服膺考慮スヘキモノナリ。固ヨリ行動ノ情況ニ依リ其重要ノ程度ヲ異ニスト雖モ、若シ其得失相矛盾スルトキハ概シテ前段列記ノ順序ニ準ヒ重キヲ措クヲ可トス。故ニ其末項タル給與ノ便易、軍需ノ經濟等ノ如キハ往々度外視セサル可ラサルコトアリ

第二節　航行ノ方法

○凡ソ艦隊航行セントスルトキハ、先ツ其行動ノ要求ニ依リ、通常若ハ警戒航行幷ニ集團若ハ分離航

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

行ヲ執ルヘキカヲ決定シ、然ル後前節ニ列記シタル航行ノ要義ニ則リ、左記ノ既定事項ヲ基礎トシテ之ヲ計畫スルモノトス

一、目的地ニ到達スヘキ時刻

一、途上ノ觸點若ハ要害等ヲ通過スル時刻

一、出入港ニ要スル時間

一、途上ノ行事

一、艦船ノ固有速力及航續力

而テ航行命令トシテ豫メ全隊ニ令達サルヘキ要項左ノ如シ

一、出發及到着時刻

二、航行序列及隊形

三、豫定航路

四、航行日程及航行速力

五、通信連絡ニ必要ナル部署

六、天候其他ノ異變ニ應スル會合點

七、標準時ノ指定及其使用ノ區域（必要アルトキ）

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

八、給與ノ地點及時期

以下此項目ニ準ヒ、航行計畫及實施ノ要領ヲ列記ス

(一)出發及到着時刻ハ前記既定事項及航路ノ距離ヨリ計算サル、モノナリ。而シテ其實施ニ當リ、就中此豫算ヲ齟齬セシムルモノハ出入港ニ要スル時間ノ不同ニシテ、夜中入港ノ危險ヲ顧慮スルトキハ、之レカ爲メ往々一日ノ日程ヲ延期セサル可ラサルコトアリ。出入港ノ時間ハ部隊ノ大小、港灣ノ形勢及碇泊情況等ニ依リ一定セスト雖モ、一齊抜錨法ヲ執ルトキハ、一箇戰隊ノ抜錨ノ初メヨリ航行隊形ノ整頓迄ニ三十分、一箇驅逐隊若ハ艇隊ニ十五分ヲ要スルヲ標準トス。一齊投錨法ヲ以テスル入港投錨ニ要スル時間モ亦之レニ仝シ。(若シ逐次抜錨及投錨法ヲ執ルトキハ此時間ヲ二倍ス)又大艦隊ノ出入港ニ於テハ後續ノ一箇戰隊ヲ增ス毎ニ十分宛ヲ加ヘ、後續ノ一箇驅逐隊毎ニ五分ヲ增加スヘキモノトス。例ハ四個戰隊及二箇驅逐隊ヨリ成ル一艦隊ノ出入港ニ要スル合計時間ハ戰隊一時間、驅逐隊二十分ナリ。然レトモ此標準ハ抜錨投錨ニ熟練セル艦隊ヲ以テ諸種ノ情況順好ナル場合ニ對スルモノニシテ、未練ノ艦隊ヲ以テ不順ノ情況ニ遭遇スルトキハ、往々出入港ニ各半日以上ヲ徒費スルコトアリ。特ニ逐次若ハ便宜投錨抜錨法ヲ執ル場合ニ於テ然ルカ故ニ、大艦隊ノ出入港等ニハ情況ノ許ス限リ各部隊ノ一齊抜錨及投錨法ヲ執ラサル可ラス

(二)航行序列ハ部隊兵力ノ大小幷ニ其行動ノ目的等ニ依リ差異アリト雖モ、大艦隊ノ警戒航行ニ於テハ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

戰隊ノ數ニ準シ、大抵左記ノ序列ヲ執ラシムルヲ通則トス

(一)前衛戰隊若ハ部隊(二)主戰隊(總司令部ノ旗艦獨立セルトキハ主戰隊ノ先頭ニ占位ス)(三)爾餘ノ各戰隊(四)水雷戰隊ノ護衛戰隊(五)各水雷戰隊(水雷戰隊ハ各戰隊ニ配屬スルコトアリ)(六)特務隊ノ護衛戰隊(七)特務隊(八)後衛戰隊若ハ部隊

但シ水雷戰隊及特務隊幷ニ其護衛戰隊ハ別箇ノ梯團トナシ、全隊ノ序列以外ニ立タシムルコトアリ。又通常航行ニ於テハ前衛及後衛戰隊ヲ配置セサルヲ異レリトス

航行隊形ハ時ノ要求ニ應シテ各種ノ陣列ヲ撰ムト雖モ、大抵出入港若ハ狹水道ノ通過等ニハ縱陣列ヲ以テシ、洋中ニ於テハ鱗次陣列若ハ並陣列等ヲ取ルヲ可トス

(三)豫定航路ハ航行ノ要義ニ則リ針路法ニ依リテ畫スヘキモノニシテ、之ヲ令達スルニハ、海圖ト仝尺度ノ畧圖上ニ航路線(矢符ヲ附記ス)ヲ圖示スルヲ簡明ナリトス。而テ各航路線ノ方位及各變針點ノ時刻ヲ記スルヲ要ス

(四)航行日程ハ一日以上ノ航行ニ於テ、之ヲ豫定シ、概チ正子、午前六時、正午及午後六時ノ四度ノ達着地點(大艦隊ニテハ其主戰隊先頭ノ位地ヲ以テ測算ス)ヲ以テ限界トス。但シ長時日ノ航行ニ於テハ單ニ正午ノ達着地點ノミヲ以テスルコトアリ。而テ之ヲ令達スルニハ前項豫定航路圖ノ航路線上ニ此等ノ時刻ヲ附記スルヲ以テ足レリトス

又航行速力ハ航行日程ヨリ算出サレタル標準速力ヲ示定スルモノニシテ、固ヨリ實施ニ當リ時々ノ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

増減ナカラサル可ラス。而テ此示定速力ハ天候潮候等ノ如キ外部ノ原因ヨリ生スヘキ速力ノ増減ヲ算入セサルモノタルヲ要ス

(五)通信連絡ニ要スル部署ハ豫定航路カ陸岸望樓等ノ無線電信通達距離内ニアルトキハ素ヨリ之ヲ要セス。然ラサル場合ニ於テハ特ニ通報艦等ヲシテ通信點ニ近キ別航路若ハ別航程ヲ執ラシメ、適當ノ時機ニ於テ主隊ニ歸合セシムルヲ可トス

(六)天候其他ノ異變ニ應スル會合點ハ航行中毎夕刻若ハ異變發生ノ時ニ其都度信號ヲ以テ指示スルヲ例トスト雖モ、之ヲ豫定スル場合ニハ、毎日若ハ毎二日ノ集合點ヲ示定シ、日出時ヲ以テ限界トシテ日出以後ノ異變ニ對シテハ其翌日ノ會合點ニ來會セシムル如クスルモノトス。而シテ其地點ハ可成的通信ノ便アルヲ可トス

(七)標準時ノ指定ハ其制定ナキ地方ノミニ限リ其必要アルモノニシテ、大抵測算ニ易キ中央部ノ經度時ヲ採用スルヲ例トス。但シ其附近ニ標準時アルトキハ之レト一時間以上ノ時差アル經度ヲ撰ムヲ便ナリトス。而テ其使用ノ區域ハ其經度ノ東西各七度三十分以内トス

(八)給與ノ地點及時期ハ行動ノ目的、航路及航程ニ依リテ一定セスト雖モ、洋中給與ハ大抵午前中航路上ニ漂泊シテ之ヲ行ヒ、寄泊給與ハ途上平穩ノ泊地ニ假泊シテ行フモノナリ。而テ毎日之ヲ行フトキハ其時間ハ平均三時間以内ニテ充分ナリトス

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

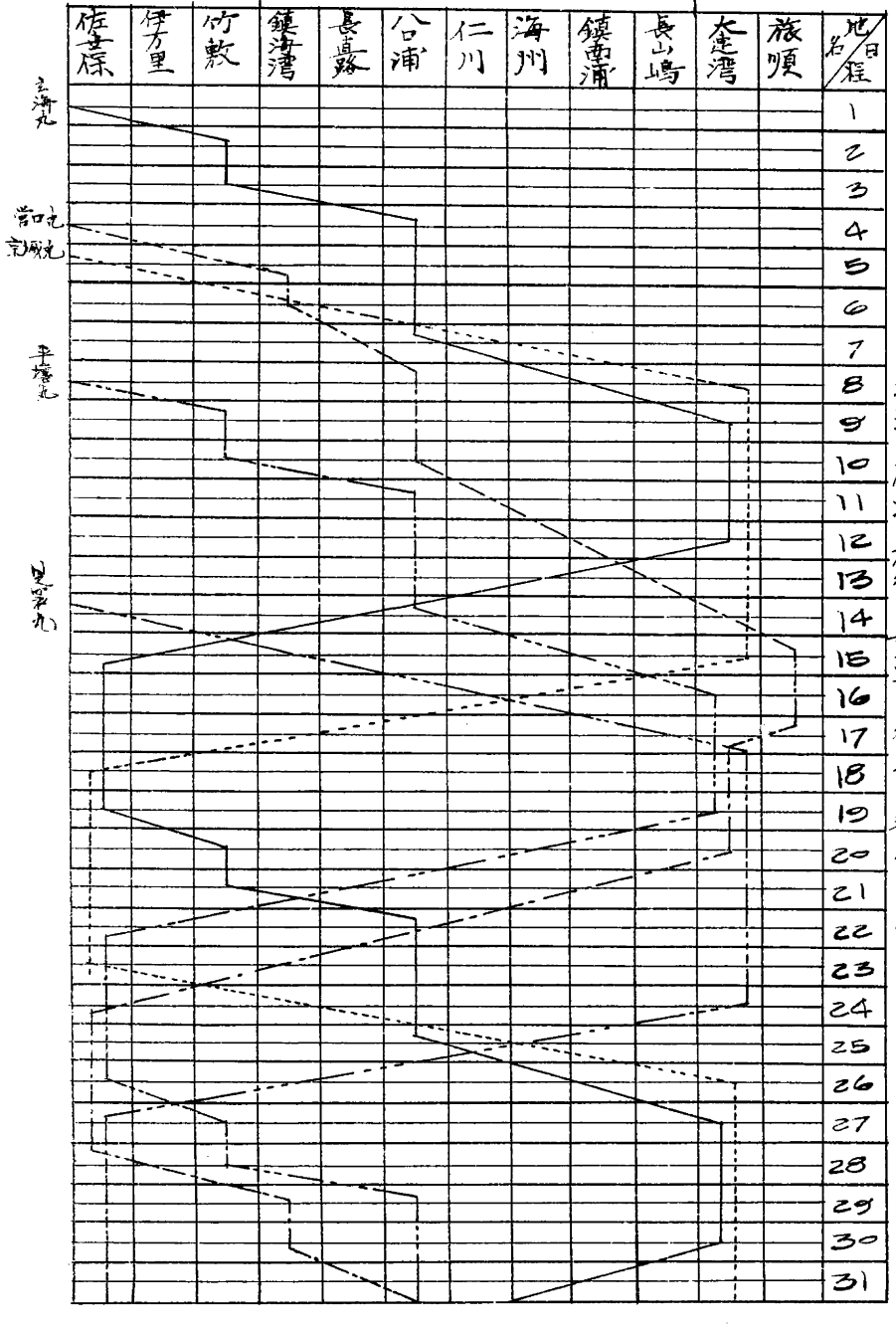
HP『海軍砲術学校』公開史料

○航行長時日ニ亘リ、其間ニ碇泊ヲ交ヘ且ツ行事多端ナルトキハ、航行命令以外ニ尚ホ行動豫定表若ハ行動圖表ヲ調製シテ之ヲ配布スルヲ可トス。其用途ハ主トシテ全行動ヲ通シテ艦隊ノ所在及其行事ノ要領ヲ便覽セシムルニアリ。仍チ節末ニ行動圖表ノ二例ヲ掲示ス

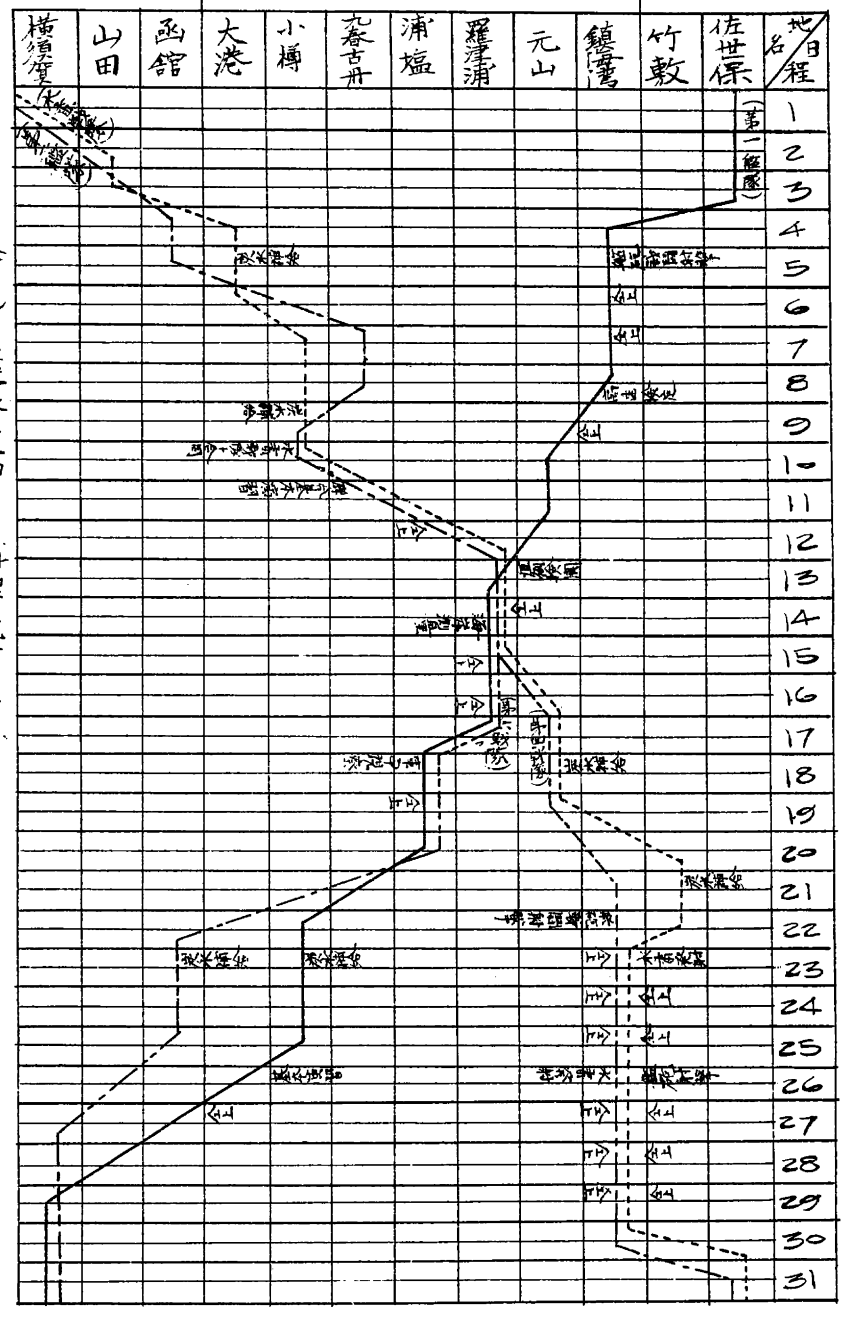
○以上ハ凡テ一部隊ノ集團航行ニ就キテ、其方法ヲ説明セルモノナリ。然レトモ其部隊ノ兵力多大ニシテ、途上ノ集團危險ナルカ或ハ兵力大ナラサルモ、行動上特ニ必要アルトキハ、分離航行ヲナサシムルコトアリ。此場合ニ於テハ豫メ之ヲ數箇ノ梯團ニ區分シ、各別ノ航路若ハ航程ヲ執ラシムルモノトス。而テ其各梯團ノ航行法ハ他梯團トノ通信連絡ニ要スル配備ヲ置クノ外、凡テ本節ニ述フルカ如シ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

表圖動行船信通



表圖動行隊艦



(備考)
一、縱線ハ碇泊ヲ示シ斜線航行ヲ示ス、
二、斜線ニハ航程理数ヲ記入スルヲ便利トス
三、航海及碇泊中施行スル重要ナル行事ヲ記入スルヲ便利トス、

HP『海軍砲術学校』公開史料

第五章　碇泊

第一節　碇泊ノ種別及要義

○夫レ艦隊ハ常ニ行動セルモノニアラスシテ、戰時ト雖モ、其多クハ待機靜止ノ姿勢ヲ持シテ、碇泊シアルモノナリ。航行日數ト碇泊日數ノ對比ハ概シテ三ト七トノ比例以内ニアリ。故ニ碇泊ノ方法宜キヲ得サレハ、單ニ天候其他ノ異變ニ對シ泊船ノ安全ヲ保シ難キノミナラス、教育、訓練、給與、經理等ニ於テ、長時日ニ亘リ不利ヲ蒙ルコト少シトセス。特ニ戰時ノ碇泊中敵襲ヲ受クル場合等ニ於テ、艦隊碇泊ノ情況ハ其防禦力ニ關係スルコト頗ル大ナリ

○碇泊ハ敵襲ノ顧慮ヨリ生スル警戒ノ有無ニ準シ、之ヲ警戒碇泊及通常碇泊ノ二種ニ區別ス。前者ハ港外ニ對スル警固ヲ主トシ、後者ハ港内ニ於ケル團結ヲ重ンス。戰時ニ於テ兩者孰レヲ執ルヘキカハ、敵ノ所在、遠近其動靜等ニ依リテ之ヲ定ムルモノトス。其警戒ノ方法ニ就テハ後段第七章ニ之ヲ詳記ス

碇泊ハ又艦隊ノ兵力ヲ同地ニ集合シテ碇泊スルト、之ヲ別地ニ分割シテ碇泊セシムルトニ依リ、之ヲ集團碇泊ト分離碇泊トニ稱別ス。集團碇泊ハ給與及通信上ノ利便多シト雖モ、泊地ノ容積之ヲ許サヽルトキハ、分離碇泊ニ據ルノ外ナシ。此場合ニ於テハ可成的近距離ニ隔離シテ、常ニ通信ノ連絡ヲ確

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

保セサル可ラス

○碇泊ノ種別如何ヲ問ハス、又碇泊部隊ノ大小及其碇泊日數ノ長短ニ論無ク、碇泊ノ要義ハ概チ左ニ列記スルカ如シ

一、泊船ノ安固ナルコト

(註)天候、潮候及地象等ニ對スル艦船衝觸ノ危險ハ航行ヨリモ寧ロ碇泊ニ於テ多大ナリ。此危險ヲ防避セントセハ、陸岸又ハ礁洲ニ對シ安全距離ヲ保ツト仝時ニ、列艦及隊列ノ位地ヲ適當ニ整頓セサル可ラス

二、敵襲ノ防禦ニ適スルコト

(註)警戒碇泊ニ於ケル、艦隊ノ錨位及其隊形ハ可成的敵襲ヲ困難ナラシムルト仝時ニ、我防禦砲火ノ効力ヲ最大ニ發揮シ得ルモノナラサル可ラス。然レトモ泊地狹小ニシテ、艦隊ノ兵力多大ナルトキハ、完全ニ此要求ヲ充タスコト甚タ難シ

三、出動ニ容易ナルコト

(註)凡ソ靜止ノ情態ニアルモノハ常ニ發動ノ用意ナカラサル可ラス。艦隊ノ碇泊其法ヲ得サレハ出動ニ多大ノ時間ヲ徒費シ、爲ニ必要ノ時機ヲ失スルコトアリ。特ニ戰時待機ノ場合等ニ於テハ此要求頗ル大ナリ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

四、通信ノ自在ナルコト

(註) 碇泊セル艦隊ハ陸上及艦船相互間ノ通信常ニ頻繁ニシテ、其速度ハ終始隊務ノ進行ヲ左右スルノミナラス、率テ艦隊ノ機動ニ影響スルコト多シ。此等通信ノ自在ヲ得ントセハ、最高司令部ハ可成的全軍ノ中央ニ於テ陸上通信點ニ近ク、其錨位ヲ占メ、爾餘ノ諸隊ハ其四周ニ集團スルヲ可トス

五、給與ノ便易ナルコト

(註) 艦隊諸隊ノ錨位散亂シテ、給與船隊ノ泊地一方ニ偏在スルトキハ、各部ニ對スル軍需補給ノ速度ニ過不及ヲ生シ、一部不整備ノ爲ニ、全軍ノ任務ヲ澁滯セシムルコトアリ。給與ノ便亦顧慮セサル可ラス

六、訓練ニ支障ナキコト

(註) 艦船各箇ノ教練特ニ內筒砲射擊ハ主トシテ碇泊中ニ施行スルモノニシテ、其勵行ハ艦隊ノ戰鬪力ヲ增進スルコト少シトセス。此要求ニ應センニハ、艦々相遮蔽スルコトナク、各隊列ノ一方ニ適當ノ餘地ヲ存セサル可ラス。然レトモ泊地狹小ナルトキハ諸他ノ要求ト共ニ之ヲ充タスコト甚タ難シ

如上ノ諸項ハ艦隊ノ碇泊ニ於テ、何レモ顧慮セサル可ラサル要義ナリト雖モ、其利害往々相矛盾シテ、

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

其取捨ニ苦ムコトアリ。例ハ敵襲ノ防禦ニ適セシメントセハ、諸隊ノ位地隔離シテ給與ニ不便ナルカ如キ、或ハ出動ヲ容易ナラシメントセハ、通信ノ自在ヲ失スルカ如キ是ナリ。此ノ如キ場合ニハ時ノ要求ニ應シテ先ツ其必須ナルモノニ重キヲ措クヲ可トスレトモ、概シテ前段列記ノ順序ニ準據スルヲ妥當ナリトス

第二節　碇泊ノ方法

○凡ソ艦隊一地ニ碇泊セントスルトキハ、先ツ時ノ要求ニ應シテ、通常若ハ警戒碇泊幷ニ集團若ハ分離碇泊ヲ行フヘキカヲ決定シ、然ル後前節ニ列記シタル碇泊ノ要義ニ則リ、左記ノ既定事項ヲ基礎トシテ、之ヲ計畫スルモノトス

一、碇泊日數
一、碇泊地ノ地形及地積
一、碇泊中ノ行事
一、碇泊艦船ノ隻數及吃水

而テ碇泊命令トシテ、豫メ全隊ニ令達サルヘキ要項左ノ如シ

一、入港序列、錨數及錨鎖ノ長
二、碇泊隊形

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

三、通信ニ關スル指定

四、給與ニ關スル指定

五、行事ニ關スル指定

以下此項目ニ準ヒ、碇泊ノ計畫及實施ノ要領ヲ列記ス

(一)艦隊ノ兵力多大ナルトキハ、入港ニ先チ豫メ其航行序列ヲ入港序列ニ變更セサル可ラス。然ラサレハ投錨ノ際泊地ニ於ケル混亂ヲ來スノミナラス、全隊ノ投錨ニ長時間ヲ徒費スルモノナリ。入港序列ハ碇泊隊形ニ準シ、首席戰隊ヲ第一トシテ、內方ヨリ外方ニ各部隊錨位ノ順序ニ據ルモノトス。但シ水雷戰隊及特務隊等ハ水深及給與等ノ關係ヨリ深ク內方ニ碇泊セシムルヲ要スルカ故ニ、最先ニ之ヲ入港セシメ、然ル後各戰隊ヲ入港セシムルコトアリ

錨數ハ特ニ其必要アル場合ノ外、常ニ各艦單錨泊トシ、錨鎖ハ水深ノ二倍半ヲ通例トス。而テ各部隊ハ可成的碇泊線ニ添フテ入港シ、順次ニ一齊投錨ヲ行フモノトス。若シ逐次若ハ便宜投錨法ヲ執ルトキハ全隊投錨シ了ル迄ニ二倍以上ノ時間ヲ要スルノミナラス、碇泊隊形ノ整頓ヲ紊ルコト多シ

(二)碇泊隊形ハ碇泊地ノ地形及地積幷ニ碇泊ノ目的ニ依リ異ルト雖モ、通常碇泊ニ於テハ大抵戰隊ヲ外方ニ、特務隊ヲ中間ニ、水雷戰隊ヲ其內方ニシ、海岸線ニ平行シテ碇泊スルコト第一圖及第二圖ノ如クスルヲ通信及給與ノ利便最モ多シ。然レトモ警戒碇泊ニ於テハ各戰隊ヲ陸岸ニ近ク碇泊セシ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

メ、以テ敵眼ヲ避ケ、且ツ其探照及防禦砲火ヲ完用セントセハ、第三圖ノ如ク碇泊スルヲ可トス。又碇泊中内筒砲射擊等ヲ施行セントスルトキハ第四圖ノ如ク碇泊スルコト簡便ナリ。之ヲ要スルニ、能ク地形ヲ利用シ可成的兵力ヲ分散偏在セシメスシテ、碇泊ノ目的ニ適合スルヲ可トス

小部隊ノ碇泊隊形ハ入港ニ先チ、信號若ハ電信ヲ以テ之ヲ令達シ得ルト雖モ、大部隊ノモノハ前泊地ヲ出發スルトキ、其航行命令ト共ニ豫定錨位ヲ圖示シ置クヲ要ス。若シ此豫示ナキ場合ニハ入港前信號又ハ電信ヲ以テ、先ツ最高司令部旗艦ノ錨位ヲ指示シ、之ヲ基點トシテ各部先頭艦ノ占位及其碇泊線ノ方位ヲ指示スルモノトス

(三)艦隊碇泊中各司令部ト艦船間ニ於ケル令達報告等ノ送達ニ要スル文書通信ハ常ニ頻繁ナルモノナリ。之レカ爲メ各部隊ニハ二隻宛ノ通信艇(水雷艇又ハ瀧艇)ヲ備フルヲ要ス。即チ其一隻ハ各部隊司令部ト最高司令部間ノ往復ニ充テ、他ノ一隻ハ各部隊ノ隊内通信ニ用フルモノナリ。但シ通信系統ニ幹線法ヲ取ルトキハ、前者ハ各部隊輪番交代ヲ以テ之ヲ出スモノトス。而テ通信艇ノ發送期ヲ定期及臨時ノ二種トシ、定期通信艇ハ毎日午前八時、午後一時、午後六時ノ三回(通信頻繁ナラサルトキハ之ヲ一回ニ減ス)最高司令部ニ到着スル如クシ、又各部隊内ノ定期通信艇ハ前記ノ三回ニ一時間宛後レテ、其旗艦ヲ發スルヲ可トス。此二隻ノ通信艇ハ已ムヲ得サルノ外、之ヲ混用セサルヲ要ス。是レ繁急ナル臨時通信ノ用ヲ欠クコトアルヲ以テナリ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

實驗ニ據ルニ、適良ナル隊形ヲ以テ碇泊スルトキハ、前記ノ方法ニ依リ、全軍ヲ通シテ文書通信ノ送達ニ要スル時間ハ大抵一時間ヲ超ユルコト無シ。然ルニ水雷戰隊ハ其艦隻ノ多キト、自ラ通信用瀛艇ヲ有セサルタメ、往々十二時間以上ヲ費スコトアリ。故ニ水雷戰隊用トシテ、各戰隊ヨリ瀛艇ヲ交代配附セシムルヲ要ス

又陸上トノ通信ハ各部隊時刻ヲ定メテ各箇ニ之ヲ行フモノトス。而テ最高司令部ノ旗艦ハ之レニ要スル專用ノ通信艇ヲ備ヘ、且ツ爲シ得レハ特ニ陸上通信所ト海底電線ノ連絡ヲ取リ、電報及電話ノ發受ニ用フルヲ至便ナリトス

艦隊碇泊中無線電信ハ主トシテ隊外ノ遠距離通信ニ使用サルヽカ故ニ、隊内通信ニハ之ヲ用ヒサルヲ例トス

(四)艦隊碇泊中、艦船ノ給與ハ特務隊若ハ給與船隊司令官之ヲ掌理シ、各艦ノ要求ニ應シテ各種軍需ヲ配給スルモノナリ。故ニ艦隊司令部ハ唯タ給與ノ方法、配給ノ順序、時期及時限等ヲ指定スルヲ以テ足レリトス。而テ之ヲ配給スルニハ、水雷戰隊ノ外、需要艦船ヲ動カスコトナク、給與船ヲ動カシテ逐次之レニ横着セシムルヲ簡便ニシテ且ツ迅速ナリトス。尙ホ給與ノ方法等ニ就テハ之ヲ後章ニ詳記ス

(五)艦隊碇泊中艦船各箇ノ行事亦多々之レアルヘシ。艦隊司令部若シ其區處ヲ忽ニスルトキハ、往々艦

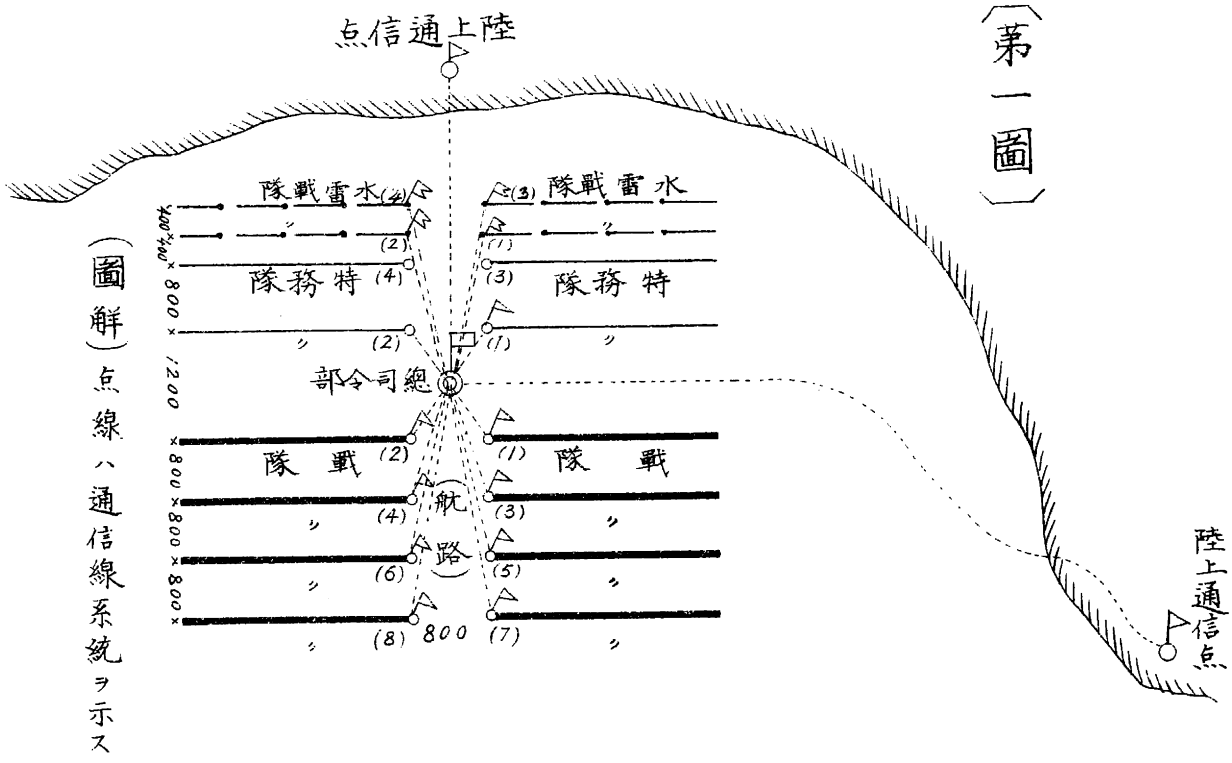
http://navgunschl.sakura.ne.jp/

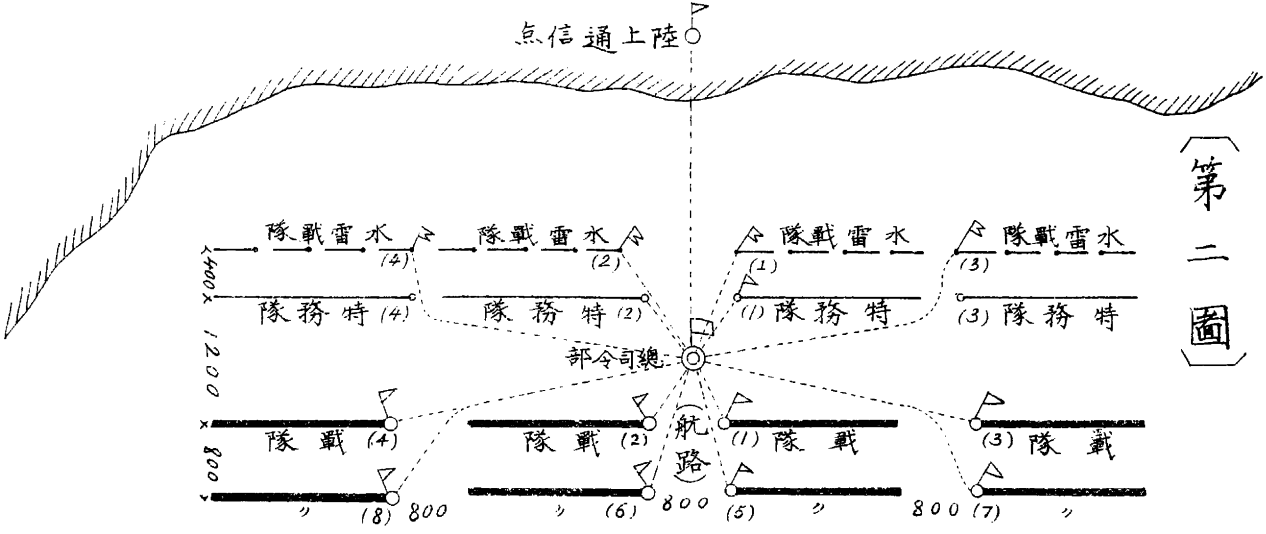
HP『海軍砲術学校』公開史料

々ノ事業相衝突シテ其進行ヲ阻害スルコトアリ。故ニ豫メ各隊若ハ各艦ノ作業豫定表ヲ制定シ其日限、場所、事業等ヲ指示スルヲ要ス。特ニ泊地附近ニ於テ艦砲射撃、水雷發射又ハ速力試驗等ヲ行フ場合ニ於テ然リトス。此ノ如キ要求ニ應スルタメ、艦隊司令部ハ豫メ泊地附近ノ海面ヲ第五圖ニ示スカ如ク、適當ノ數區ニ分チ、臨時其作業地區ヲ指定スルヲ便ナリトス

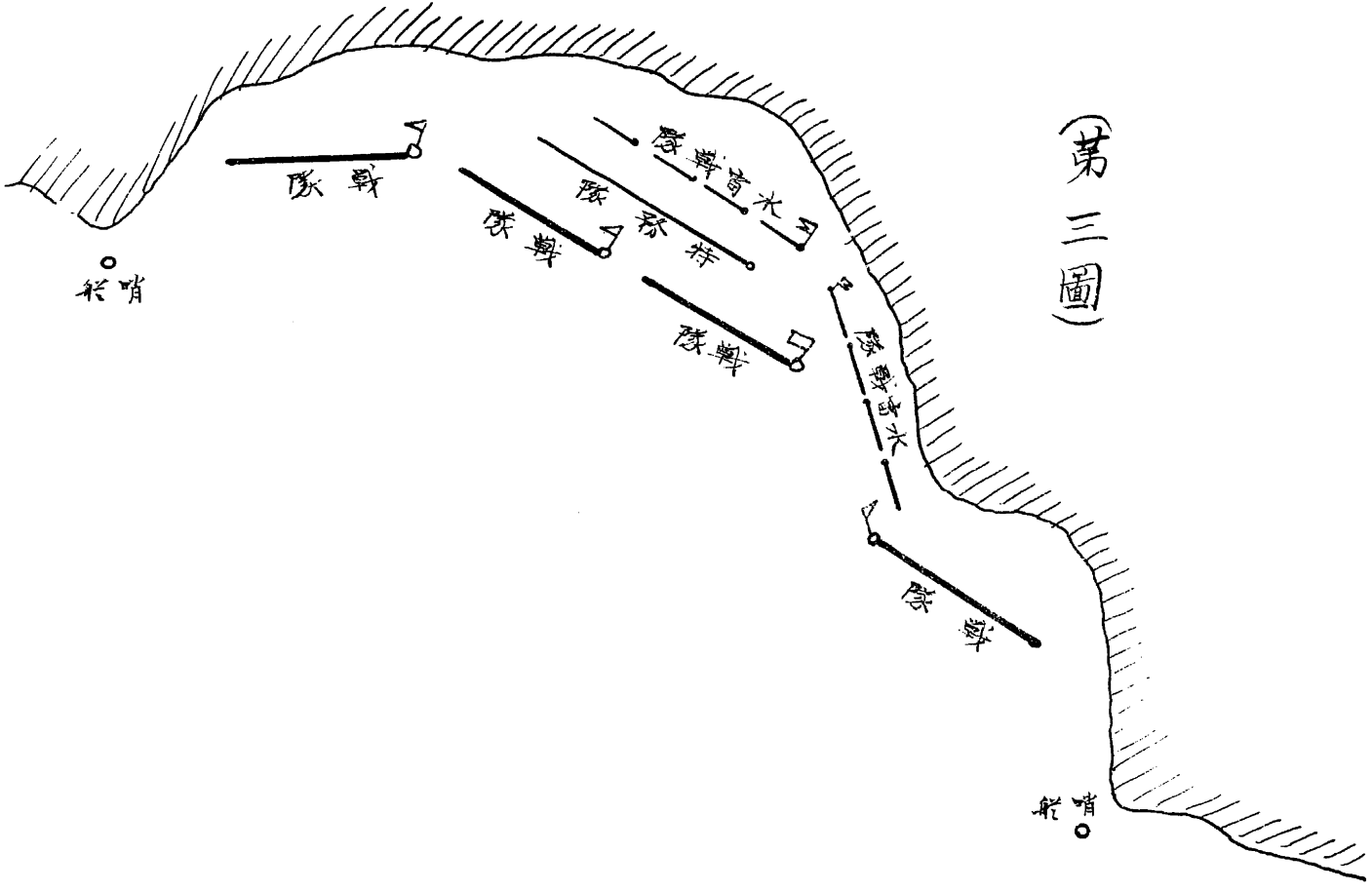
○以上ハ凡テ一地ニ於ケル大部隊ノ集團碇泊ニ就キテ、其方法ヲ說明セルモノナリ。然レトモ部隊ノ兵力多大ニシテ泊地之ヲ容ル、能ハサルカ、或ハ任務上特ニ其必要アルトキハ、二地ニ分離碇泊ヲナサシムルコトアリ。此場合ニ於テハ豫メ艦隊ヲ區分シテ、各別ノ泊地ニ就カシメ、箇々本節ノ要領ニ準シテ碇泊シ、両地間ノ通信連絡ヲ設備スルモノトス

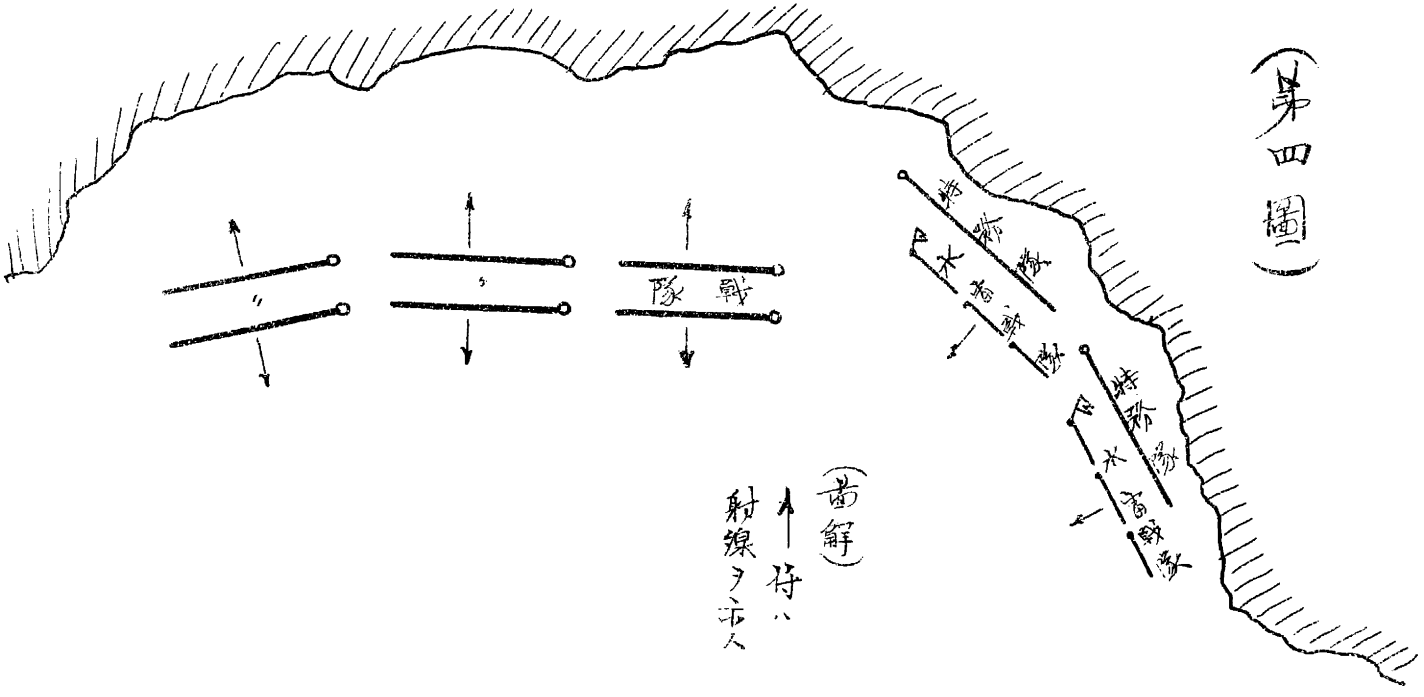
http://navgunschl.sakura.ne.jp/


第一圖
陸上通信点
隊戰雷水
隊務特
部令司總
隊戰
(航路)
800
1,200
(圖解)点線ハ通信線系統ヲ示ス

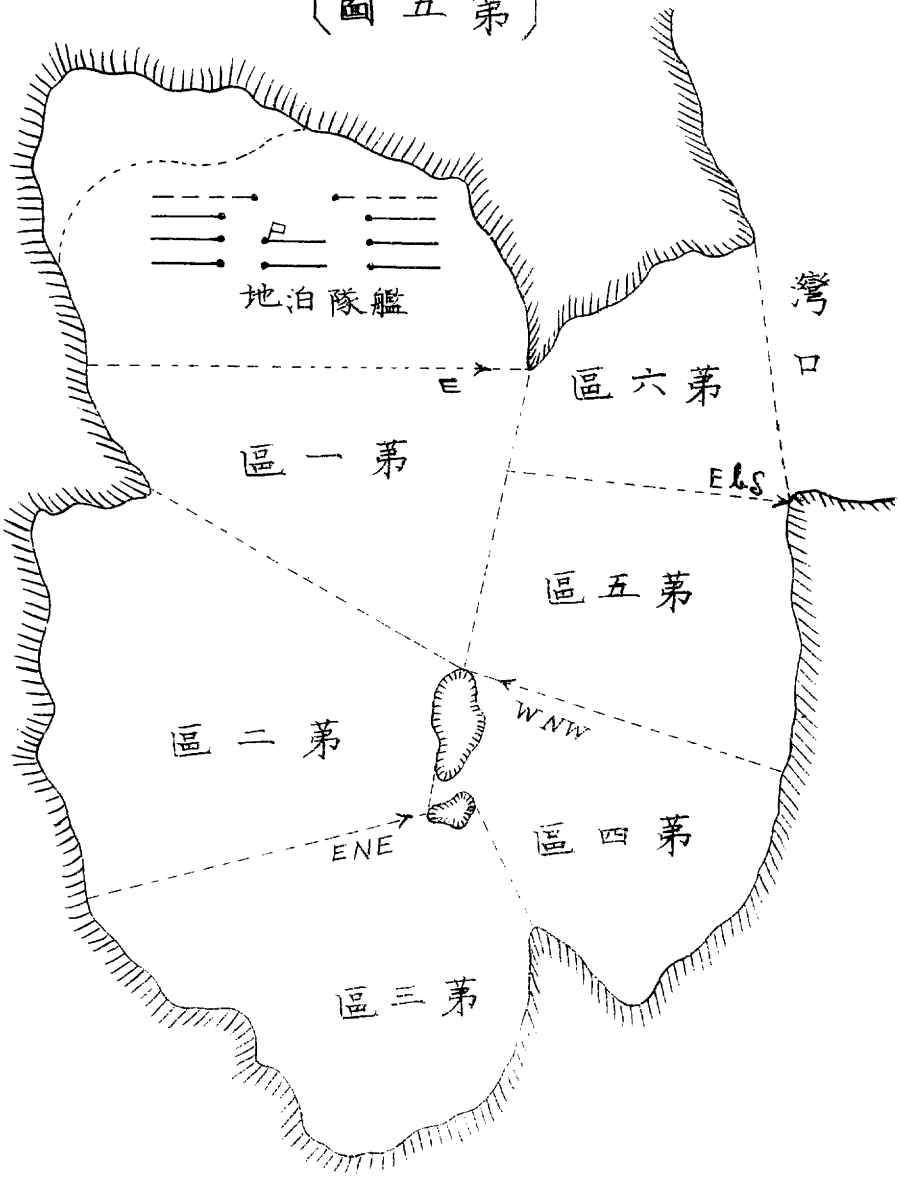

点信通上陸
隊戦雷水 (4)
隊戦雷水 (2)
隊戦雷水 (1)
隊戦雷水 (3)
隊務特 (4)
隊務特 (2)
(1) 隊務特
(3) 隊務特
400×
1200
×800
部令司令
隊戦 (4)
隊戦 (2)
(航路)
(1) 隊戦
(3) 隊戦
(8) 800
(6) 800
(5) 800
(7)

〔第二圖〕


第三圖
哨船
哨船


第四圖
〃
〃
隊戰
特殊射撃
水雷戰隊
特殊射撃
水雷戰隊
説解
射線ヲ示ス

〔圖五第〕



HP『海軍砲術学校』公開史料

第六章　捜索及偵察

第一節　捜索及偵察ノ要義

○捜索トハ所在未知ノ敵ヲ探索スルヲ謂ヒ、偵察トハ所在既知ノ敵情ヲ偵知スルヲ謂フ

凡ソ作戰ノ攻勢ナルトヲ守勢ナルトヲ問ハス、敵ニ對シ有利ノ戰勢ヲ制セント欲セハ、必ツ先ツ敵ノ所在及其兵力幷ニ敵ノ隊制及其動靜等ヲ豫知セサル可ラス。捜索及偵察ハ此要求ニ應スル戰務ニシテ、前者ハ主トシテ敵ノ所在及兵力ヲ知ルヲ目的トシ、又後者ハ敵ノ隊制及動靜等ヲ知ルヲ目的トシ、各其方法ヲ異ニス。然レトモ之ヲ實施スルニ當リテハ、両者往々相連續混合スルコトアリ。例ハ捜索ノ任務ヲ有スル一部隊カ捜索列ヲ展張シテ索敵中、敵ノ主力ヲ發見シ得タリトセンニ、捜索ノ目的ハ此時ヲ以テ達セラレタリト雖モ、尚ホ爾後ノ敵情ヲ偵察センカタメ、其儘敵ト觸接ヲ保持シテ偵察任務ヲ續行スルコトアリ。或ハ又敵情偵察中日没等ニ際シ敵影ヲ見失シタルタメ、更ニ翌朝ヨリ捜索ニ從事スルコトアリ。故ニ捜索及偵察ハ其目的及方法ヲ異ニスト雖モ、其實施上ニ於テハ密接ノ干繋ヲ有スルモノナリ

作戰ニ際シ、他部ヨリ得タル諜報若ハ情報等ニ依リ、敵ノ所在及其動靜等較ヤ審カナル場合ニ於テモ、尚ホ其捜索及偵察ヲ怠ル可ラス。何トナレハ爾後ニ於ケル敵情ノ變化知ル可ラサレハナリ。故ニ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

偵察隊等ハ往々戰鬪開始ノ際迄、敵ト觸接シテ其任務ヲ繼續シ、直ニ其戰鬪ニ參加セサル可ラサルコトアリ

○搜索及偵察ニハ高速ナル二等若ハ一等巡洋艦ヲ使用スルヲ例トス。是レ其耐海力、航海力及速力ヲ以テ能ク荒天ニ耐ヘ、敏速ニ遠距離ニ行動シ、且ツ其威力ニ依リ敵ノ妨害ヲ排除シ、其任務ヲ遂行シ得ルヲ以テナリ。然レトモ、主隊ノ附近ニ於ケル近距離ノ搜索及偵察ニハ、通報艦若ハ驅逐艦等ヲ代用スルコトアリ。而テ特ニ偵察ニ於テハ、少クモ貳艦以上ヨリ成ル一隊ヲ使用スルヲ可トス。是レ敵情ノ變化ニ應シテ、或ハ二艦各分離ノ行動ヲ取リ、又ハ其一艦ヲ主隊ニ歸報セシムル等ノ便アルノミナラス、常ニ二艦相互ノ掩護ニ依リ、其任務ヲ敢行スルノ意志ヲ强固ナラシムルヲ以テナリ

此等偵察隊長若ハ艦長ハ可成的觀察力、判斷力ニ富ミ、且ツ沈着剛毅ノ資質アルモノヲ撰ムヲ要ス。然ラサレハ往々敵情ノ觀察及判斷ヲ誤リ、率テ作戰上ノ齟齬ヲ來タスノミナラス、優勢ノ敵ニ遭遇シテ危急ナル場合等ニ當リ、其措置宜キヲ得ス、爲ニ不慮ノ過失ヲ招クコトアルヘシ

○凡ソ指揮官其部下ニ搜索若ハ偵察ヲ行ハシメントスルトキハ、須ク左記ノ諸要義ニ留意セサル可ラス

一、搜索若ハ偵察スヘキ敵ノ主目標ヲ明示スルヲ要ス

(註) 目標明カナラサレハ屢々敵ノ偵察隊等ノ行動ニ誘惑セラレ、或ハ定位置ヲ離レテ無要ノ方面

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

ニ索敵シ、又ハ主要ノ敵ト觸接ヲ斷チテ無要ノ敵ニ追躡シ、以テ指揮官ノ所望ニ添ハサルコトアルヘシ。故ニ例ハ「敵ノ主戰隊ヲ發見スル迄搜索列ノ定位ヲ離ル可ラス」或ハ「敵ノ巡洋艦戰隊ニ觸接シテ終始其動靜ヲ偵察スヘシ」ト言フカ如ク、目標ヲ指示セサル可ラス

二、搜索若ハ偵察ニ從事スヘキ時限ヲ示シ、歸合又ハ集合ノ時刻及地點ヲ豫定スルヲ要ス

(註) 此制限ナキトキハ、搜索若ハ偵察隊ハ各自任意ノ行動ヲ取リ、遂ニ全ク主隊トノ連絡ヲ失ヒ、必要ノ際之ヲ合同スルコト能ハサルヘシ。固ヨリ敵情ノ如何ニ依リ、豫定ノ如ク歸合シ得サルコトアルモ、尚ホ是ニ依リテ情況ニ異變アルヲ察知シ得ルノ利アリ

三、主隊爾後ノ行動ヲ豫示スルヲ要ス

(註) 搜索若ハ偵察隊歸合ノ時刻豫定シアルモ、尚ホ之レニ先チ若ハ後レテ緊急ノ敵情ヲ發見シテ、獨斷其豫定ヲ變更スルカ、或ハ主隊ノ方面ニ異變アリテ、其召還ヲ要スルコトアリ。此ノ如キ場合ニ際シ主隊ノ行動ヲ豫知スルトキハ捷路ヲ經テ迅速ニ之レト會合スルヲ得ヘシ

四、遠距離ノ搜索若ハ偵察ニハ別ニ通信中繼艦ヲ派出スルヲ要ス

(註) 無線電信ノ通達距離以外ニ遠ク離レテ、搜索若ハ偵察セシムルトキハ、敵情ノ通信著シク遲達スルノミナラス、搜索若ハ偵察隊ハ往々敵ト觸接シテ離ル可ラサルコトアリ。此ノ如キ場合ニ於ケル通信中繼艦ノ効用頗ル大ナリ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

○又搜索及偵察ニ從事スル隊若ハ艦ハ其任務ヲ遂行スルニ當リ、左記ノ諸要義ヲ服膺セサル可ラス

一、指示サレタル任務ノ主目標以外ノ敵ニ誘惑牽致サレサルヲ要ス

(註)我カ搜索若ハ偵察ニ對シ、敵モ亦陽動虛擊等ヲ行ヒ、以テ我カ觀察ヲ錯亂シ判斷ヲ困難ナラシムルモノナリ。此ノ如キ場合ニ處スルニハ目標ヲ固持スルヲ最良ノ手段トス

二、戰鬪ノ用意アルト仝時ニ漫リニ交戰セサルヲ要ス

(註)威力ヲ以テ敵ノ妨害ヲ排除シ其任務ヲ果サンニハ、須ク戰鬪ノ用意無ラサル可ラス。然レトモ、漫リニ交戰スルトキハ遂ニ中止ス可ラサル干繫ヲ生シ、爲ニ我主隊ヲ煩ハシ、往々時機ニ先チ本戰ヲ惹起スルコトアリ

三、我カ主隊ノ所在行動ヲ隱蔽スルヲ要ス

(註)搜索及偵察艦等ノ行動ハ敵情ヲ知ラント欲シテ、却テ敵ニ我カ企圖ヲ知ラシムルコトアリ。故ニ敵ニ近ツキ又ハ之レニ遠サカラントスルトキハ、可成的僞路ヲ執ルヲ可トス。但シ敵ヲ我カ主力ノ方向ニ誘致セントスルトキハ此限ニアラス

四、不確實ナル敵情報告ヲ濫發セサルヲ要ス

(註)搜索若ハ偵察艦カ倉卒ニ瞥見セル處ヲ即報スルトキハ、幾モナク敵情變化シテ、更ニ之ヲ取消シ又ハ改正セサル可ラサルニ至ル。而カモ其報告カ無線電信ニ依リ通信中繼艦等ヲ介シテ、

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

遞傳サル、場合ニハ、之レニ伴フ通信ノ混雜甚シク、虚報遂ニ實トナリテ各所ニ達スルコトアルヘシ。故ニ搜索ニ於テハ能ク敵ノ兵力、兵種ヲ確カメ、又偵察ニ於テハ敵ノ動靜、進退ニ注意シ、畧ホ確實ナル判斷ヲ得ルニ及ンテ發報スルヲ可トス

○前記スル處ノ外、搜索及偵察ノ計畫實施ニ關シ、尙ホ多少ノ要義アルモ、其方法ト共ニ凡テ之ヲ後節ニ記入ス

第二節　搜索ノ種別及方法

○廣寞タル海洋ニ所在未知ノ敵ヲ搜索發見セントスルニハ、必ツ其方法無ラサル可ラス。現時海上搜索ノ方法ニ二種アリ。搜索列及搜索弧ヲ以テスルモノ是レナリ

搜索列ノ方法ハ若干ノ搜索艦ヲ適當ノ距離ニ並列シ、之ヲ移動若ハ靜止セシメ、敵カ其列中ヲ通過セントスル際之ヲ發見スルモノニシテ、其移動スルモノヲ移動搜索列ト謂ヒ、靜止スルモノヲ靜止搜索列ト謂フ。又其列カ直線ナルト曲折セルトニ依リ、直列又ハ曲列搜索列ト稱別ス

搜索弧ノ方法ハ敵ノ發動シタル時刻及地點、若ハ其到達スヘキ時刻及地點ヲ豫知シ、敵ノ想定速力ニ基キ、搜索艦ヲシテ之レニ會スル如ク弧線ヲ航進セシメ、以テ敵ヲ發見セントスルモノニテ、敵ノ發動ニ對シテ其外方ニ行フモノヲ外方搜索弧ト謂ヒ、敵ノ到達ニ對シテ其內方ニ行フモノヲ內方搜索弧ト謂フ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

○搜索列及搜索弧ノ二法ハ各利害得失アリテ、時ノ要求ニ應シテ其何レカヲ適用スヘキモノナリ。乃チ左ニ両法ノ利點ヲ列記ス

搜索列ノ利點

一、比較的ニ搜索艦ヲ分散セスシテ、友艦相互ノ連繫ヲ保持シ得ルコト

二、比較的ニ搜索艦ノ高速力ヲ要セサルコト

三、比較的確實ニ一定ノ海面ヲ搜索シ得ルコト

四、敵ノ發動若ハ到達ノ時刻及地點等ヲ豫知スルヲ要セサルコト

搜索弧ノ利點

一、比較的多數ノ搜索艦ヲ要セサルコト

二、比較的大海面ヲ搜索シ得ルコト

三、敵ノ進行方向不明ナル場合ニモ應用シ得ルコト

前記ノ利害ハ全ク相反スト雖モ、時ト場合ニ準ヒ其應用ニ適否アリテ、両法共ニ偏廢ス可ラサルナリ。例ハ敵ノ來ルヘキ海峽等ニ施スニハ搜索列ヲ可トスレトモ、洋中ニ於テ一度觸接ヲ失シ其踪跡不明ナル敵ヲ再索セントスルニハ搜索弧ヲ便利トスルカ如シ。然レトモ、搜索弧ハ敵ノ發動若ハ到達時刻及地點ヲ豫知セサル可ラサノル必要アル爲メ、搜索列ニ比シテ其應用ノ機會較ヤ少シ。之ヲ要ス

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

ルニ、使用シ得ヘキ搜索艦多數ニシテ搜索面大ナラサルトキハ搜索列ヲ撰ムヲ確實トシ、然ラサレハ搜索弧ヲ撰ムヲ宜シトス。以下順次ニ二法ノ形式ヲ說明ス

(一)搜索列

○移動搜索列ノ正式ハ第一圖ニ示スカ如ク、當時ノ天候ニ於ケル視界圈ニ應シテ、所要ノ搜索面ノ幅員ヲ塡充スルニ足ルヘキ、若干隻ノ搜索艦ヲ一線ニ並列セシメ、之ヲ並頭ニ前進セシムルモノナリ。而テ搜索艦ノ並列距離ハ視界圈ノ直徑ヨリ五浬ヲ減シタルモノヲ撰ムヲ通則トス。是レ風潮等ノ外感ニ依リ列艦ノ變位ニ對スル餘裕ヲ存スル爲メナリ。故ニ所要搜索艦ノ隻數ハ左ノ算式ニ依リ計算スルコトヲ得

$$n=\frac{W}{2R-5}$$

n……搜索艦ノ隻數
W……搜索面ノ幅員
R……視界半徑

此視界圈ハ固ヨリ天候ニ依リ消長スト雖モ、實驗ニ據ルニ、晴天ノ日檣樓ヨリ敵ノ巡洋艦以上ニ對スル視界半徑ハ十五浬以上ニ達ス。(圖上演習規則艦船視界表參照)即チ五隻ノ搜索艦ヲ以テ百二十五浬ノ幅員ヲ搜索シ得ルナリ

移動搜索列ノ前進速力ニハ定限アルコト無ク、唯タ搜索面ノ縱長ニ應シテ適宜ノ速力ヲ撰メハ可ナリ。然レトモ、搜索列ノ線位ヲ保持スルタメ、通常四時間ヲ隔テ、時刻線ヲ横劃シ、之ヲ午前八時

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

線、正午線若ハ午後四時線等ト稱シ、此時刻線ニ達ハサル如ク、各搜索艦ノ速力ヲ調整セシムルモノトス

若シ又一定ノ海面ニ於テ敵ヲ待ツノ場合等ニハ日沒時迄ニ搜索列ヲ搜索面ノ前端迄前進セシメ、次テ日沒時ヨリ其正面ヲ反轉シ、敵ノ想定速力ヨリ較ヤ大ナル速力ニテ發動線ニ向ヒ反航セシメ、更ニ翌朝日出時ヨリ前日ト同一ノ前進運動ヲ執ラシム。斯クノ如クスレハ、敵若シ夜中搜索面ニ入リ來リテ搜索艦ノ視界ニ觸レサルモ、尙ホ翌朝ニ至リ之ヲ發見シ得ルナリ。而テ敵ノ來ルヘキ時期不明ナルトキハ、連日之ヲ反覆セサル可ラス。此反航速力ハ大抵敵ノ想定速力ニ一節ヲ加フルヲ以テ足レリトス。是レ日沒時ニ於ケル前方ノ視界ニ約十五浬ノ餘地アルヲ以テナリ

○靜止搜索列ハ搜索列ヲ移動セシメスシテ、唯タ一所ニ漂泊停止セシムルニ過キス。但シ敵ノ夜間通過ニ對スル爲メ、其一夜航程ヲ隔テ、二重ノ搜索列ヲ展張セサル可ラス。故ニ移動搜索列ニ比シテ一倍ノ搜索艦數ヲ要ス

靜止搜索列ノ利トスル處ハ、主トシテ消炭ノ節約ニ存シ、從テ長時日ノ服務ヲ續行シ得ルニアリ。然レトモ亦二倍ノ搜索艦數ヲ要スルノ不利アルヲ免レス。且ツ風潮ノタメ搜索列ノ線位ヲ變シ易キヲ以テ、常ニ一艦ヲ列線ニ添フテ巡航セシメ、各搜索艦ノ位地ヲ正タスノ必要アリ

○曲列搜索列ハ其移動スルモノト靜止スルモノトヲ問ハス、單ニ其列線ヲ前方ニ屈曲セシムルノ外、

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

凡テ直列搜索列ノ形式ニ異ル處ナシ。第二圖ハ即チ曲列搜索列ノ正式ヲ示スモノナリ。此屈曲ノ角度ハ左右四十五度ヲ通則トスレトモ、必要ニ應シ適宜之ヲ變スルコトヲ得

曲列搜索列ハ敵ノ速力我カ主隊ノモノニ優ルカ、或ハ或主隊ノ位置搜索列ニ近接セル場合等ニ應用スルモノニシテ、敵ヲ搜索列ノ端末ニ發見シタルトキ、我主隊ヲシテ之レト會戰スルノ餘裕ヲ得セシムルモノナリ。然レトモ搜索列ノ後方ニ於ケル我主隊ノ距離遠隔セルトキハ、常ニ直列搜索列ヲ取ルヲ可トス

○搜索面陸岸ニ接シテ、其地形不規則ナルトキハ、前記ノ如キ正式ノ搜索列ヲ施スコト難シ。此ノ如キ場合ニハ、第三圖ニ示スカ如ク、臨時地形ニ應シテ搜索線ヲ劃定スルモノトス。而テ時刻線ヲ横劃シテ搜索ノ前進步度ヲ調整スル等、凡テ正式ノ方法ニ異ル處無シ

○凡ソ艦隊搜索列ヲ展張シテ索敵スルニ當リ、敵ト會戰ヲ期スルトキハ、其主隊ハ搜索列ノ後方中央線上ニ於テ、搜索列全長ノ二分ノ一（例ハ搜索列ヲ百浬トセハ五十浬）ノ位地ニ占位シ、搜索列ト運動ヲ共ニスルヲ通則トス。但シ時ノ必要ニ應シ、之ヲ四分ノ一迄短縮スルコトヲ得。是レ敵カ搜索列ノ端末ヲ通過シタル際、其距離著シク遠隔シ、爲ニ日沒前ニ會敵ノ機會ヲ失スルノ虞アルヲ以テナリ

（二）搜索弧

○外方搜索弧ノ形式ハ第四圖ニ示スカ如キ數理ニ基キテ構成サルヽモノナリ。今某時刻ニ於テ、A地

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

點ニ在リタル捜索目標ノ敵艦隊カ何レノ方向ニカ進行シタルノ情報ヲ得タリト假定センニ、捜索艦ハ先ツ敵カA地點ヨリB_1地點ノ方向ニ進行シタルモノト想定シ、敵ノ想定速力ニ準シテ、敵ト仝時ニB_1地點ニ到達スル如ク急航シ、此處ニ敵ヲ發見セサレハ、敵ハ必ス他ノ方向ニ進行セルモノナルカ故ニ、圖示ノ如ク直ニB_2ニ向テ進ミ、更ニB_3、B_4、B_5ト順次ニ弧線ヲ彎航シ、敵ヲ發見スル迄之ヲ繼續シテC點ニ到ル。捜索弧トハ即チ此弧線ノ謂ヒナリ。此B_2、B_3等ノ地點ハ捜索艦ノ發作シ得ル速力ニ依リ定ムルモノニシテ、各地點間ノ航過時間ハ通常一時間トス。但シ時宜ニ依リ之ヲ二時間若ハ三時間トスルモ可ナリ

此捜索法ハ敵ノ發動時刻及速力確實ニ豫知セラレサルカ、或ハ其發動後長時間ヲ經過セルトキハ、假令視界帶ノ餘地ヲ存スルモ、確實ニ敵ヲ發見スルコト難シ。然レトモ、一度觸接ヲ失シタル敵ヲ再索セントスルカ、或ハ敵ノ發動若ハ通過ニ就キ確實ナル情報（望樓等ヨリノ）ヲ得タル場合等ニハ屢々能ク其効ヲ奏ス

○第五圖及第六圖ハ捜索弧應用ノ變化ヲ圖示セルモノナリ。即チ第五圖ハ三隻ノ捜索艦ヲ三方面ニ分派シテ大角度ノ捜索ヲ行フ場合ヲ示シ、又第六圖ハ多數ノ捜索艦ヲ以テ、短時間ニ索敵ノ目的ヲ達セントスル場合ヲ示スモノニシテ、宛カモ捜索弧ニ捜索列ヲ加味シタルカ如シ

又第七圖乃至第九圖ハ豫知サルヘキ敵ノ發動時刻及其想定速力不確實ナル場合ニ應用スルモノニシテ、何レモ圖解ヲ附セルヲ以テ茲ニ其説明ヲ省畧ス

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

○内方搜索弧ハ第十圖及第十一圖ニ示スカ如ク、敵ノ到達時刻及地點ト其想定速力ニ基キ、宛カモ外方搜索弧ヲ內方ニ向ヒ反對ニ施スカ如キモノナリ。而テ其應用ノ變化モ概シテ外方搜索弧ニ異ルコト無シ。然レトモ、將來ニ屬スル敵ノ到達時刻及地點等ヲ豫知スルコト頗ル難キカ故ニ、其應用ノ機會ハ極メテ少シ

○凡ソ艦隊指揮官搜索弧ヲ以テ索敵セントスルトキハ、各搜索艦ニ左ノ事項ヲ命令セサル可ラス

一、敵ノ發動地點及時刻（內方搜索弧ニテハ到達地點及時刻）

二、敵ノ想定速力

三、搜索發動地點

四、搜索方向（右方若ハ左方）及搜索角度（一艦六十度ヲ超ヘサルヲ度トシ、之ヲ點數ニテ示ス）

五、搜索終結ノ時刻若ハ地點

（備考）若シ此指令ナキトハ、搜索艦長任意ニ之ヲ定ムルモノトス。故ニ少クモ搜索發動地點及終結時刻ヲ指示スルヲ要ス

此等ノ搜索發動終結地點及搜索角度幷ニ之レニ對スル搜索速力等ハ海圖上ニ引畫シテ、容易ク測度シ得ルト雖モ、尙ホ搜索弧表（附表）ヲ使用スルトキハ之ヲ即算スルニ便ナリ。此表ハ搜索角度、其兩邊(AB)(AC)ノ比例幷ニ敵艦及搜索艦速力ノ比例ノ三元ヨリ成リ、其內ノ二元ヲ既知シテ未知ノ一元ヲ得セシム

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

ルモノナリ

又艦隊ノ主隊ハ先ツ捜索弧ノ外方（内方捜索弧ニテハ内方）捜索角度(θ)ノ中央線上適當ノ地點ニ直進シ、捜索終結ノ際(AC)ノ延長線上ニ達スル如ク航進スルモノトス。但シ捜索弧ト主隊トノ距離ハ捜索角度ノ大小ニ準シテ、適宜伸縮セサル可ラス

第三節　偵察ノ種別及方法

○海上ニ於ケル偵察方法ニ三種アリ。一、潜行偵察、二、觸接偵察、三、强行偵察是レナリ

潜行偵察ハ主トシテ夜間潜カニ敵港又ハ敵軍ニ近接シ、敵眼ヲ避ケテ、其隊制、動靜、若ハ防備警戒ノ情況等ヲ偵知スルモノニシテ、之レニ使用スル兵力ハ此目的ニ適應セシムルタメ、低舷ノ驅逐艦若ハ水雷艇二隻乃至四隻トス

觸接偵察ハ通常晝間ニ於テ敵ト視界內ニ觸接シ、之レト交戰スルコト無ク、敵情ヲ偵知スルモノニシテ、之レニ使用スル兵力ハ巡洋艦若ハ通報艦二隻以上トス

强行偵察ハ晝間又ハ夜間ニ於テ敵港若ハ敵軍ノ戰鬪距離以內ニ進入シ、要スレハ之レニ攻擊ヲ加ヘ、威力ヲ以テ敵情偵察ノ目的ヲ達セントスルモノナリ。故ニ又之ヲ威力偵察ト謂フ。而テ之レニ使用スル兵力ハ充分敵ト對抗シ得ルモノヲ以テシ。要スレハ艦隊指揮官全軍ヲ率ヒテ之ヲ行フコトアリ

○前記三種ノ偵察法ハ各利害アルカ故ニ、作戰上ノ要求ニ應シテ之ヲ適用セサル可ラス。例ハ夜間敵

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

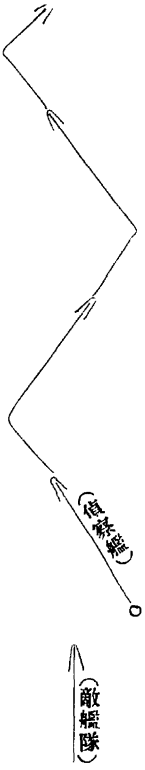
HP『海軍砲術学校』公開史料

ノ碇泊艦隊ニ對シ、不意ニ水雷攻擊ヲ行ハントスルニ先チ、其碇泊位地等ヲ偵察スルニハ潛行偵察ヲ可トスレトモ、此水雷攻擊ノ後敵ノ損害程度ヲ偵知セントスルニハ、翌朝ニ於ケル强行偵察ニ依ルカ如シ。又劣勢ノ兵力ヲ以テ、絶ヘス敵ノ航行艦隊ノ集散離合等ヲ偵察スルニハ、觸接偵察ニ依ラサル可ラス、而テ其應用ノ機會最モ多キモノハ觸接偵察ニシテ、之レニ亞クモノヲ潛行偵察トス

○偵察ノ効力ハ主トシテ視察ノ巧拙ニ存シ、搜索法ノ如キ形式アラスト雖モ、亦多少ノ方法ナカラサル可ラス、即チ以下順次ニ其要領ヲ列記ス

(一)潛行偵察ニ於テハ敵眼ヲ避クルタメ、爲シ得ル限リ檣桁其他舷上ノ突起物ヲ撤去シテ艦型ヲ低小ニシ、或ハ變裝ヲ施サヽル可ラス。而テ敵ニ近接スルニハ通常月ヲ前ニシ風ヲ背ニスルモノナレトモ、敵艦著シク煤煙ヲ擧クトキハ風下ヨリ潛行スルヲ可トス。又碇泊セル敵ニ對シテハ間接ニ端艇漁舟等ヲ利用シ、或ハ艦員ヲ陸岸ニ揚ケテ、敵ニ近接セシムルコトアリ

(二)觸接偵察ニ於テハ通常敵ノ斜前ニ占位シ、速力ヲ增加シテ左圖ノ如ク敵前ヲZ字形ニ航進スルヲ可トス。(我國古代ノ軍法ニ之ヲ千鳥乘リト稱ス)是レ終始我カ優速ヲ持續シ、敵ノ變針ニ應シテ、之レト觸接ヲ保ツニ易ク、且ツ敵ノ優速艦等ノ急襲ヲ受クルコトナキノミナラス、敵ノ針路及隊形等ヲ視察スルニ最モ便ナル



http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

ヲ以テナリ。而テ敵ノ巡洋艦隊等我ニ向テ迫擊シ來ルトキハ。直ニ其反對側ニ出テ、敵主隊ノ周圍ヲ繞リ、常ニ敵主隊ヲ中間ニ介在セシムル如ク運動スルモノトス

洋中ノ觸接偵察ニ於テ特ニ留意スヘキ要件ハ、終始我カ艦位ノ測定ヲ怠ラサルコト是レナリ。若シ之ヲ忽ニスルトキハ、不規則ナル運動ノ結果、遂ニ正位ヲ知ル能ハサルニ至ルコトアリ

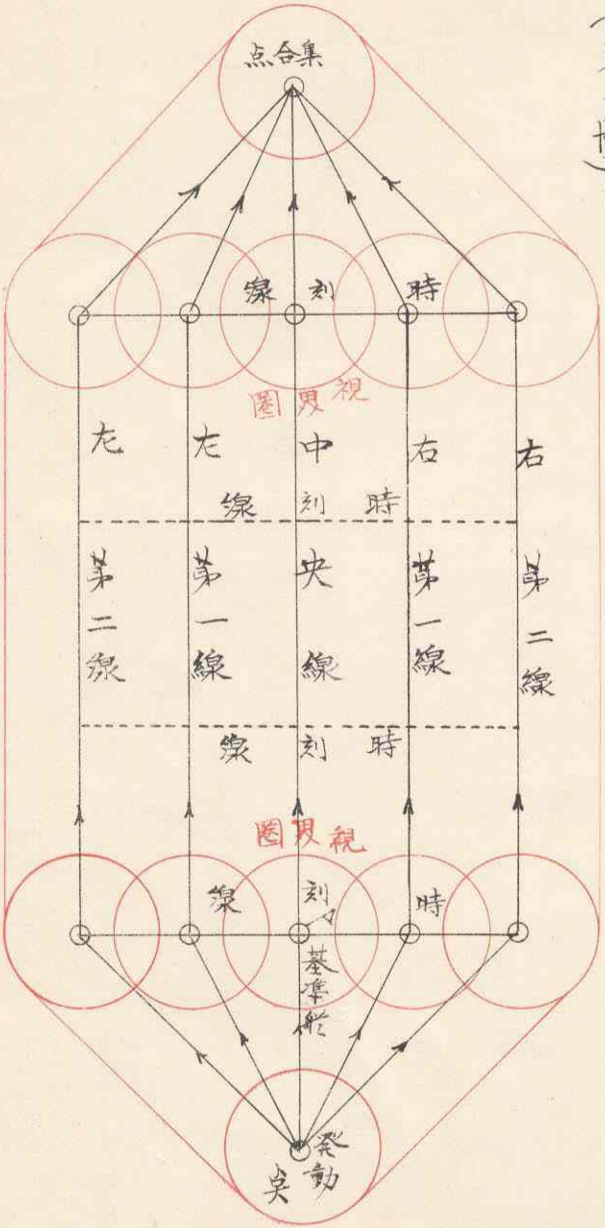
(三)強行偵察ニ於テハ常ニ戰鬪ヲ豫期セサル可ラス。故ニ其方法ハ凡テ戰術ニ準據スルヲ要ス。偵察隊若シ輕忽ニ敵ニ近接スルトキハ、往々不利ノ戰勢ニ於テ戰鬪スルノ己ムヲ得サルニ至リ、獨リ自ラ不慮ノ過失ヲ招クノミナラス、之レカ爲メ其主隊ニ煩累ヲ及ホシ、遂ニ期セスシテ本戰ヲ惹起スルコトアリ

強行偵察ハ可成的短時間ヲ以テ急劇ニ之ヲ行フモノニシテ、己ニ偵察ノ目的ヲ達スレハ、直ニ敵ト隔離セサル可ラス。緩慢ナル強行偵察ハ敵ニ我意圖ヲ察知セラレ、却テ其目的ヲ達スル能ハサルノミナラス、屢々敵ニ乘セラレテ危險ニ陷リ、損害ヲ增加スルノ原因トナルヘシ

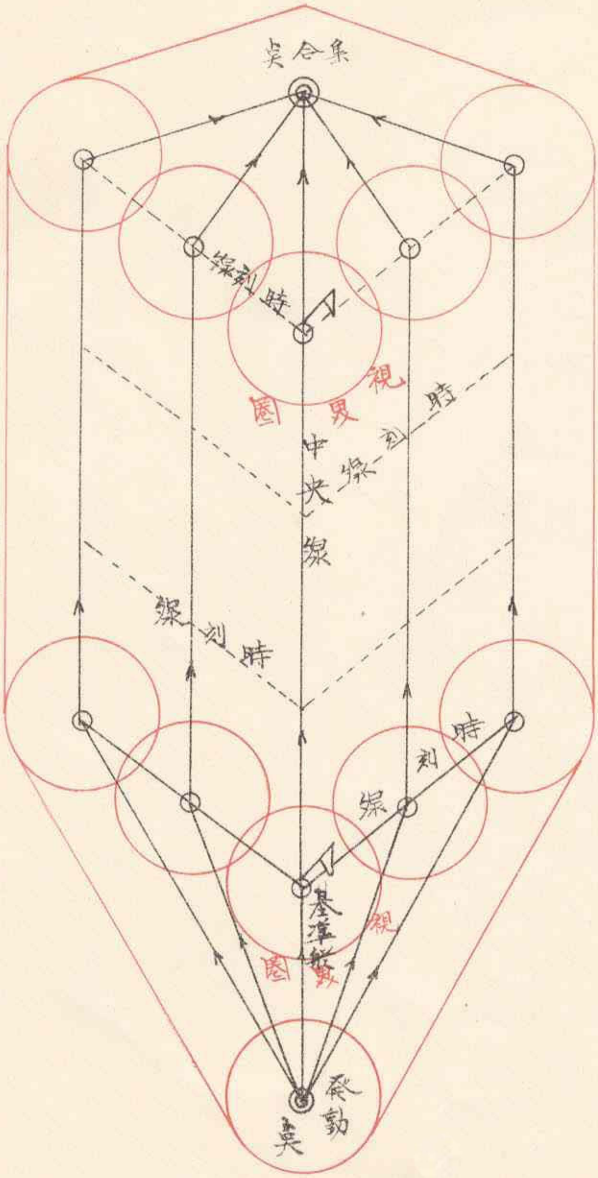
○凡ソ艦隊指揮官偵察隊ヲ分派スルトキハ、爲シ得ル限リ、其後方適當ノ距離ニ、別ニ强勢ナル掩護部隊ヲ派出スルヲ可トス。是レ偵察隊ノ人意ヲ强クシ、且ツ危急ノ際之ヲ赴援シ得ルヲ以テ、其間接ノ効力少カラサルヲ以テナリ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

第一圖

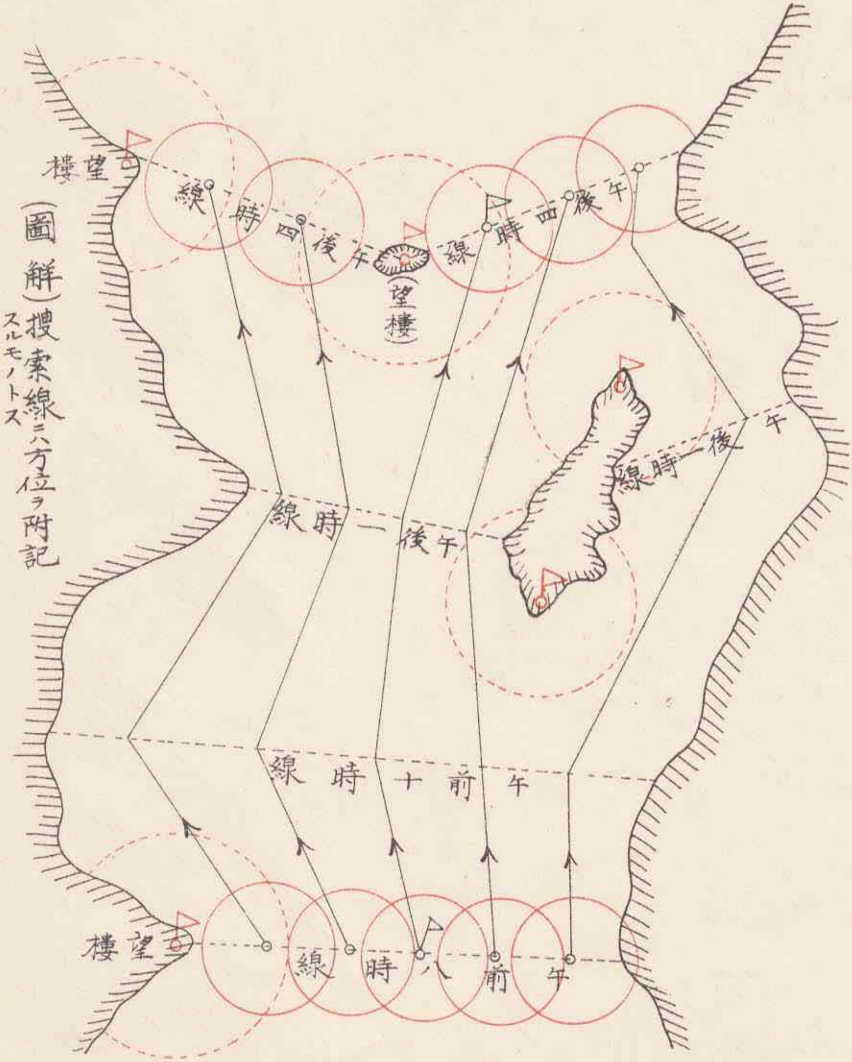


（第二圖）



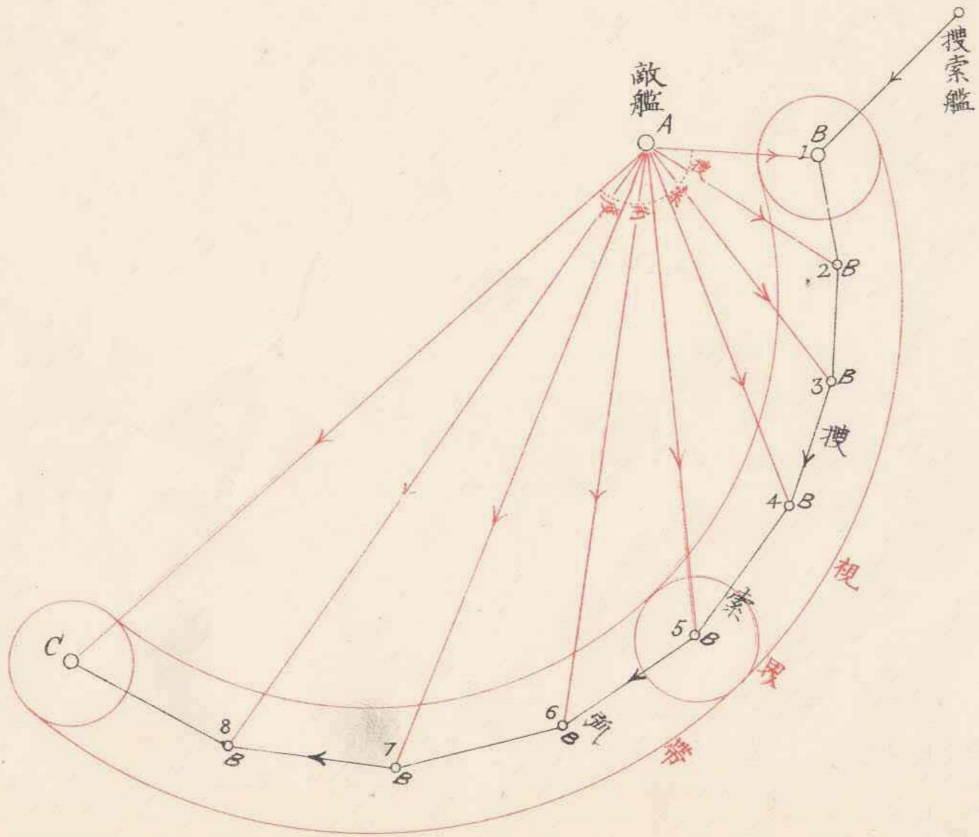
HP『海軍砲術学校』公開史料

〔第三圖〕

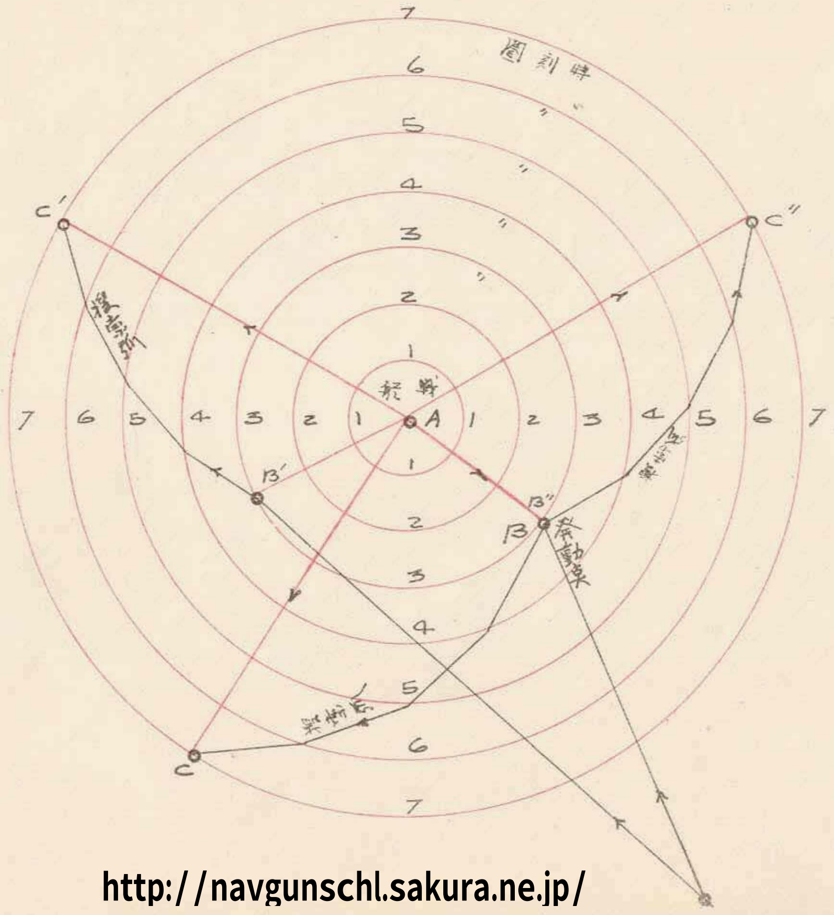


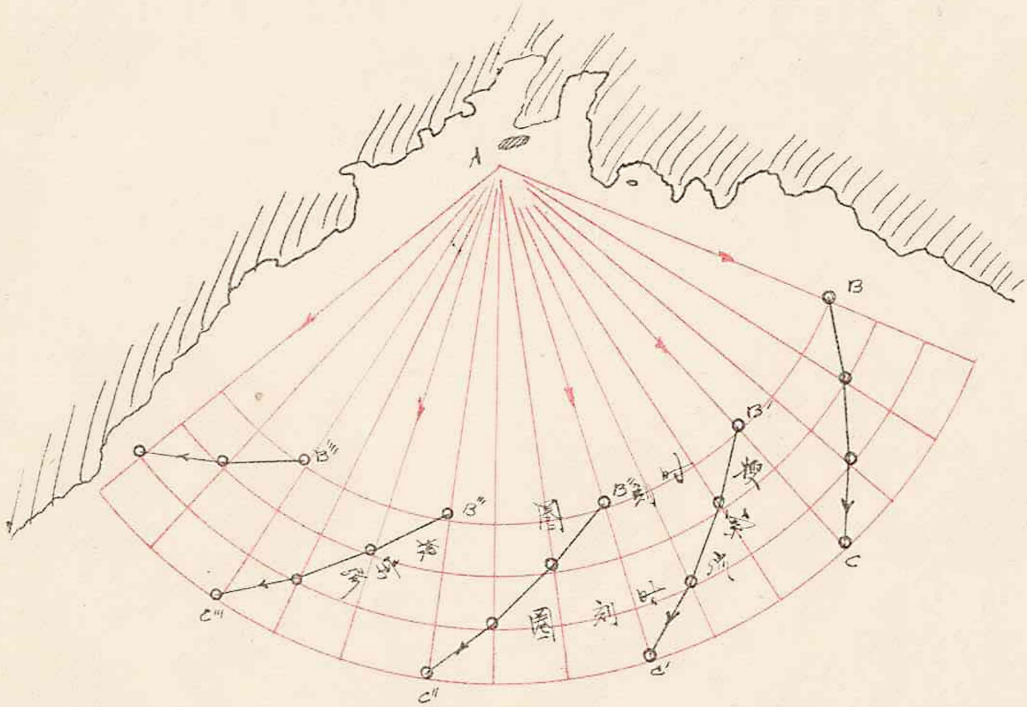
http://navgunschl.sakura.ne.jp/

〔第四圖〕



(第五圖)





第六圖

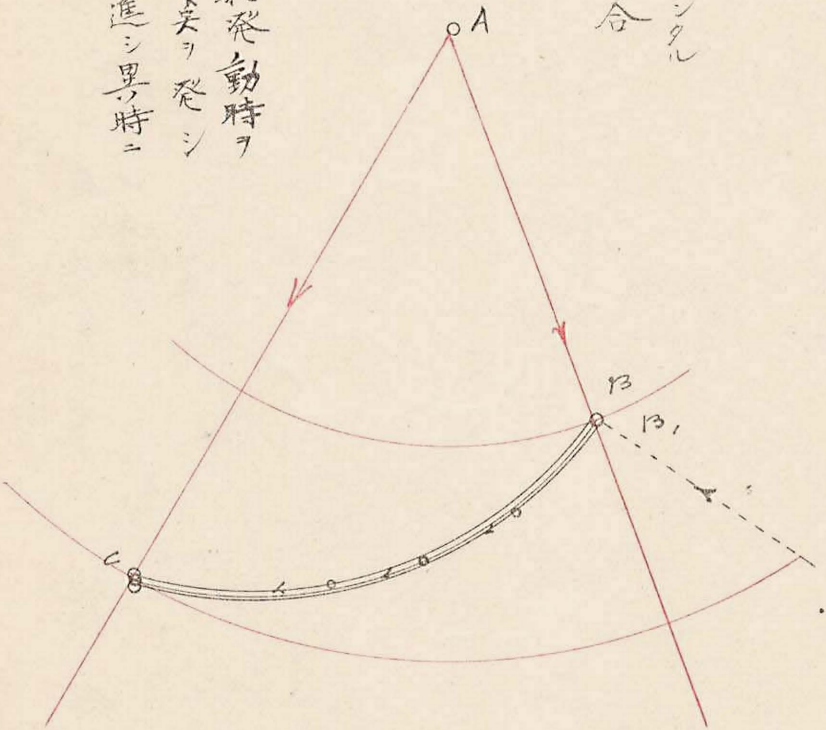
HP『海軍砲術学校』公開史料

（第七圖）

○敵ノ(A)点ヲ発シタル時刻不明ノ場合

〔圖解〕

数集ノ捜索航発動時ヲ異ニシテ全一地点ヲ発シ全捜索弧ヲ航進シ異時ニC点ニ到着ス

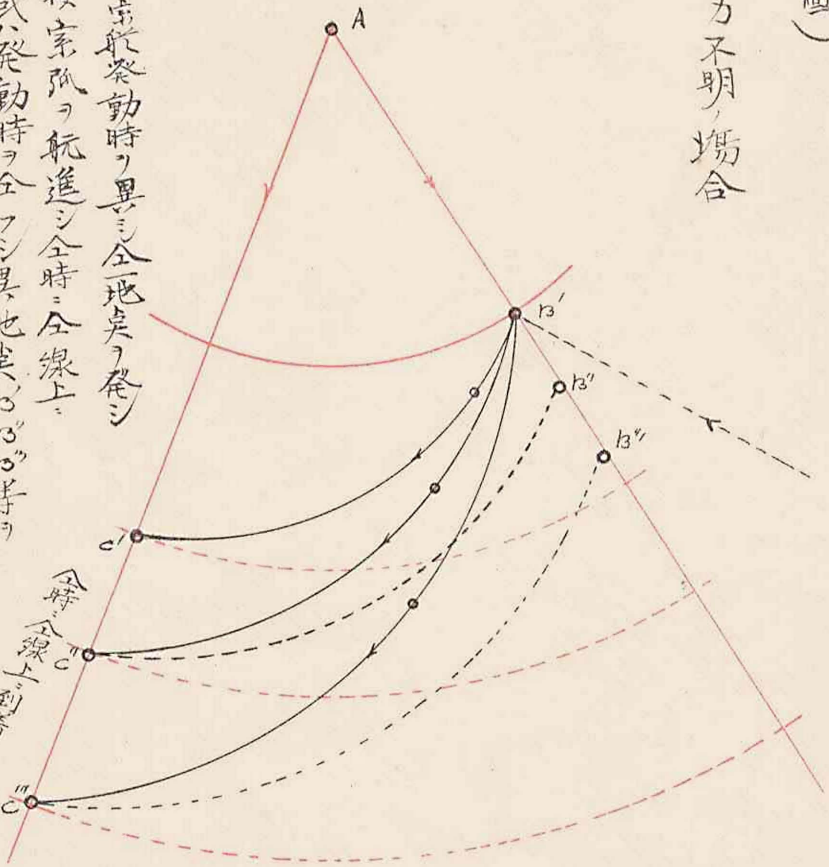


http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

（第八圖）

○敵ノ速力不明ノ場合



（圖解）

數隻ノ捜索航空動時ヲ異シ全地点ヲ発シ各別ノ捜索弧ヲ航進シ全時ニ全線上ニ到着ス或ハ発動時ヲ全クシ異地点B'B''B'''等ヲ発シ各別ノ捜索弧ヲ航進シ全時ニ全線上ニ到着ス

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

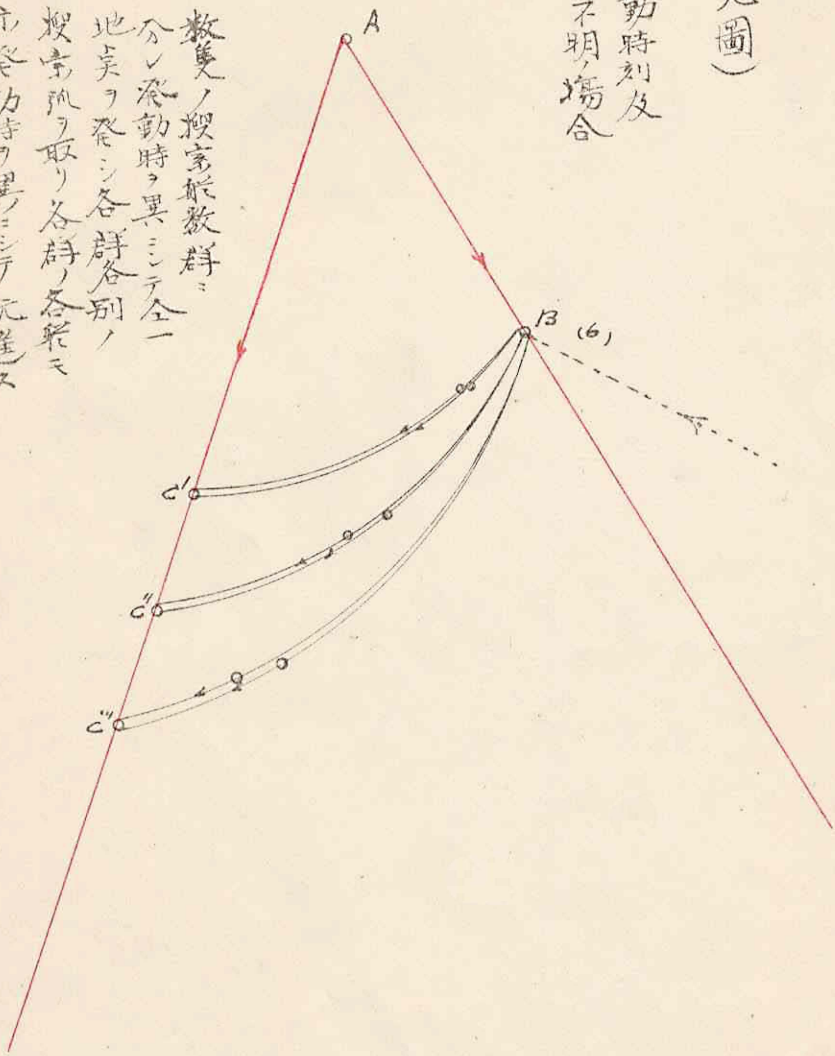
HP『海軍砲術学校』公開史料

（第九圖）

○敵発動時刻及其速力不明ノ場合

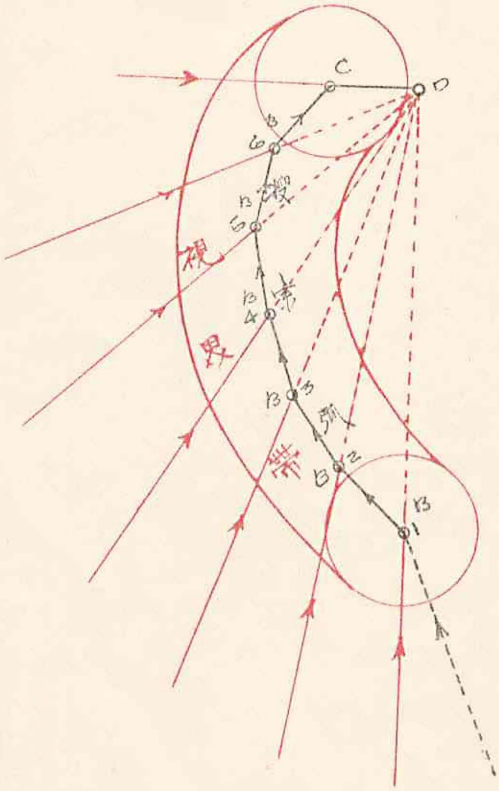
（圖解）

数隻ノ捜索艦数群ニ分レ発動時ヲ異ニシテ全一地点ヲ発シ各群各別ノ捜索孤ヲ取リ各群ノ各艦モ亦発動時ヲ異ニシテ航進ス

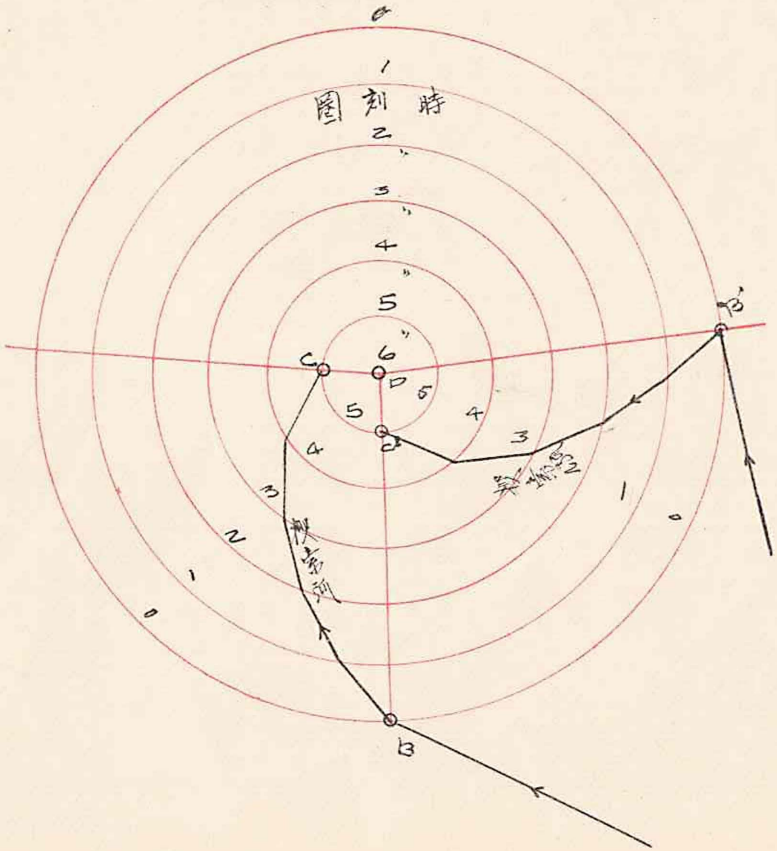


http://navgunschl.sakura.ne.jp/

（第十圖）



第十一圖



HP『海軍砲術学校』公開史料

捜索弧表

VALUE OF $\frac{\rho\theta}{\rho o}$

θ \ ρo	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1·9	2.0
1	1.038	1.026	1.021	1.018	1.015	1.014	1.013	1.012	1.011	1.010
2	1.078	1.053	1 042	1.036	1·032	1.029	1.025	1.023	1.022	1.020
3	1.119	1.080	1.064	1.054	1.048	1.043	1.038	1.035	1.033	1.030
4	1.162	1.108	1.087	1.073	1.064	1.057	1.052	1.048	1.044	1.041
5	1.206	1.137	1.110	1.092	1.080	1.072	1.065	1.060	1.055	1.051
6	1.252	1.167	1.133	1.111	1.097	1.087	1.078	1.072	1.066	1.062
7	1.301	1.197	1.157	1.131	1.114	1.102	1.092	1.084	1.077	1.072
8	1.350	1.229	1.181	1.151	1.131	1.117	1.106	1.097	1.089	1.083
9	1.402	1.261	1.206	1.172	1.149	1.133	1·120	1.110	1.101	1.094
10	1.455	1.294	1.231	1.193	1.167	1.149	1.134	1.123	1.112	1.105
11	1.511	1.327	1.257	1.214	1.185	1.161	1.149	1.136	1.124	1.116
12	1.569	1.362	1.283	1.235	1.203	1.181	1.163	1.149	1.137	1.127
13	1.629	1.398	1.310	1.257	1.221	1.197	1.178	1.163	1.149	1.139
14	1.691	1.434	1.338	1.280	1.241	1.214	1.193	1.176	1.161	1.150
15	1.756	1.472	1.366	1.302	1.260	1.231	1.208	1.190	1.173	1.162
16	1.823	1.511	1.395	1.326	1.280	1.248	1.223	1.204	1.186	1.173
17	1.893	1.550	1.424	1.349	1.300	1.265	1.239	1.218	1.199	1.185
18	1.965	1.590	1.454	1.373	1.320	1.283	1.254	1.232	1.212	1.197
19	2.040	1.631	1.484	1.397	1.340	1.301	1.270	1.246	1.225	1.209
20	2.118	1.674	1.516	1.423	1.361	1.319	1.286	1.261	1.238	1·221
21	2.199	1.717	1.547	1.448	1.382	1.337	1.302	1.275	1.251	1.233
22	2.283	1.762	1.580	1.473	1.403	1.355	1.319	1.290	1.264	1.245
23	2.370	1.808	1.613	1.499	1.428	1.374	1.336	1.305	1.278	1.258
24	2.461	1.856	1.647	1.526	1.447	1.393	1.353	1.321	1.291	1.260
25	2.555	1.905	1.681	1.553	1.470	1.413	1.369	1.336	1.305	1.283
26	2.653	1.954	1.717	1.581	1.493	1.432	1.387	1.352	1.319	1.296
27	2.755	2.005	1.753	1.608	1.516	1.452	1.405	1.367	1.333	1.309
28	2.860	2.057	1.790	1.638	1.539	1.472	1.423	1.383	1.348	1.322
29	2.969	2.116	1.827	1.667	1.564	1.493	1.441	1.399	1·363	1.336
30	3.082	2.166	1.866	1.696	1.588	1.514	1.459	1.415	1.388	1.349

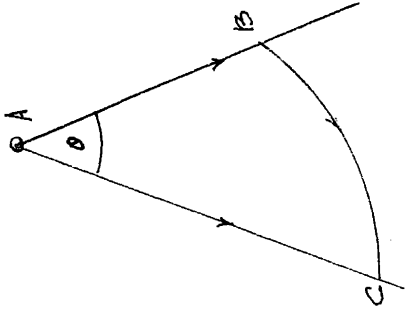
http://navgunschl.sakura.ne.jp/

v……敵艦速力

V……捜索艦速力

$\rho\theta$……AC

ρo……AB



HP『海軍砲術学校』公開史料

第七章　警戒

第一節　警戒ノ要義

○凡ソ艦隊戰地ニアルトキハ、其航行セルト碇泊スルトニ論ナク、敵ノ遠近動靜ニ應シテ、敵襲ニ對スル相當ノ警戒ヲ要ス。之レカ爲メ、艦隊ハ必要ノ戰備ヲ整ヘ、自衛ノ姿勢ヲ持スルト仝時ニ、適當ノ距離ニ警戒隊ヲ配備スルモノトス

艦隊警戒中其諸艦ハ常ニ煤煙ノ騰昇、浮流物ノ投棄ヲ禁止シ、特ニ夜間ハ舷外ニ發露スヘキ燈火ヲ隱蔽シ、濠笛、時鐘、號砲、號音等ノ如キ發音ヲ停止スルモノトス。又無線電信モ緊急通信ノ外發受セサルヲ要ス。而テ晝間ハ可成的檣頭ニ近ク若干ノ哨兵ヲ配置シテ（必要ノトキハ將校ヲ配ス）四圍ノ見張リヲ嚴ニシ、夜間ハ艦內哨兵ヲ張リ、豫メ探照區域ヲ劃定シテ、敵ノ水雷攻擊ニ備ルモノトス

警戒隊ノ任務ハ全隊ノ耳目トナリテ、敵ノ近接ヲ速知シ、爲シ得レハ之ヲ擊退シテ、主隊ヲシテ必要ノ措置ヲ取ルノ時間ヲ得セシムルニアリ。而テ其兵力ハ警戒ノ程度ニ依リ同シカラスト雖モ、晝間ハ概子巡洋艦若ハ通報艦、夜間ハ主トシテ驅逐艦又ハ水雷艇ヲ以テ之レニ充ツルモノトス

○艦隊指揮官警戒隊ヲ配備スルトキハ、須ク左記ノ諸要義ニ準據セサル可ラス

一、警戒區域ヲ區分シ、各警戒隊ノ分擔ヲ指定スルヲ要ス

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

(註) 警戒ヲ嚴ニセンニハ敵ヲシテ侵入スルノ虛隙ナカラシメサル可ラス。廣濶ナル警戒面ヲ一部隊ニ守備セシメンヨリハ、寧ロ之ヲ數區ニ分置シテ、責任ヲ分擔セシムルニ如カス。但シ小分ニ過クルトキハ又兵力ヲ分散スルノ不利アリ

二、警戒隊ハ通信距離以外ニ派出セザルヲ要ス

(註) 警戒ノ目的ハ索敵ニアラスシテ濟敵ニアリ。故ニ通信距離以外ニ耳目ヲ延長シテ敵情ヲ探知スルモ、其警報ノ到ルハ通信距離以内ニ入リタル後ニシテ、何等ノ効用ナキノミナラス、却テ之レカ爲メ敵ノ注意ヲ牽クノ害アリ

三、警戒隊ノ交代ハ可成的一晝夜以内タルヲ要ス

(註) 警戒隊ノ服務ハ常ニ健全ナル鋭氣ヲ以テセサル可ラス。一日以上ノ勤續ハ惰氣ヲ生シ易ク、率テ警戒ノ弛慢ヲ來スモノナリ。倦怠セル警戒隊ニ信頼スルハ禍害ノ原因ヲ成スコト多ク、寧ロ其無キヲ優レリトス

四、友軍ノ識別暗號及警急信號ヲ制定スルヲ要ス

(註) 敵ノ侵襲ヲ覺知シ且ツ友軍相擊ツコトナカラシメンニハ、須ク彼我ヲ識別スルノ方法アラサル可ラス。識別暗號ハ之レカ爲メ制定サルヽモノニシテ、晝間、夜間及近距離、遠距離ノ四樣ニ用フルモノアルヲ要ス。又仝一ノ暗號ヲ常用スルトキハ敵ニ漏洩スルノ虞アルヲ以テ、

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

時々之ヲ變更セサル可ラス

又敵ノ急襲ヲ警報スルニハ最モ簡明ナル警急信號ノ設ケアルヲ要ス。長文ノ通信等ハ危急ニ應用スルコト殆ト難シ

○又警戒隊ハ其服務上左記ノ諸要義ヲ服膺セサル可ラス

一、敵襲ヲ擊退スルヲ努ムルト仝時ニ可成的其警戒區域ヲ離レサルヲ要ス

(註) 敵ヲ近接セシメスシテ、主隊ニ煩累ヲ與ヘサルハ警戒隊ノ本務ナリ。然レトモ濫リニ敵ヲ長驅シテ其任所ヲ空虛ニシ、第二ノ敵襲ヲ防止スル能ハサルカ如キハ警戒ノ目的ニ添ハサルモノナリ

二、主隊ノ所在及行動ヲ隱蔽スルヲ要ス

(註) 假令ヒ敵ヲ擊退シ得サルコトアルモ、尙ホ爲シ得ル限リ、主隊ノ所在及行動ヲ隱蔽セサル可ラス。是レ少クモ主隊ヲシテ之ニ對スル措置ヲ取ルノ時間ヲ得セシムレハナリ。加之敵ノ偵察隊等ハ單ニ我主隊ノ動靜ノミヲ知ラントシテ侵入シ來ルコトアリ

三、敵ト共ニ主隊ノ戰鬪距離以內ニ混入セサルヲ要ス

(註) 警戒隊敵ト混戰シテ主隊ニ近接スルトキハ、之レカ爲メ却テ主隊ノ防禦力ヲ減殺スルモノナリ。特ニ夜間彼我ノ識別明カナラサル場合ニ於テ然リトス。斯クノ如キ場合ニハ寧ロ警報ノ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

ミヲナシテ、主隊ノ戰鬪距離以外ニ遠カルヲ可トス

○前記スル處ハ警戒航行及警戒碇泊ノ何レニ於テモ、一般ニ準據服膺サルヘキ警戒ノ要義ニシテ、尙ホ両者相異ルモノハ後節警戒法ノ部ニ之ヲ記入ス

第二節　航行中ノ警戒法

○航行艦隊ノ警戒法ハ、警戒ノ要義ニ則リ、適當ノ距離ニ配備セル警戒隊ノ警固ト其主隊ノ自衛トニ依リテ成立ス

警戒隊ノ區分ハ通常前衞及後衞トシ、又必要ニ應シテ左右側衞ヲ派出スルモノトス。而テ索敵航行ニ於テハ前衞ヲ其主力トシ、避敵航行ニ於テハ後衞ヲ主力タラシム

警戒隊配備ノ方法ハ晝間ト夜間ニ於ケル視界ノ關係ニ依リ、自ラ其差別アリ。晝間ノ警戒ニハ警戒隊ヲ遠距離ニ配備シ、主トシテ巡洋艦ノ戰隊ヲ以テ之レニ充テ、又夜間ハ近距離ニ配備シ水雷戰隊專ラ之レニ任スルモノトス。而テ其目的トスル處ハ敵ノ近接ヲ發見シテ之ヲ主隊ニ警報スルト仝時ニ、爲シ得レハ之ヲ擊退シテ主隊ニ煩累ヲ與フルコトナク其行動ヲ澁滯セシメサルニアリ。以下各別ニ其警戒法ヲ列記ス

（晝間ノ警戒法）

○晝間ノ警戒隊ハ第一圖ニ示スカ如ク配列スルモノニシテ、前衞ハ主隊ノ前方三十浬、後衞ハ後方十

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

五浬、又側衛ハ前方十浬側方十五浬ノ距離ニ占位シ、各主隊ト全一ノ速力ヲ以テ前進スルモノトス。此等ノ占位ハ通常ノ天候ニ於ケル晝間ノ展望十五浬ト艦隊ノ航行速力十節乃至十五節ヲ標準トシテ、算定サレタルモノニテ、視界尚ホ遠キニ及フトキハ此距離ヲ伸長スルモ可ナリ。但シ小部隊ノ警戒航行ニ於テハ通常前衛（避敵航行ニハ後衛）ノミヲ配備シ、其距離モ亦前方二十浬、（後方ハ十浬）ニ短縮スルモノトス

各警戒隊ノ警戒區域ハ、前衛ハ正横前半面、後衛ハ正横後半面、又左右側衛ハ正首ヨリ正尾ニ亘ル各側方半面トス。而テ各警戒隊ハ更ニ圖示ノ如ク前後左右五浬乃至十浬ノ距離ニ三尖艦ヲ派出シ、以テ其視界ヲ擴張スルモノトス。但シ警戒隊ノ兵力寡小ナルトキハ單ニ其第一尖艦ノミヲ出スヲ例トス。斯クノ如クスルトキハ、主隊ノ四周ニ一ツノ空隙無ク、敵何レノ方面ヨリ近接シ來ルモ、先ツ警戒隊ノ視線ニ觸レテ警報セラルヘキヲ以テ、其主隊ノ視界内ニ入ル迄ニハ少クモ一時間ノ餘裕ヲ有セリ。之ヲ要スルニ、過度ニ兵力ヲ分散スルコト無ク、且ツ警戒面ニ空隙ヲ生セサル限リ、可成的視界ヲ擴張スルヲ可ナリトス

○索敵航行ニ於ケル前衛（避敵航行ニ於テハ後衛）ノ兵力ハ艦隊ノ現有セル全巡洋艦隊（一等巡洋艦ヲモ含ム）ノ四分ノ一以内トシ、側衛及後衛（避敵航行ニテハ前衛）ニハ他ノ四分ノ一ヲ以テ充ツルヲ通則トス。即チ全巡洋艦ノ半數以内ヲ全警戒隊ニ充テ、給與休養等ノタメ交代ヲ便ニスルモノナリ。然リト雖モ前衛ハ屢々搜索若ハ偵察ノ任務ヲ兼掌シ、又後衛ハ追尾シ來ル敵ノ水雷艇隊等ヲ遠ク擊攘驅逐セサル可ラサルコトアルヲ以テ、斯

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

クノ如キ場合ニハ相當ノ兵力ヲ增加スルヲ要ス。加之戰鬪後ニ於ケル追擊戰ノ前衛、退却戰ノ後衛ノ如キ戰鬪ノ任務ヲ有スルモノハ、敵情ニ應シテ、特ニ充分ノ兵力ヲ有セシメサル可ラス

又各警戒隊ニハ尙ホ必要ニ應シテ、若干ノ通報艦若ハ驅逐艦ヲ附屬シ、警戒隊ノ近距離偵察又ハ通報傳令等ニ使用セシムルコトアリ、特ニ後衛ハ敵ノ驅逐隊若ハ水雷艇隊ヲ擊攘スルタメ、此艦種ヲ有スルノ必要最モ多シ

○凡ソ警戒航行ニ於テ、艦隊指揮官ハ必ス先ツ左ノ諸項ヲ各警戒隊ニ指示シ、若シ之ヲ變更スルトキハ其都度之ヲ指示スルヲ要ス

一、豫定航路

一、豫定航行日程及航行速力

一、翌日ノ會合地點

一、各警戒隊ノ配置及其兵力

一、各警戒隊ノ交代時刻

一、遭敵ニ對スル攻擊ノ程度

而テ各警戒隊ハ指示サレタル處ニ基キ、正確ニ其占位ヲ保持スル如ク航進シ、若シ其位地不明ナルニ至レハ、一艦ヲ主隊ノ方向ニ派遣シテ、之ヲ正サヾル可ラス。又遠ク煤煙、艦影等ヲ發見シテ、之ヲ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

偵察スルカ、或ハ敵ニ遭遇シテ之ヲ攻撃センカタメ、其定位ヲ離レサル可ラサル場合等ニ於テハ少クモ一艦ヲ原位ニ駐メテ、自己担任ノ警戒ヲ繼續セシメ、且ツ其定位ヲ失ハシメサルヲ要ス。而テ遂ニ日没前歸合スル能ハサルトキハ翌日ノ會合地點ニ直進シ、夜間ハ其主隊ニ近接セサルモノトス

（夜間ノ警戒法）

○夜間ノ警戒隊ハ第二圖ニ示スカ如ク配備スルモノニシテ、前衛ハ主隊ノ前方三千米突、後衛ハ後方千五百米突、又側衛ハ前方一千米突側方一千米突ノ距離ニ占位シ、各主隊ト仝一ノ速力ヲ以テ前進スルモノトス。此定位ヲ撰ミタルモノハ、敵ノ驅逐隊若ハ水雷艇隊カ主隊ヲ襲撃スルトキ、必ス先ツ我針路及速力ヲ確ムルタメ、主隊ノ前後及側方ニ運動シ、然ル後前方ヨリ反航襲撃スル場合最モ多キヲ以テナリ。而テ主隊ノ左右側面ヲ空虛ニシタルハ、警戒隊カ敵ヲ發見シテ警報シタル際主隊カ左右任意ニ其針路ヲ變換シテ、敵襲ヲ避クルニ便ナラシメタルモノナリ

然レトモ夜間ノ警戒ハ到底其完全ヲ期シ難キモノニシテ、敵襲ヲ避ケント欲セハ、寧ロ日没前其視界外ニ遠カルヲ最モ安全ナリトス。故ニ艦隊警戒航行中日没前敵ノ水雷艇隊等ニ追尾セラル、トキハ、後衛ヲシテ極力之ヲ驅逐セシメ、主隊ハ日没後適宜其針路ヲ變シテ敵眼ヲ晦マスヲ可トス

○夜間ノ警戒隊ニ充ツヘキ水雷戰隊ノ兵力分配ハ概子晝間ノ警戒法ニ仝シ。但シ警戒任務ニ服セサル水雷戰隊ハ別ニ一梯團ヲ成シテ、主隊ノ後方約二十浬ニ續航シ、以テ敵襲ニ際シ彼我ノ混淆ヲ避クル

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

モノトス、而テ此梯團ハ主トシテ晝間ノ後衛ニ附屬シテ敵水雷戰隊ノ驅逐ニ從事シタルモノヲ充ツルヲ便ナリトス

○夜間ノ警戒航行中敵襲ヲ受クルトキハ、主隊ハ已ムヲ得サルノ外、探照砲擊ヲ行フコトナク、勉メテ敵眼ヲ避クルヲ可トス。是レ探照砲擊ハ却テ我カ位地及隊制ヲ敵ニ暴露シ、防禦ノ効力比較的僅少ナルヲ以テナリ。而テ若シ探照セサル可ラサルニ至レハ、第七圖ノ一例ニ示スカ如ク、全軍一齊ニ點燈シテ、各艦其探照區域ヲ確守シテ探照スルヲ効力最大ナリトス

又各警戒隊敵ヲ發見スルトキハ、直ニ之ヲ警報スルト仝時ニ極力探照砲擊ヲ加ヘテ、敵眼ヲ眩惑シ之ヲ擊退スルニ努メサル可ラス。而テ敵ト混戰シテ主隊ノ射程内ニ亂入シ、或ハ之ヲ長驅シテ警戒區域ヲ空虛ナラシメサルヲ要ス。但シ主隊若シ其針路ヲ變スルトキハ依然舊針路ヲ執リテ敵ヲ他方ニ誘致スルニ努ムルモノトス

第三節　碇泊中ノ警戒法

○碇泊艦隊ノ警戒法ハ、警戒ノ要義ニ則リ、港外ニ於ケル警戒隊ノ哨戒ト、泊地ニ於ケル主隊ノ自衛トニ依リテ成立ス

碇泊中ノ警戒隊ハ通常内哨及外哨ヨリ成リ、必要ニ應シテ、更ニ最外哨ヲ派出スルモノトス。之レカタメ、第三圖ニ示スカ如ク、港外ニ三哨線ヲ劃ス。其各哨線間ノ距離ハ地形、天候及警戒隊ノ兵力等

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

ニ準シ一定セスト雖モ、通常第一及第二哨線間ヲ五浬乃至十浬トシ、第二及第三哨線間ヲ貳十浬ト定ム。而テ第二及第三哨線ハ内哨及外哨ノ哨戒線ニシテ、第一哨線ハ即チ主隊ノ自衛區域ト警戒隊ノ警戒區域ノ限界ヲ成シ、主隊ヨリ特派セル哨艇（魚雷水雷艇若ハ汽艇）等ノ警邏スヘキ處ナリ

内哨、外哨ノ警戒區域ハ圖示ノ如ク、中央又左右三幹線ヲ以テ之ヲ等分シ、内外第一乃至第四ノ八哨區ニ分劃シ、以テ哨戒ノ分擔ニ便ナラシム。但シ地形ニ應シテ、必シモ此通則ニ據ルコト無ク、第五圖ニ示スカ如ク、適宜ニ之ヲ區分スルコトアリ。之ヲ要スルニ、一部隊ニ大面積ヲ警戒セシメ、從テ其移動距離ヲ大ナラシムルハ、警戒ノ要義ニ添ハサルモノナリ

○警戒隊配備ノ方法ハ晝間ト夜間ニ於ケル視界ノ關係ニ依リ、自ラ其差別アリ。晝間ノ警戒ニハ外哨及最外哨ノミヲ配備シ、主トシテ巡洋艦ノ戰隊ヲ以テ之レニ充テ、又夜間ノ警戒ハ大抵外哨ヲ撤シ内哨ノミヲ配備シ、專ラ水雷戰隊ヲ以テ之レニ充ツルモノトス。而テ其任務ノ目的ハ航行中ノ警戒隊ト異ル處ナシ

○晝間ノ警戒ニ任スル外哨ノ兵力ハ通常一箇巡洋艦戰隊ニシテ、可成的全巡洋艦隊ノ四分ノ一以内ヲ使役シ、四順ヲ以テ二日毎ニ交代セシムルヲ可トス。是レ長時日ノ警戒碇泊ニ當リ、二順ノ交代ハ頻繁ニ過キ、給與及休養上ノ不便少カラサルヲ以テナリ。而テ外哨本隊ハ通常一團トナリテ、中央幹線上第三哨線ノ内方約十五浬ニ占位スルカ、或ハ又二團ニ分レテ左右幹線上ニ占位シ、各外哨區ノ中央

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

第三哨線上ニ圖示ノ如ク各一隻ノ哨艦ヲ配置スルモノトス。又兵力ニ餘裕アルトキハ、更ニ各幹線上ニ於テ十浬外方ニ三隻ノ最外哨艦ヲ派出シ、幹線ニ直角ニ運動シテ巡邏警戒セシムルヲ可トス

外哨ハ通常日沒前之ヲ撤シ日沒時ニ第二哨線ニ到達スル如ク、泊地ニ向テ歸航スルモノトス。然レトモ敵ノ夜襲ヲ豫期スルトキハ、日沒前約二時間ヨリ更ニ外方ニ向ツテ開進セシムルコトアリ。是レ晝間ニ敵水雷戰隊等ノ近接ヲ發見シテ、內哨ノ警戒ニ助力セシメンカ爲メナリ。此場合ニ於テハ各哨艦一定ノ速力ヲ以テ夜半迄前進シ、翌朝日出時迄ニ舊哨位ニ復歸スルカ如ク運動スルモノトス

○夜間ノ警戒ニ任スル內哨ノ兵力ハ通常一箇水雷戰隊（即チ四箇驅逐隊）及通報艦三隻ニシテ、第四圖ニ示スカ如ク、各驅逐隊ハ各內哨區ヲ移動哨戒シ、各通報艦ハ三幹線ト第二哨線ノ交叉點ニ靜止哨戒スルモノトス。而テ第三及第四哨區ノ末端海岸ニ接近セル部分ニハ、敵ノ潛行ニ對シ、特ニ海岸監視哨若ハ固定哨艦ヲ配備スルヲ可トス

內哨ノ主要ナル任務ハ、敵ノ驅逐隊、艇隊若ハ水雷敷設艦等ノ港口ニ侵入スルヲ防止シ、以テ我主隊ニ危害ヲ加ヘシメサルニアリ。故ニ苟モ怪ム可キ艦影ヲ發見スルトキハ、當該方面ノ內哨ハ直ニ之ヲ探照シ、其友隊僚艦ニアラサル限リ、極力砲擊シテ之ヲ擊退スルモノトス。而テ若シ之ヲ阻止スル能ハサルモ自ラ第一哨線以內ニ進入セサルヲ要ス。又他方面ニアル內哨ハ依然其哨區ヲ警邏シ、其隣哨カ敵ヲ擊退スル能ハサル場合ノ外、濫ニ之レニ協力セサルヲ可トス。是レ夜間ノ接戰ハ敵兵衆多ナル

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

モ小團ノ兵力ヲ以テスルヲ有利トスレハナリ。而テ若シ隣哨ニ協力スル場合ニハ必ス友軍ノ識別燈ヲ掲示スルヲ要ス

○凡ソ艦隊警戒碇泊スルトキハ、其主隊ハ單ニ警戒隊ノ哨戒ノミニ依賴スルコトナク、又自ラ防衛スルノ手段ヲ盡サヽル可ラス。自衛ノ方法ハ泊地ニ於ケル哨艇配備、（第一哨線ニ之ヲ派出ス）水雷防禦網ノ展張及艦内哨兵配備等ニ據ルト雖モ、尚ホ須ク地物ノ利用ニ留意シ、能ク地形ニ應シテ其錨位ヲ撰ミ、又固定防禦物ヲ設置シテ地形上ノ不利ヲ補足スルヲ要ス

艦隊カ臨時設置シ得ル固定防禦物ハ概子一、防材、二、搦索、三、敷設水雷（視發、觸發若ハ機械）及四、擬水雷ノ四種ニシテ、之ヲ設置スルニハ、第六圖ノ一例ニ示スカ如ク、防材ヲ最内線トシ、前記ノ順序ニ準ヒ順次外方ニ設置スルヲ通則トス。是レ外方ニアル防禦物ハ自然ニ内方ノモノヲ保護シ、以テ防禦ノ効力ヲ全カラシメンカ爲メナリ。而テ各種防禦物ノ末端航路ニ對スル處ニハ、適當ノ位置ニ航路標識ヲ設置シ、以テ友軍ノ出入ニ便ニシ、又陸岸適宜ノ處ニ輕砲若ハ機關砲幷ニ探海燈ノ堡壘ヲ急造シ、或ハ、内方適當ノ距離ニ砲艦等ヲ泊在セシメ、以テ外方ヨリ防禦物ヲ破壞シ或ハ之レニ撞着スル敵ヲ砲擊セシムルニ備フルモノトス

防材ヲ設置スルニハ、圖示ノ如ク二線若ハ三線ニ分置シ、可成的航路ヲ屈曲セシメ、且ツ之ヲ二口トナシテ出港航路ト入港航路ニ區別スルモノトス。斯クスルトキハ單ニ敵ノ侵入ヲ困難ナラシメ、我艦

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

船衝突ノ危險ヲ豫防スルノミナラス、不時ノ事變等ニ依リ其一口ヲ通過スル能ハサル場合ニ於テモ、尚ホ他ノ一口ヲ利用シ得ルノ便アリ

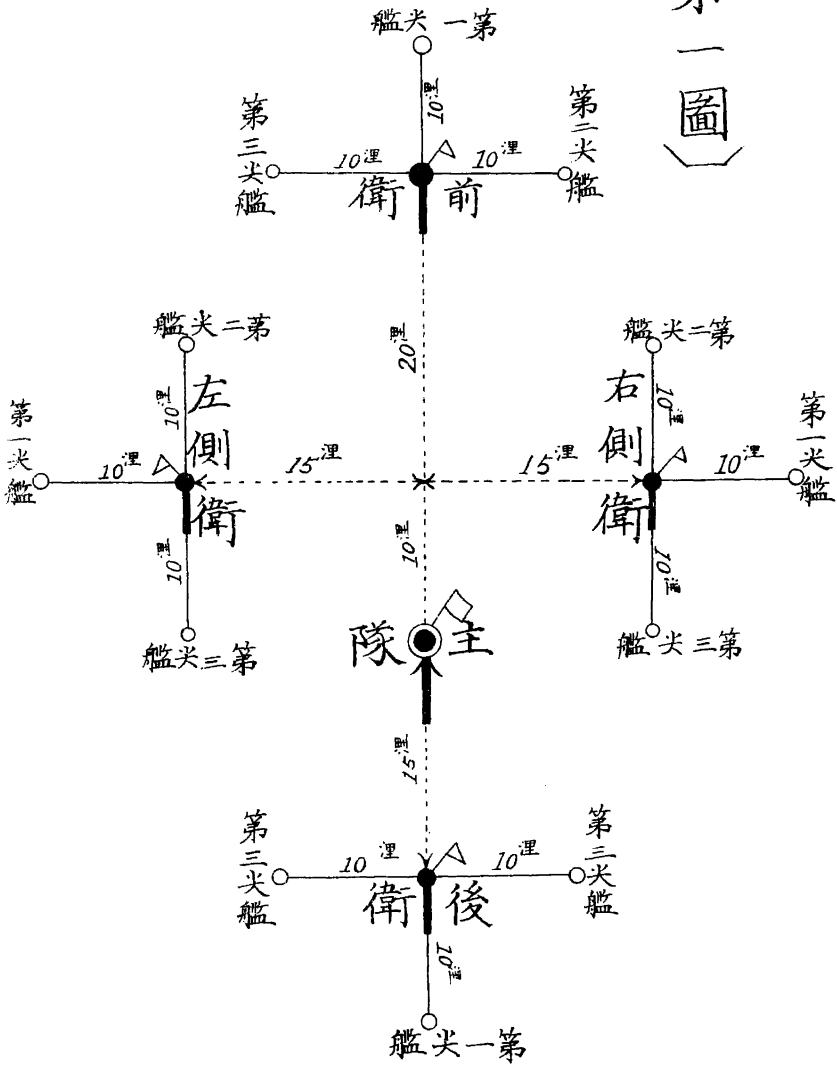
又泊地ノ陸上我軍ノ掌裡ニアルトキハ、最外固定防禦線ノ外方ニ近ク、海岸監視哨ヲ配置シ、爲シ得レハ之レト泊地ノ間ニ有線電信ヲ連絡スルヲ便ナリトス

如上ノ固定防禦物ノ設置及修補ノ事業ハ凡テ泊地ニ在ル主隊諸艦ノ分擔スヘキモノニテ、港外ノ警戒隊ニ充ツヘキ艦船ニハ之ヲ課セサルヲ要ス、是レ防禦物ヲ有効ニ保全スルニハ日々ノ檢視及修理ヲ要スルノミナラス、常ニ必要ノ人員ヲ定備セサル可ラサルヲ以テナリ

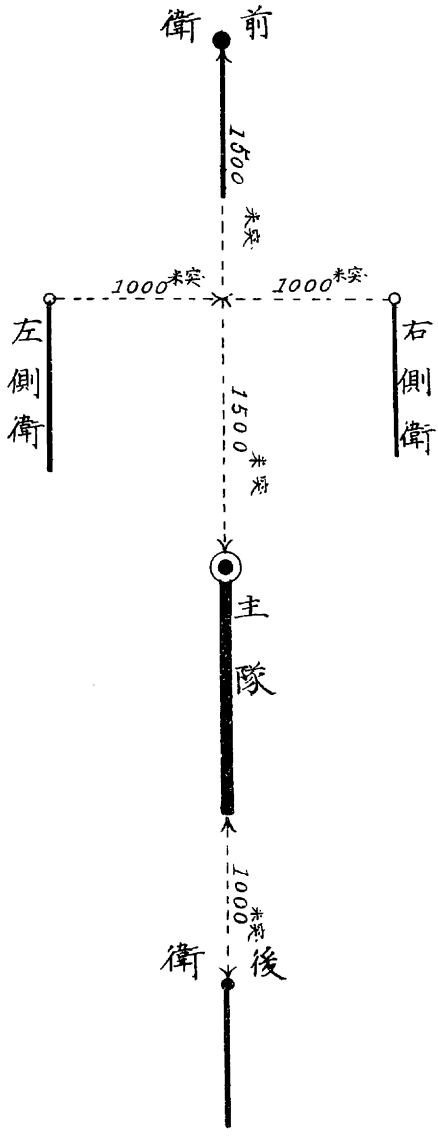
○警戒碇泊ニ於ケル固定防禦物ノ設置ハ、其簡易ナルモノト雖モ、大抵一日以上ノ時間ヲ要スルモノナリ。故ニ艦隊警戒航行ヨリ警戒碇泊ニ移ルニ際シ、其當日ニ於ケル泊地ノ防禦ハ比較的薄弱ナルヲ常トス。斯クノ如キ場合ニハ須ク警戒隊特ニ内哨ノ兵力ヲ增加シ、港外ノ哨戒ヲ嚴重ナラシメサル可ラス。若シ又敵地ニ碇泊スル場合ニハ、先ツ陸戰隊ヲ派シテ陸上ニ在ル敵ノ諸通信機關ヲ破壞セシメタル後ニ入港碇泊シ、少クモ一日間敵ヲシテ我カ泊地ノ何レニアルヤヲ知ル能ハサラシムルヲ可トス

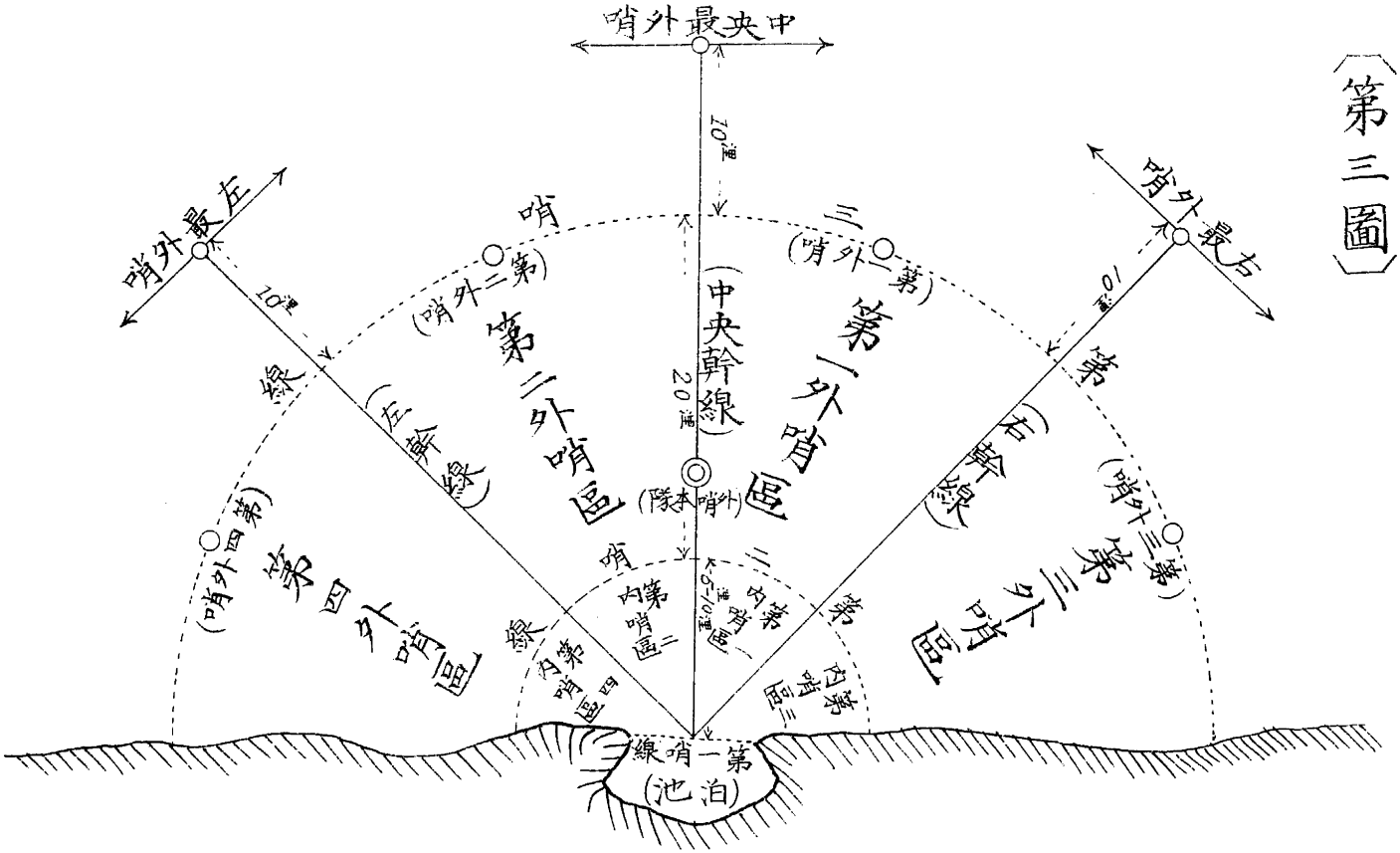
http://navgunschl.sakura.ne.jp/

〈第一圖〉


第一艦尖
10浬
第三艦尖
10浬
前衛
10浬
第二艦尖
20浬
第二艦尖
左側衛
10浬
第一艦尖
10浬
15浬
10浬
第二艦尖
右側衛
15浬
10浬
第一艦尖
10浬
第三艦尖
隊主
15浬
第三艦尖
10浬
後衛
10浬
第三艦尖
10浬
第一艦尖

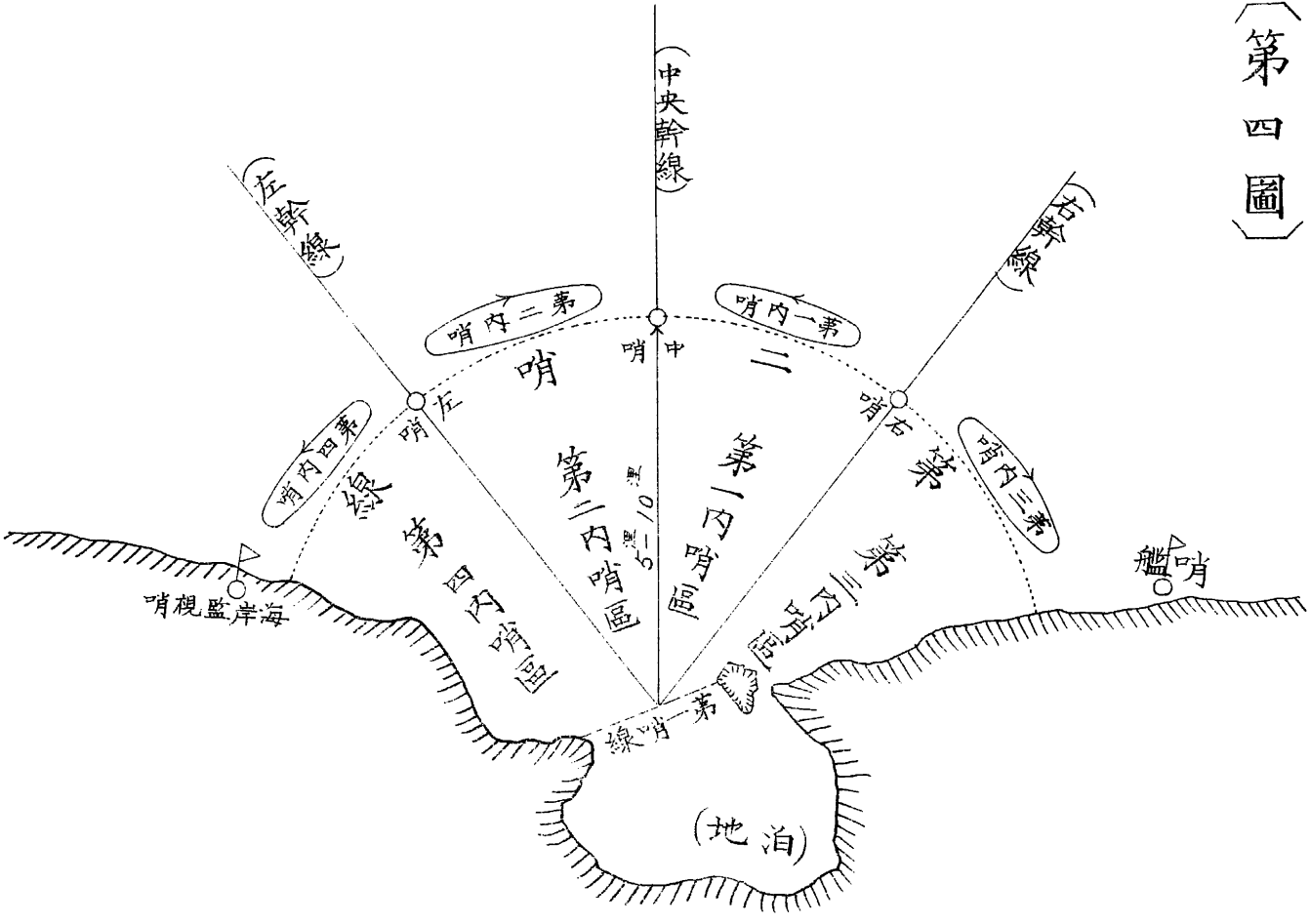
第二圖

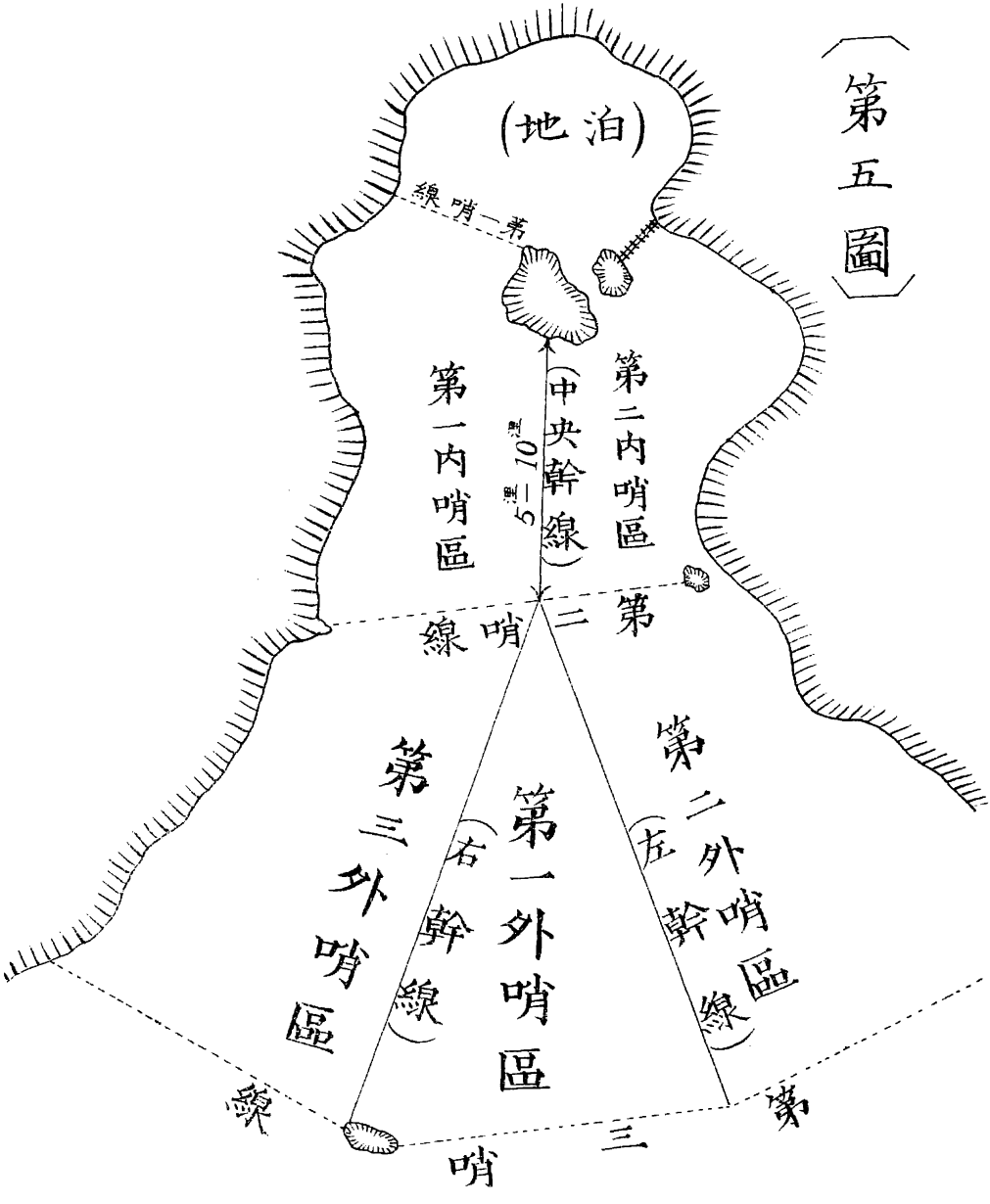



哨外最央中
哨外最左
哨外最右
10間
10間
10間
哨
(哨外二第)
三
(哨外一第)
第二外哨區
第一外哨區
(中央幹線)
20間
(隊本哨外)
線
(左幹線)
第
(右幹線)
(哨外四第)
(哨外三第)
第四外哨區
第三外哨區
哨
線
第
哨內第二區
哨內第一區
哨內第四區
哨內第三區
線哨一第
(池泊)

〔第三圖〕

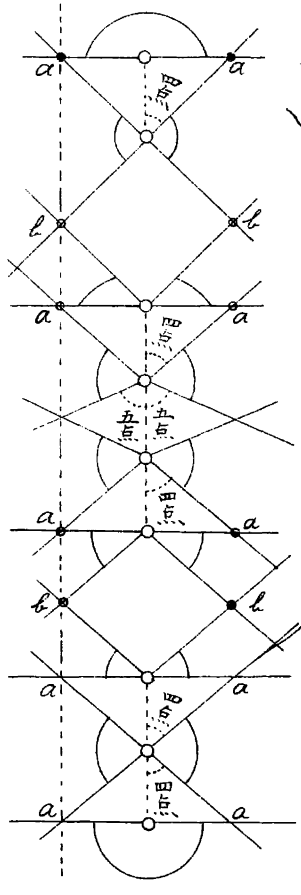
第四圖


中央幹線
左幹線
右幹線
哨内二第
哨内一第
哨内四第
哨内三第
哨中
哨左
哨右
第二哨線
第一哨線
第四哨線
第三哨線
第二哨區
第一哨區
第四哨區
第三哨區
第一哨線
哨視監岸海
艦哨
(地泊)


第五圖
(泊地)
第一哨線
第一内哨區
第二内哨區
(中央幹線)
5里 10里
第三哨線
第一外哨區
第二外哨區
(右幹線)
(左幹線)
第三外哨區
第三哨線

第六圖
（地　泊）
第三防材
第二防材
第一防材
索搦
雷水發觸ハ又發視
雷水發觸ハ又發視
海岸監視哨
海岸監視哨
雷水擬
雷水擬
航路標機
航路標機

〔第七圖〕



〔圖解〕(b)點ハ(a)點ト一直線上ニ交叉スルヲ要ス

HP『海軍砲術学校』公開史料

第八章　封鎖

第一節　封鎖ノ種別及要義

○封鎖トハ兵力ヲ以テ海上ヨリ敵ヲ一地ニ包圍シ、其他部トノ交通ヲ遮斷スル攻勢動作ニシテ、其間接ノ目的カ敵ヲ擊滅セントスルト否トニ拘ラス、直接ノ目的トスル處ハ敵ヲシテ其地ヨリ出動セシメサルニ在リ

凡ソ劣勢ノ敵軍戰鬪ヲ避ケテ其防禦港ニ退嬰スルトキハ、竟ニ之ヲ封鎖セサル可ラサルニ至ルヲ常トス。而テ其封鎖ヲ確實ニ續行センニハ、封鎖艦隊ノ兵力ハ少クモ敵ニ對シ二倍ノ優勢ナルヲ要ス。是レ封鎖艦隊ハ戰畧上攻勢ヲ取ルニ拘ラス、戰術上ニ於テハ却テ守勢ニ立テルヲ以テナリ。即チ敵ハ常ニ港内ニ安居シテ、出動ノ時機ト方面ヲ撰擇スヘキ攻者ノ利點ヲ占有スルニ反シ、我ハ終始廣大ナル封鎖線ヲ守備シテ、敵ノ發動ニ對シ警戒シアラサル可ラス。加之守者ノ占有スヘキ地物ノ利モ亦敵ニ屬シ、我ハ唯タ戰鬪力ノミニ據ルノ外ナシ。此廣大ナル封鎖線ノ警備ニ要スル兵力幷ニ之レカ給與、修理、休養等ノタメ其交代ニ要スル兵力ヲ合算スルトキハ、二倍ノ優勢ヲ以テスルモ尚ホ多シトセサルナリ。若シ夫レ地形封鎖ニ適セスシテ、敵カ二方面ニ出口ヲ有シ、港外ノ地勢開濶セル場合（例ハ香港ノ如シ）等ニハ、更ニ其兵力ヲ增大セサル可ラス。之レニ反シ港口一ツニシテ、港外ノ両岸相狹迫セル場合

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

（例ハ舞鶴ノ如シ）等ニハ較ヤ兵力ヲ減少スルコトヲ得ルナリ

○封鎖ノ方法ニ直接封鎖及間接封鎖ノ別アリ。直接封鎖ハ封鎖艦隊ノ主力ヲ敵前ニ現ハシ、威力ヲ以テ直接ニ敵ヲ制壓スルモノヲ謂ヒ、又間接封鎖ハ主力ヲ遠隔ノ地ニ置キテ敵ニ示サス、單ニ警戒隊ヲ以テ敵ヲ監視セシムルモノヲ謂フ。之ヲ要スルニ此両法ノ差別ハ封鎖艦隊ノ主力ヲ敵ニ示スト否トニアリテ、其主力ノ占位スヘキ距離ニ就テハ別ニ一定ノ標準アルコト無シ

直接及間接封鎖ハ各利害得失アリテ、敵情、地形及封鎖艦隊ノ兵力等ニ準シ、之ヲ適用スヘキモノトス。乃チ左ニ両法ノ利點ヲ列記ス

直接封鎖ノ利點

一、比較的ニ能ク敵ヲ威壓シテ其出動ノ意志ヲ屈シ得ルコト

二、比較的迅速確實ニ敵ノ出動ニ即應シ得ルコト

三、比較的ニ警備ヲ嚴ニシ封鎖ノ効力ヲ増大シ得ルコト

間接封鎖ノ利點

一、比較的ニ敵ノ奇襲ヲ避ケ不慮ノ危害ヲ蒙ラサルコト

二、比較的ニ封鎖軍ヲ疲勞倦怠セシメサルコト

三、比較的ニ給與ヲ容易ナラシムルコト

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

如上ノ利害ヲ比較スルトキハ、直接封鎖ハ一時的ノ封鎖ニ應用シ得ルモ、到底耐久ノ封鎖ニ適セス。加之敵ノ奇襲等ヨリ生スル危害モ亦少カラサルヲ以テ、其要求切實ナル場合ノ外、之レニ據ラサルモノトス。而テ多クノ場合特ニ長時日ノ封鎖ニ於テハ、概シテ間接封鎖ヲ執ルヲ有利ナリトス

間接封鎖ニ於ケル封鎖艦隊主力ノ根據地ハ敵港ヨリ五十乃至八十浬ノ地點ヲ撰ミ、且ツ其地位ハ敵ノ出動スヘキ方面ニ在ルヲ要ス。此位地若シ遠キニ過クレハ敵ノ出動ニ應シテ之ヲ阻止スルノ時機ヲ失シ易ク、又近キニ過クレハ敵襲ニ對シ局地ノ警備ニ勞力ヲ徒費スルノ不利アリ

○凡ソ封鎖ヲ續行スルニ當リ、其直接ナルト間接ナルトヲ問ハス、封鎖艦隊ノ各級指揮官ハ前章第一節警戒ノ要義ヲ服膺スルノ外、尚ホ左記ノ諸要義ニ留意セサル可ラス

一、常ニ全軍ノ軍需ヲ充實シ、即時發動ノ準備アルヲ要ス

(註) 敵ハ發動ノ時機ト方面ヲ撰擇スルノ利ヲ有シ、常ニ我カ不意ニ出テ、備無キニ乘セントスルカ故ニ、苟モ此用意ヲ忽ニスルトキハ、其破封鎖ニ即應スルコト難ク、遂ニ敵ヲ逸スルコト多シ。特ニ敵ノ速力優レル場合ニ於テ然リトス

二、時々封鎖配備ヲ變更スルヲ要ス

(註) 終始同一ノ配備ヲ永續スルトキハ、遂ニ之ヲ敵ニ覺知セラル、ノ不利アルノミナラス。不變ノ山水ニ對スル封鎖軍ノ視感ヲ飽カシメ、自然ニ士氣ノ倦怠ヲ生スルモノナリ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

三、艦船ノ交代休養ヲ圖リ、艦員ノ疲勞ヲ豫防スルヲ要ス

(註) 封鎖長時日ニ亘ルトキハ、獨リ艦船ノ故障ヲ續發スルノミナラス、艦員モ亦漸次ニ疲憊シテ、全軍ノ戰鬪力ヲ減耗スルモノナリ。故ニ可成的一晝夜毎ニ之ヲ交代休養セシメ、且ツ適度ノ娯樂ヲ與フルヲ可トス

四、士氣ノ弛慢ヲ戒メ、常ニ鋭氣ヲ保全セシムルヲ要ス

(註) 封鎖ヲ續行スルニ當リ、最モ怖ルヘキモノハ士氣ノ弛慢ニシテ、尙ホ不慮ノ事變等ニ依リ更ニ其挫折ヲ來タスコトアリ。士氣ノ弛慢挫折ハ率テ警戒ノ粗漏ヲ生シ、譬ヒ封鎖ノ形式ニ欠クル處無キモ、其實力ノ減少頗ル大ナリ。故ニ各級指揮官ハ部下ニ對シ、常ニ其戒飾ニ力ムルト仝時ニ、或ハ隊外ノ戰報等ヲ告示シ、又ハ時ニ威嚇砲擊、强行偵察等ヲ行ヒ、以テ士氣ヲ新ニスルノ手段ヲ施スヲ可トス

五、教育訓練ヲ勵行スルヲ要ス

(註) 戰時ニ於テモ教育訓練ノ必要ナルハ言フヲ俟タスト雖モ、特ニ封鎖中ハ日々ノ警戒ニ疲レテ之ヲ忽ニシ、漸次ニ其練度ヲ亡失スルモノニテ、敵ノ出動ニ際シ之レト戰フニ當リ、意外ノ減退ヲ發見スルコトアリ。故ニ爲シ得ル限リ之ヲ勵行スルト仝時ニ、常ニ能ク兵器ヲ檢査シ其効力ヲ保全セシメサル可ラス

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

○封鎖ハ主トシテ兵力ヲ以テ之ヲ強行スルモノナレトモ、又特ニ沈船若ハ機械水雷等ノ如キ固定物ヲ以テ敵港ヲ閉塞セシムルコトアリ。此等ノ事業ハ頗ル冒險ニシテ、其確實ナル成効期シ難シト難モ、敵ヲ危惧セシメ其出動ヲ阻礙スルノ効力ヲ有シ、爲ニ封鎖艦隊ノ勞力ヲ輕減スルコト少シトセス

第二節　封鎖中ノ警戒法

○封鎖中ノ警戒法ハ、敵前ニ於ケル警戒隊ノ監視ト、其外方ニ於ケル封鎖本隊（主隊若ハ支隊）ノ掩護ヨリ成ル。而テ其形式ハ概ヲ前章第三節碇泊中ノ警戒法ニ類似シ、唯タ其異ル點ハ之ヲ内方ヨリ施サスシテ、逆マニ外方ヨリスルニアリ

第一圖ハ即チ直接封鎖ノ警戒法ニ於ケル一般ノ形式ヲ示スモノニシテ、先ツ敵ノ港口ヲ中心トシテ港外ニ三重ノ哨線ヲ劃シ、其第一哨線ハ港口ヨリ約五浬、第二哨線ハ十浬、第三哨線ハ二十浬ノ距離ヲ有セシメ、又中央及左右ノ三幹線ヲ劃シテ、第三哨線以内ヲ内外八哨區ニ區分ス。而テ第一哨線以内ハ必要ニ應シテ機械水雷若ハ障礙物等ヲ敷設スヘキ區域トシ、内哨ハ内哨區ニ、外哨ハ外哨區ニ在リテ、警戒監視スルモノトス

○晝間ノ警戒ニハ、外哨トシテ二個ノ巡洋艦戰隊幷ニ内哨トシテ通報艦（若ハ驅逐隊）三隻ヲ充テ、第一圖ニ示スカ如ク、外哨ハ各左右幹線ヲ基本トシ、第三哨線ニ添フテ移動哨戒シ、又内哨通報艦三隻ハ各幹

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

線ヲ基準シテ第二哨線上ヲ移動哨戒スルモノトス。而テ封鎖本隊ハ通常三隊ニ區分セラレ其主隊ハ中央幹線、又両翼支隊ハ各左右幹線上ニ於テ、第三哨線ノ外方約十浬ニ占位シ、以テ間接ニ内哨及外哨ヲ掩護シ、且ツ敵ノ出動ニ即應スルノ姿勢ヲ持セシム。但シ警戒面大ナラサルトキハ、特ニ両翼支隊ヲ配備スルコトナク、凡テ之ヲ中央ニ集團スルヲ便ナリトス

晝間ノ警戒ニ於ケル内哨通報艦ノ任務ハ主トシテ港内ニアル敵ノ動靜ヲ監視シテ之ヲ速報スルノ外、敵ノ驅逐艦等カ港外ニ出テ我カ沈設水雷等ヲ掃除セントスルヲ擊攘スルニアリ。又外哨巡洋艦戰隊ノ任務ハ内哨通報艦ヲ掩護シ若シ其危殆ヲ認ムルトキハ直ニ赴援スルノ外、尚ホ港外ヨリ敵港ニ入ラントスル船舶ヲ拿捕スルモノトス。特ニ間接封鎖ノ外哨ハ敵ノ出動ニ際シ、我カ主隊ノ到着スル迄、敵ト觸接シテ其行動ヲ監視スルヲ要ス

○夜間ノ警戒ハ主トシテ通報艦三隻及四箇驅逐隊ヲ以テ之レニ充テ、各通報艦ハ第二哨線上哨區ノ界點ニ靜止哨戒シ、各驅逐隊ハ之ヲ標識トシテ各内哨區ヲ移動哨戒ス。而テ若シ敵出動ノ形跡アルトキハ、之ヲ第一哨線ノ外側迄前進セシム。又別ニ外哨トシテ、第三哨線上左右外哨ノ位置ニ各水雷戰隊半部（即チ驅逐隊二隊）宛ヲ配備シ、敵ノ脱出ニ備フルモノトス

又封鎖本隊ハ晝間ノ外哨ヲ各両翼支隊ニ歸合セシメ、日沒時ヨリ第二圖ニ示スカ如ク、三隊ニ分離シテ三幹線上ヲ外方ニ向ヒ分進シ、夜半ヨリ更ニ針路ヲ反轉シテ、翌朝舊位ニ復スル如ク運動シ、以テ敵

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

ノ夜襲ヲ避クルモノトス。但シ夜中敵脱出ノ警報ニ接セハ、各隊豫メ劃定サレタル第二警戒線上ニ到リテ停止シ、各幹線ヲ基準トシテ其両側ニ搜索列ヲ展張シ、時宜ニ準ヒ移動若ハ静止搜索ヲ行フモノトス

夜間ノ警戒ニ於ケル内哨驅逐隊ノ任務ハ、敵ヲ威嚇シテ其出港ヲ逡巡セシメ、若シ出動セハ第三哨線以内ニ於テ、極力之ヲ攻撃スルニアリ。又外哨水雷戰隊ハ内哨ニ異變ナキ限リ、其哨所ヲ守リ、若シ敵ノ脱出ヲ知レハ第三哨線以外ニ於テ之ヲ連續襲撃シ、且ツ爲シ得ル限リ敵ト觸接シテ其行動ヲ監視シ、之ヲ本隊ニ警報スルモノトス

○内哨及外哨ハ毎日午前九時十時ノ交、各所ニ於テ交代スルモノトシ、兵力ノ許ス限リ四順ヲ以テ輪番勤續セシムルヲ通則トス。但シ内哨驅逐隊ハ日没時ニ哨所ニ就キ日出時ニ之ヲ撤スルモノトス

○直接封鎖ニ於ケル特務隊ノ集合地點ハ、中央幹線上主隊ノ後方五浬ニシテ、交代休養セル艦船ハ此處ニ來リテ給與、修理等ヲ受クルモノトス。但シ哨戒ニ服務セル諸艦ハ内哨ノ外、其哨所ニ於テ給炭セシムルコトアリ

○以上ハ凡テ直接封鎖ノ警戒法ニ就キテ説明シタモノニテ、若シ間接封鎖ヲ執ルトキハ、封鎖本隊ハ封鎖線ニ立タスシテ根據地ニ泊在シ、唯タ内哨外哨ノミヲ以テ、敵ヲ監視セシムルモノトス。若シ間接封鎖ノ根據地トシテ、其附近ニ適當ノ港灣ナキトキハ、封鎖本隊ハ通常中央幹線上ニ於テ敵港ヨリ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

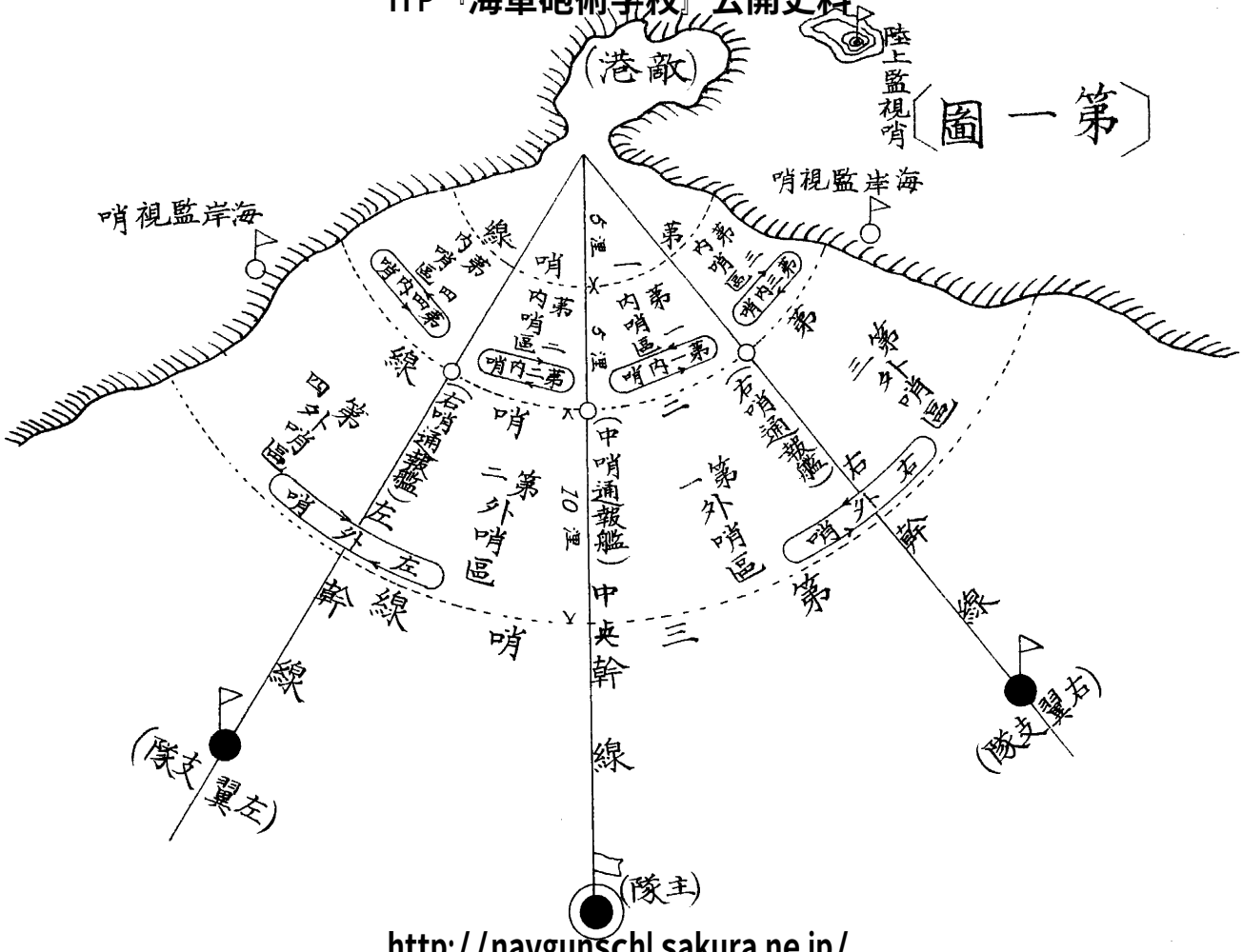
HP『海軍砲術学校』公開史料

五十乃至八十浬ノ所ニ漂泊セサル可ラス

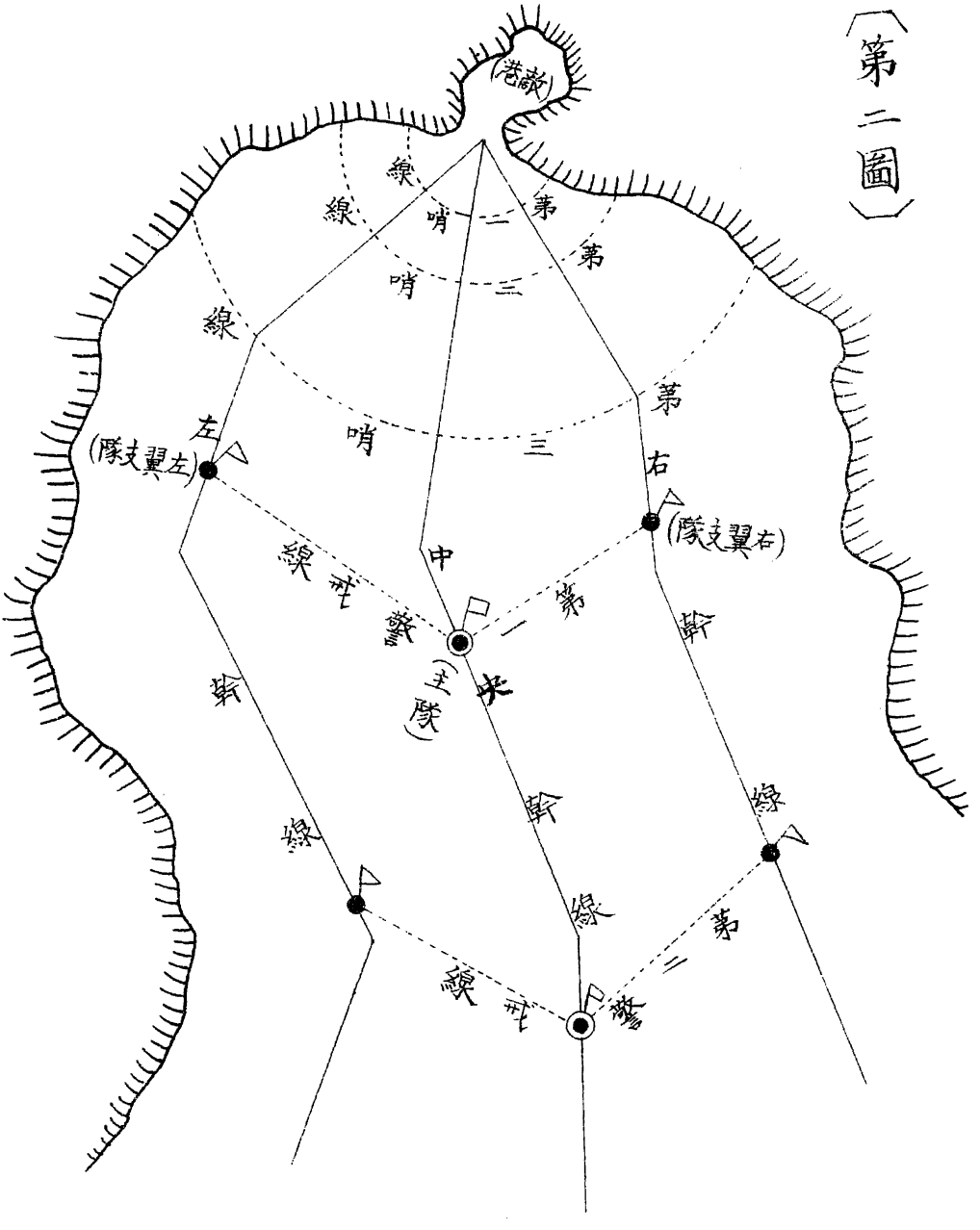
○凡ソ海上ヨリ敵ヲ一地ニ封鎖シテ其撃滅ヲ期スルトキハ、遂ニ陸軍ヲ以テ陸上ヲ攻略セサル可ラサルニ至ルヲ自然ノ趨勢トス。已ニ陸上背面一帶ノ地我軍ノ占領ニ歸シテ攻圍成立スルトキハ、封鎖艦隊ヨリ陸上監視哨ヲ設置シ、背面ヨリ港内ノ敵情ヲ監視セシムルヲ可トス。此監視哨ハ少クモ隔離セル三地點ニ分置シ、三方ヨリ敵ヲ又視セシムル如クシ、又各哨間ニハ電話線ヲ架設シ、尚ホ無線若ハ有線電信ヲ以テ封鎖艦隊トノ連絡ヲ保持セシムルヲ要ス。又海岸適當ノ地點ニモ監視哨ヲ置キテ海陸ノ通信ヲ容易ナラシメ、尚ホ燈臺若ハ燈竿等ヲ設立シテ封鎖内哨ノ標識トスルヲ便ナリトス

○封鎖ノ効力ヲ増大スルタメ、港外ニ機械水雷又ハ障礙物等ヲ敷設スルニハ、凡テ之ヲ第一哨線以内ニ於テシ、若シ陸上我カ手裡ニアレハ可成向之ヲ陸岸ニ接シテ沈置セシメ、然ラサレハ之ヲ中央部ニ敷設セシムルモノトス。是レ我軍ノ保護ヲ容易ニシ敵ノ破壞掃除ヲ困難ナラシメンカ爲メナリ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/


第一圖
(敵港)
陸上監視哨
哨視監岸海
哨視監岸海
第一内哨區
第二内哨區
第三内哨區
第四内哨區
第一外哨區
第二外哨區
第三外哨區
第四外哨區
哨内一第
哨内二第
哨内三第
哨内四第
哨外一第
哨外二第
哨外三第
哨外四第
(中哨通報艦)
(右哨通報艦)
(左哨通報艦)
中央幹線
第三哨幹線
第四哨幹線
(隊主)
(隊支翼右)
(隊支翼左)

〔第二圖〕



HP『海軍砲術学校』公開史料

第九章　陸軍ノ護送及揚陸掩護

第一節　護送及揚陸掩護ノ要義

○夫レ海國ノ作戰ハ、大抵海陸両軍ノ協力ニ依リ其功ヲ収ムルモノニシテ、海上ノ作戰其歩ヲ進メ、陸地攻略ノ必要生スルトキハ、陸軍ノ海上輸送及其揚陸ヲ開始スルニ至ルヲ常トス。此輸送及揚陸ノ業務ハ凡テ陸軍ニ屬シ、海軍戰務ノ與ル處ニアラスト雖モ、敵艦未タ海上ニ出沒シ、輸送船隊ノ航泊危險ナルトキハ、艦隊ヲ以テ直接若ハ間接ニ之ヲ護衛セサル可ラス。此ニ於テ護送及揚陸掩護ノ戰務ヲ生ス

○陸軍ノ護送及其揚陸掩護ニ從事スルニ當リ、其輸送及揚陸ノ方法ニ就キ、艦隊ニテ知悉スヘキ陸軍戰務ノ要領概子左記ノ如シ

陸軍々隊ヲ運送船ニ搭載スルニハ、可成的其建制部隊ヲ分割スルコトナク、之レニ屬スル諸材料ト共ニ同船ニ搭載シ、且ツ船舶ノ搭載力ヲ遺算ナク利用スルヲ其趣旨トス。而テ船舶ノ登簿噸數ニ對シ、人馬材料搭載ノ數量ハ大要左ノ標準ニ據ル

(人馬材料ノ數量)	(船舶登簿噸數)
歩兵一大隊	一、八〇〇

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

騎兵一中隊　一、〇〇〇
野砲兵一中隊　九〇〇
野砲兵聯隊段列　一、六〇〇
山砲兵一中隊　九〇〇
山砲兵聯隊段列　一、八〇〇
工兵一中隊　五〇〇
衛生隊　一、〇〇〇
架橋縦列　一、五〇〇

（備考）砲車、行李其他軍隊附屬ノ諸材料ハ人馬搭載ノ外ニ船艙ニ搭載スルノ餘積アルヲ以テ別ニ計算スルヲ要セス

如上ノ趣旨及標準ニ基キ、陸兵ヲ搭載シタル各運送船ニハ、陸軍輸送指揮官及海軍監督將校乘組ミアリテ、運輸ニ關スル一般ノ事務ヲ掌理シ、船内ノ軍紀、風紀、給與、衛生其他航海ニ關スル一切ノ責任ヲ有セリ。而テ各船ハ當該輸送兵團ノ長ヨリ交附サレタル輸送劵（船名、發着地名、搭載人馬材料ノ種類及數量等ヲ詳記シアリ）ノ指示スル處ニ從ヒ、其出發地ヲ發船シテ指定ノ集合地ニ到着シ、爾後海軍護送艦隊指揮官ノ指揮ニ從フモノトス

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

艦隊護送ノ下ニ輸送船隊揚陸地ニ到着シタル後、其揚陸事業ハ該地ニ設置サルヘキ陸軍碇泊場司令部之ヲ掌理シ、輸送指揮官ト協議シテ揚陸ノ順序方法、上陸用棧橋ノ設備幷ニ艀船集合地ノ撰定等凡テ之レカ擔任ニ屬ス。然レトモ、碇泊場司令部ノ設置ナキカ、或ハ之レアルモ其設備不充分ナルトキハ、艦隊ヨリ之ヲ輔助スルノ義務アルモノトス

軍隊揚陸ノ順序ハ其輸送兵團ノ上陸序列ニ準スルモノニテ、海軍陸戰隊ト交代シテ揚陸地ノ占領警備ニ任スル部隊ヲ第一ニ上陸セシメ、其他ノ部隊ハ通常歩兵ヲ先ニシ、騎兵、砲兵、工兵之レニ次キ、最後ニ行李架橋縱列等ヲ揚陸スルモノトス。但シ工兵ハ棧橋設置ノタメ最先ニ上陸セシムルコトアリ

又軍隊揚陸ノ速度ハ泊地ト海岸トノ距離、海岸着船ノ便否幷ニ天候ノ良否ニ依ルト雖モ、人力ノ左右シ得ル範圍内ニ於テハ、主トシテ棧橋及艀船ノ數量ニ比例スルモノトス。棧橋ノ數ハ運送船六隻ニ對シ少クモ一個ヲ要シ、又艀船ノ隻數ハ棧橋ノ着艇隻數（棧橋ノ兩側及末端等ニ横着シ得ル總隻數）ノ四倍ヲ適度トス。之ヲ超フレハ艀船棧橋ニ群集シテ却テ混雜ヲ生シ易ク、又足ラサレハ徒ニ棧橋ノ利用ヲ空フスルニ至ル。此標準ニ依リ天候良好ニシテ泊地ト海岸ノ距離一浬ニ超ヘサルトキハ、十二時間ヲ以テ優ニ歩兵一旅團若ハ騎砲兵一聯隊以上ヲ揚陸セシムルコトヲ得

○艦隊陸軍輸送船隊ノ護送及其上陸掩護ニ從事スルトキハ、其指揮官ハ航行、碇泊及警戒ニ關スル一

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

般ノ要義ニ遵フノ外、尚ホ左記ノ諸要義ニ留意セサル可ラス

一、護送及掩護ノ任務ハ直接任務ト間接任務トニ區分スルヲ要ス

(註)直接任務トハ輸送船隊ノ近傍ニアリテ、之レト離ルヽコトナク、護送若ハ掩護ニ任スルヲ謂ヒ、又間接任務トハ輸送船隊ト進退ヲ與ニセス、不羈ノ位地ニアリテ、間接ニ之ヲ護衛スルヲ謂フ。此區分無キトキハ、敵襲ニ際シ、完全ニ其任務ヲ遂行スルコト難シ

二、輸送船隊ハ之ヲ適當ノ數群ニ區分シ、各群ニ嚮導艦ヲ附シ、其航行若ハ碇泊ヲ指導セシムルヲ要ス

(註)運送船々長ハ編隊航行ニ熟セサルノミナラス、敵ノ急襲等ニ應變スヘキ素識ヲ有セス。而カモ此ノ如キ場合ニ於ケル信號命令等ハ到底通達スルモノニアラス。故ニ護送中ハ運送船ノ進退動靜凡テ嚮導艦ニ隨從セシメサル可ラス

三、輸送船隊ノ復航路ハ其往航路ト區別シ且ツ可成的相交叉セシメサルヲ要ス

(註)各運送船其搭載セル人馬材料等ヲ揚陸シ了レハ、通常軍艦ノ護衛ヲ附セスシテ直ニ歸航セシムルモノトス。而テ前方輸送ハ尚ホ繼續スルコト多キカ故ニ、此等往復ノ運送船夜中相衝突スルノ危險アルノミナラス、途ニ相遇フテ或ハ僚船ヲ敵ト誤リ、又ハ敵艦ヲ友艦ト信スルカ如キコト屢々之レアリテ、爲ニ輸送ヲ澁滯セシムルコト少シトセス

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

四、揚陸ノ地點及之レニ到達スル時日ハ極秘ニ附スルヲ要ス

(註)軍事凡テ機密ヲ重ンス、特ニ其揚陸地點及其時日ノ如キ敵ニ漏洩スルトキハ殆ンド計畫ノ全部ヲ破壞セルニ等シ。而カモ輸送船隊ノ發船地ニ於テ其漏洩セル實例頗ル多シ

五、揚陸地點(敵地)ノ占領ハ可成的揚陸開始ノ當日ナルヲ要ス

(註)敵地ニ陸軍ヲ揚陸スルニハ、常ニ敵ノ不意ニ出テ、其備無キニ乘セサル可ラス。豫メ之ヲ占領スルハ猶ホ敵ニ揚陸地點ヲ示スカ如シ。而カモ揚陸開始ノ當日ニ於ケル掩護警戒ノ設備ハ完整セサルヲ以テ、此一日間敵ヲシテ我揚陸地點ヲ知ラシメサルハ、作戰上至大ノ價値アルモノナリ

六、揚陸地點ハ爲シ得ル限リ敵ノ所在地ヨリ驅逐艦ノ一夜航程以上ニ位スルヲ要ス

(註)敵艦隊揚陸地ノ附近ニ在ルトキハ間接掩護ノ艦隊ヲシテ、之ヲ封鎖若ハ監視セシムルモノナリト雖モ、尙ホ敵驅逐隊ノ如キハ我監視ヲ脫シテ、揚陸地ニ來襲スルノ虞レナシトセス。故ニ其一夜航程ノ距離ヲ隔ツレハ、先ツ安全ナリトス。但シ戰況己ムヲ得サル場合ハ此限ニアラス

第二節　護送ノ方法

○艦隊指揮官陸軍輸送船隊ノ護送ニ任スルトキハ、前節ノ要義ニ則リ、先ツ艦隊ヲ直接及間接護衛ノ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

二隊ニ區分シ、且ツ輸送船隊ノ編制ヲ行フモノトス

間接護衛ニ任スル部隊ハ通常艦隊ノ主力ニシテ、敵ノ全力ニ對抗シ得ヘキ兵力ヲ有セシメ、又直接護衛ニ任スル部隊（通常之ヲ單ニ護送艦隊ト謂フ）ハ爾餘ノ兵力ヲ以テ之レニ充ツルヲ通則トス

輸送船隊ノ編制ハ當時ノ情況ニ依リ差異アリト雖モ、概チ左記ノ諸項ニ準據スルモノトス

一、全輸送船隊ヲ數回ニ分チテ護送スルトキハ其一回ニ屬スルモノヲ一箇梯團トシ。回數ニ準ヒ、之ヲ第一若ハ第二梯團等ト稱ス

二、各梯團ハ更ニ數箇ノ群隊ニ區分シテ、之レニ(A)(B)(C)(D)等ノ隊號ヲ冠シ、各群隊ノ嚮導トシテ軍艦一隻、及傳令用トシテ驅逐艦若ハ水雷艇一隻宛ヲ附スルモノトス

三、一箇群隊ノ運送船ノ隻數ハ六隻以下トシ、其搭載軍隊ハ可成的同一建制部隊タラサル可ラス。而テ各群隊ノ各艦船ハ常ニ其前檣頭ニ隊號ノ萬國信號旗ヲ揭ケテ、其集團ノ目標トス

四、各運送船ニハ一梯團ヲ通シテ、第一號ヨリ始マレル排列番號ヲ賦與シ、航行及碇泊ニ當リ、常ニ此順序ニ排列セシムルモノトス。而テ各船ノ舳艫両舷ニ此番號ノ邦數字ヲ大書セシム（番號ヲ書スルニハ方形ノ白地ニ黑書スルヲ鮮明ナリトス）

○輸送船隊航行ノ方法ハ、概シテ第四章ニ說ク處ト異ラスト雖モ、運送船ハ編隊航行ニ慣レサルカ故ニ、各群隊ノ航行碇泊等凡テ其嚮導艦ヲシテ指導セシメ、航行隊形及航行速力等ニ多少ノ餘裕ヲ存

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

シ、以テ其集團整頓ヲ容易ナラシメサル可ラス

此趣旨ニ基キ各群隊ノ航行隊形ハ嚮導艦先頭ノ單縱陣（各船ノ距離五百米突）トシ、各運送船ハ其排列番號ノ順序ニ準ヒ嚮導艦ノ通跡ヲ續航セシム。又梯團ノ航行陣列ハ通常隊號ヲ序列トセル縱陣列（各群隊ノ間隔千五百米突）トシ、群隊ノ數四箇以上ナルトキハ鱗次陣列ヲ執ルモノトス。但シ群隊多數ニシテ陣列ノ縱長ヲ過大ナラシムル場合ニ於テモ、決シテ三列以上ノ並列隊形ヲ用フ可ラス。是レ敵襲等ノタメ臨機變針セントスル際、其混雜甚シキヲ以テナリ。而テ其航行速力ハ充分ノ豫備速力ヲ保有セシムルタメ、梯團中最小速力ノ運送船ノ全速ヨリ約三節ヲ減シタルモノヲ撰ムヲ通則トス

夜間ニ於ケル航海燈ノ點滅ハ警戒ノ程度ニ依リ異ルト雖モ、少クモ艦尾三點ノ間ヲ照ラスヘキ艦尾燈ノミヲ點セシムルヲ安全ナリトス

輸送船隊霧中ノ航行ハ最モ難ンスル處ニテ、爲シ得ル限リ、遭霧前ニ投錨セシムルヲ可トス、若シ投錨スル能ハサルトキハ、(A)(C)(E)ノ群隊ハ其儘直進シ、(B)(D)(F)群隊ハ右方若ハ左方ニ約五浬偏位シテ平行航路ヲ前進セシムルヲ要ス。此ノ如キ場合ニ於テ各群隊ノ嚮導艦長ハ傳令用驅逐艦（若ハ水雷艇）ヲシテ速力ヲ增加シ、隊列ニ添フテ順次ニ各後續船ノ近傍ヲ通過シ、「メガホン」ヲ以テ其位置、距離及針路等ノ不正ヲ正タサシメ、終始反覆之ヲ續行セシムルヲ可トス

○輸送船隊ノ直接護衛ニ任スル護送艦隊ノ警戒法ハ、概チ第七章第二節ニ記シタル警戒航行ノ要領ニ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

準據ス、即チ其主隊ハ輸送船隊ノ直前信號距離以内ニ占位シ、爾餘ノ警戒部隊ヲ常法ノ如ク前衛、後衛及側衛トシテ配備スルモノトス。而テ敵ノ來襲スルコトアルモ、常ニ輸送船隊ト分離スルコトナク、其信號距離以内ニアリテ敵ヲ擊退シ、尚ホ各群隊ノ嚮導艦ヲシテ安全ナル方向ニ輸送船隊ヲ避難セシムルヲ要ス

又間接護衛ニ任スル艦隊ハ、通常輸送船隊ノ前方五十浬、若ハ來敵ノ虞アル方向ニ於テ三十浬以上ノ距離ヲ隔テ、並進シ、尚ホ適當ノ位地ニ衛艦ヲ配備シテ輸送船隊ノ四周約五十浬ノ海面ヲ警戒スルモノトス。而テ敵影ヲ發見スルトキハ、輸送船隊ニ顧慮スルコト無ク、不羈ノ行動ヲ執リテ、一意之レカ擊滅ニ努力スルヲ要ス。又敵ノ所在地明カナルトキハ直ニ其地ニ赴キ、之ヲ封鎖若ハ監視シ、以テ間接ニ輸送船隊ノ航行ヲ安全ナラシムルコトアリ

○輸送船隊ヲ護送セントスルニ當リ、艦隊指揮官別ニ他ノ任務ニ從事シアルトキハ、大抵直接護衛ニ任スル部隊ノミヲ輸送開始前ニ輸送船隊其集合地ニ分遣シ、其部隊指揮官ヲシテ、護送ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシムルモノトス

○以上ハ凡テ陸軍大兵團ノ護送ニ就キ、其方法ノ要領ヲ說明セルモノニテ、小部隊ノ陸兵ヲ搭載セル數隻ノ運送船ヲ護送スル場合等ニハ必スシモ如上ノ方則ニ據ルヲ要セス、時宜ニ準ヒ簡便ナル護送法ヲ案畫スルヲ可トス

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

第三節　揚陸掩護ノ方法

○艦隊ノ陸軍揚陸掩護ハ其護送ニ連繫セル繼續任務ニシテ、仝シク之ヲ直接掩護又間接掩護ニ區別シ、其艦隊區分モ亦護送當時ノモノヲ其儘變更セサルヲ例トス

直接掩護部隊ハ輸送船隊ト共ニ揚陸地ニ泊在シテ、其地ニ於ケル掩護警戒ノ任務ニ服スルノ外、尚ホ便宜上揚陸地ノ占領、揚陸事業ノ補助其他輸送船隊ニ直接ノ關係アル一切ノ業務ヲ擔任スルモノトシ、又間接掩護ノ部隊ハ不羈ノ行動ヲ執リテ海上ヨリノ敵襲ヲ豫防シ、尚ホ揚陸地以外ニ於ケル敵岸ノ牽制砲擊若ハ通信機關ノ破壞等ヲ擔任スルモノトス。而テ其泊地ハ任務上ノ混雜ヲ避クル爲メ、可成的之ヲ揚陸地點以外ニ撰定スルヲ可トス。但シ直接掩護部隊ノ兵力及材料不足ナルトキハ、間接掩護部隊ニテ揚陸地占領ノ陸戰隊及揚陸用瀉艇端舟ノ派遣、揚陸地ノ掃海及固定防禦物一部ノ設置、其他港外哨區ノ哨戒等ヲ擔任スルコトアリ

○揚陸地ニ於ケル直接掩護部隊及輸送船隊ノ警戒碇泊ノ方法ハ、概ヲ第七章第三節ニ記シタル碇泊中ノ警戒法ニ仝シ。第一圖ハ即チ其一例ヲ示スモノニテ、輸送船隊ハ水深ノ許ス限リ、可成的海岸ニ近ツキ、之レト直角ニ群隊々號ノ順序ニ碇泊シ、砲艦及水雷戰隊ノ諸艦艇ハ、主トシテ陸上掩護ニ適スルカ如ク、海岸ニ接シテ錨位ヲ占メ、其他ノ諸戰隊ハ輸送船隊ノ外方約二千米突ニ碇泊シ、海上ノ敵ニ對シテ警戒スルモノトス。而テ防材其他固定防禦物等ヲ更ニ其外方適當ノ位置ニ設置シ、航路標識

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

ヲ以テ出入ノ航路ヲ區別スルヲ要ス

揚陸地ニ於ケル海陸ノ通信ハ終始頻繁ナルヲ常トシ、到底信號（無線電信ハ港外ノ通信ニ專用サルヽカ故ニ之ヲ利用スル能ハス）ノミニ依ル能ハサルモノナリ。故ニ少クモ掩護艦隊司令部、海軍揚陸指揮官ノ乘艦、碇泊場司令部及陸上輸送兵團司令部間ニ有線電信若ハ電話ヲ連絡スルヲ可トス。此通信迅速且ツ確實ナルトキハ、獨リ海上若ハ陸上ノ敵襲等ニ際シ、敏速ニ機宜ノ處置ヲ施シ得ルノミナラス、又揚陸事業ノ進行ヲ助クルコト頗ル大ナリ

○間接掩護部隊ハ常ニ直接掩護部隊ノ警戒區域以外ノ海面ヲ警戒シ、敵ノ揚陸地ニ近接シ來ルモノアレハ、直ニ進ンテ之ヲ攻擊シ、敵若シ其附近ノ港灣ニ伏在スレハ大抵之ヲ封鎖スルモノトス。又其一部ハ揚陸地以外ノ敵岸諸處ヲ威嚇砲擊シ、或ハ陸戰隊ヲ揚陸シテ敵ノ通信機關ヲ破壞シ、以テ敵ヲシテ我揚陸地點ノ何レニアルヤヲ疑ハシメ、且ツ其陸軍ヲ他方ニ牽制スルヲ要ス

○敵前上陸ノ掩護ハ、敵情、地形及我陸軍ノ要求等ニ準シテ一定セスト雖モ、通常輸送船隊到着ノ前日ニ於テ、間接掩護部隊ノ一部ヲシテ、揚陸地點ノ敵兵ヲ擊攘セシメ、强勢ナル海軍陸戰隊若ハ之レカ爲メ特派サレタル陸軍兵ヲ揚陸シテ、確實ニ其地ヲ占領セシメタル後、其翌日ヨリ輸送船隊ノ揚陸ヲ開始スルモノトス。而テ海上及陸上ニ於ケル警備ヲ一層嚴重ナラシメサル可ラス

○凡ソ陸軍ヲ敵地ニ揚陸スルニ當リ、其輸送船隊ノ到着後約二日間ハ陸軍ノ擔任ニ屬スル棧橋及艀船

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

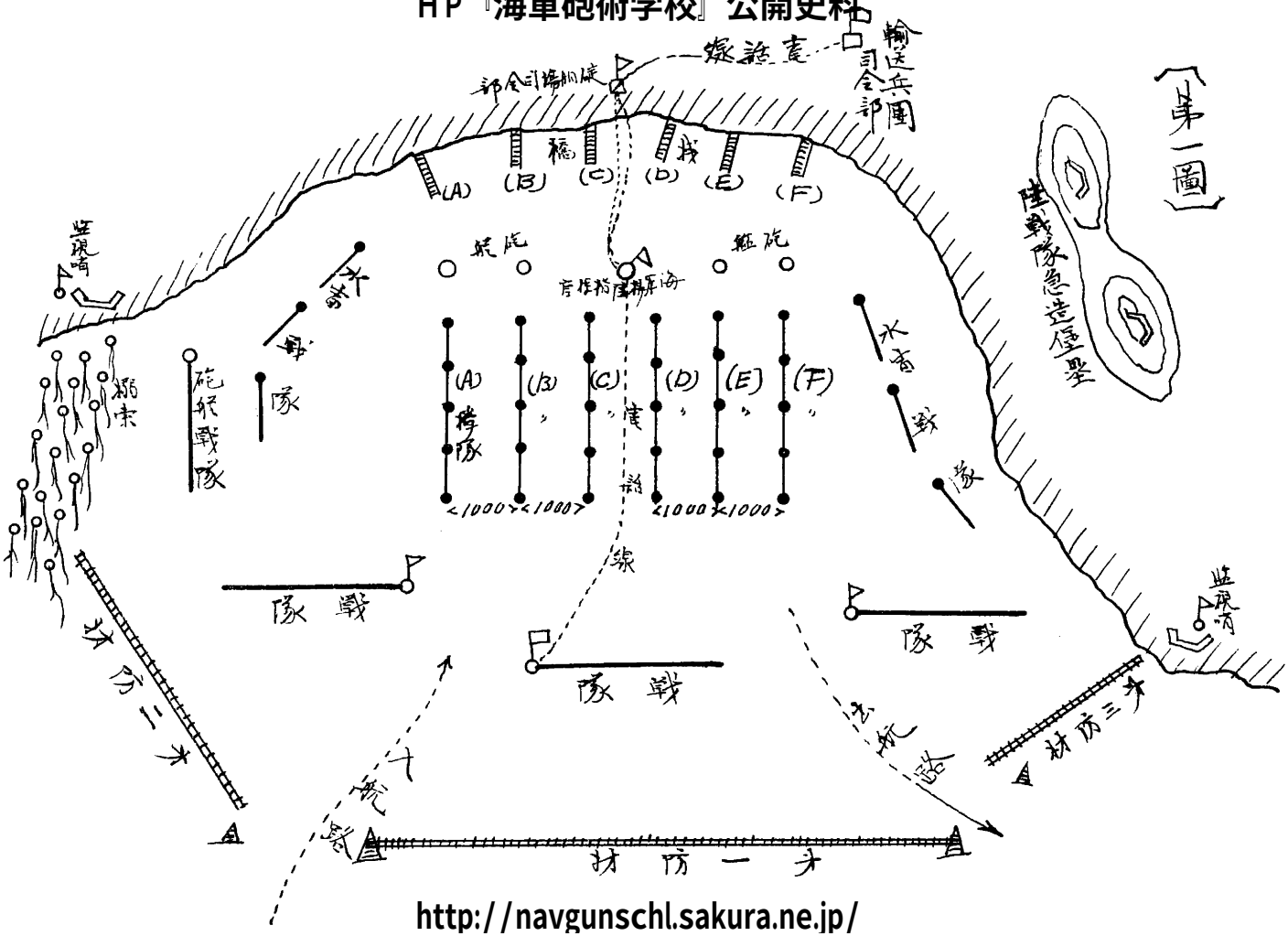
HP『海軍砲術学校』公開史料

ノ設備其他揚陸ニ關スル諸般ノ準備整頓セサルモノナリ。而カモ軍隊揚陸ノ要求ハ當初ヲ以テ最大ナリトス。故ニ少クモ當初三日間ハ掩護艦隊ヨリ之ヲ補助スルノ必要アリ。之レカ爲メ直接掩護部隊中ノ一艦長ヲ海軍揚陸指揮官トシ、碇泊場司令部ニ近ク其艦ヲ碇泊セシメ。艦隊ノ各艦ヨリ漕艇及端艇若干隻（艦船ノ大小ニ準シ隻數ヲ定ム）ヲ送リテ、全官指揮ノ下ニ置キ、碇泊場司令官ト協議シテ揚陸事業ニ從事セシム。而テ陸軍ノ諸準備整頓スルニ從ヒ、漸次ニ之ヲ復旧セシムルモノトス

○揚陸地占領ノ陸戰隊ハ、通常直接掩護部隊ノ聯合陸戰隊ヲ以テ編成スルモノニテ、初ヨリ之ヲ一艦若ハ二艦ニ乘組マシメ、先發セシムルヲ便ナリトス

陸戰隊敵地ニ上陸スルニハ拂曉時前後ヲ可トシ、上陸スルヤ否ヤ直ニ敵ノ通信機關ヲ破壞若ハ押収シ、且ツ土民ノ逃走ヲ制止スルヲ要ス。是レ少クモ揚陸開始ノ當日揚陸地ノ情況ヲ敵ニ知ラレサルカ爲メナリ。而テ其主力ハ内地ニ通スル主要ノ道路ニ近ク集合シ、地形ニ應シテ揚陸地域ノ周圍ニ警戒線ヲ劃シ、之レニ適當ノ哨兵ヲ配備スルモノトス。又必要アレハ要害ノ地點ニ野砲堡壘ヲ急造シテ、敵ノ來襲ニ備ヘ、尚ホ各道路ニ斥候ヲ派出シテ、附近ノ敵情ヲ偵察シ、或ハ鐵道、電信、橋梁等ヲ破壞セシムルヲ可トス

http://navgunschl.sakura.ne.jp/


第一圖
輸送兵團司令部
線路
部隊司令部
橋
(A)
(B)
(C)
(D)
(E)
(F)
監視哨
紙砲
紙砲
方位指示器
水雷戰隊
(A)
(B)
(C)
(D)
(E)
(F)
<1000>
<1000>
<1000>
<1000>
線路
水雷戰隊
陸戰隊急造堡壘
鉄條網
砲兵戰隊
隊戰
隊戰
隊戰
監視哨
材防三才
材防三才
材防一才

HP『海軍砲術学校』公開史料

第十章　給與

第一節　給與ノ要義及品目

○凡ソ軍隊ノ戰鬪力ヲ保全シ、常ニ作戰ノ諸勤務ヲ服行スルニ遺憾ナカラシメントセハ、其生存行動ニ必要ナル軍需ヲ欠乏セシム可ラス。海軍々隊ハ戰時ト平時トヲ問ハス、終始艦船ト離ルヽコト無キカ故ニ、其軍需ノ一部ハ之ヲ艦艙ニ搭載貯藏シ、一時ノ需要ヲ充タスヲ得ルト雖モ、尚ホ數日ノ後ニハ直ニ艦船其物ノ行動ニ必要ナル多量ノ燃料清水ノ補給ヲ要シ、糧食、被服、消耗品、彈藥ノ如キモ、數週若ハ一戰鬪ノ後ニハ又其供給ヲ仰カサル可ラス

○軍隊給與ノ目的ハ常ニ其軍需ヲ充實シテ、其生存行動ニ支障無カラシムルニアリ。而シテ其要義トスル處ハ可成的之レニ要スル機關ヲ輕小ニシ、爲シ得ル限リ勞力ト時間ノ經濟ヲ圖ルニアリ

此要義ニ基キ、海軍給與品目ヲ(一)給炭、(二)給水、(三)給品、(四)給兵ノ四種ニ大別シ、各其ノ給與船ヲ異ニス。是レ此等各種ノ品目ハ各其需要ノ數量及時期ヲ異ニセルカ故ニ、之ヲ全一ノ給與船ニ混載スルトキハ、一種品目ノ欠乏シタルタメ、他種品目ヲ滿載セル場合ニ於テモ其給與船ヲ補給基地ニ往復セシムルノ必要ヲ生シ、從テ給與船ノ多數ヲ要スルノミナラス、往復ノ航海ト其危險トヲ增加スルヲ以テナリ。而テ各種ノ給與中最モ需要ノ繁多ナルヲ給炭トシ、給水、給品之レニ亞キ、給兵ハ一戰鬪ノ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

後ニアラサレハ其需要アルコト無シ。左ニ此等給與船ノ本能ノ要領ヲ列記ス

一、給炭船ハ石炭、石油ノ如キ艦船燃料ノ給與ニ從事スルモノニシテ、凡テ運炭、載炭等ニ必要ナル要具及炭夫ヲ裝載スルモノトス。戰時商船ヲ徵發シテ給炭船トスルニハ、民間ノ石炭會社若クハ石油會社等ニ於テ運炭運油ニ使用セル特種ノ船舶ヲ撰ムヲ要ス。然ラサレハ其給炭力著シク減少シ、爲ニ勞力ト時間トヲ徒費スルノミナラス、其隻數ヲモ增加セサル可ラサルニ至ル

給炭船ヲ以テ軍艦ニ給炭スルニハ之ヲ軍艦ニ横着シ、運炭機ヲ以テ袋入石炭ヲ積載スルヲ最便トス（小艦船ハ之ヲ給與船ニ横着スルモノトス）、其速度ハ平穩ナル洋中ニ於テ一時間ノ平均積載量二百噸乃至三百噸ナリ

又給油スルニハ給油船ノ給油喞筒ヲ使用シテ配給スルモノニテ、其速度ハ給油口ノ員數及喞筒ノ力量ニ正比ス

二、給水船ハ艦船ノ罐水及雜用水ノ給與（飲用水ハ大抵艦船ニテ之ヲ溜造ス）ニ從事スルモノニシテ、其船内ニハ清水溜造ノ大裝置ヲ有シ、併セテ製氷機ヲモ裝備スルモノトス。給水船ニシテ溜造裝置ヲ有セス、單ニ眞水ヲ貯藏スルモノハ其貯藏量ニ限リアリテ、給水力眞ニ少ク、且ツ屢々補給基地ニ往復スルタメ、其隻數ヲ增加セサル可ラサルノ不利アリ

給水船ニハ、給水ノタメ有力ナル給水喞筒ヲ備ヘ、且ツ數隻ノ給水艇ヲ附屬スルヲ要ス。是レ給水船ハ其隻數少ク、常ニ自ラ移動シテ艦船ニ給水スルコト能ハサルヲ以テナリ。給水ノ速度ハ此等喞

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

筒ノ力量及給水艇ノ員數ニ正比ス

三、給品船ハ糧食、被服其他日用消耗品ノ給與ニ從事スルモノニシテ、其船内ニハ冷藏庫ヲ有シ、多量ノ生肉、野菜等ヲ貯藏シ得ルモノタルヲ要ス。而シテ船艙ノ他ノ部分ハ凡テ乾燥糧食、被服及消耗品ノ倉庫ニ充ツルモノトス。戰時商船ヲ徵發シテ給品船トナスニハ、民間ニ於ケル冷藏庫會社ノ船舶ヲ撰ムヲ可トス

四、給兵船ハ各種彈藥、魚雷、火工要具等ノ給與ニ從事スルモノニシテ、特ニ魚雷調整ノタメ其調整室ノ設備アルヲ要ス。戰時給兵ノ需要アルハ概ネ一戰鬪ノ後ニシテ、戰鬪無キトキハ給兵船ノ要務殆ント皆無ナリ。故ニ魚雷ノ修理調整ハ常ニ之レニ擔任セシメ、艦艇ノ魚雷ヲ終始有効ノ情態ニ保タシムルヲ至便ナリトス。水雷母艦ハ驅逐隊及水雷艇隊ニ對スル雜多ノ要務アルヲ以テ、之レニ多數魚雷ノ修理調整ヲ擔任セシムルコト難シ

前記四種ノ給與船以外ニ尙ホ水雷母艦アリテ、驅逐隊及水雷艇隊ノミニ對スル諸般ノ給與ヲ掌リ、且ツ其隊員ノ休養ニ充ツルモノトス。但シ水雷母艦ハ驅逐隊艇隊等ト其行動ヲ共ニシ、半ハ作戰ニ從事スヘキモノニテ、純然タル給與船ニアラス。故ニ其設備モ一時的ノ給與ヲ目的トシ、多量ノ需要ハ之ヲ各種給與船ニ仰カシメサル可ラス

○戰時一艦隊ニ附屬スヘキ各種給與船ノ隻數ハ其艦隊兵力及作戰ノ情況ニ依リ仝シカラスト雖モ、大

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

抵左記ノ標準ニ據ルモノトス

一、給炭船　十六隻
一、給水船　二隻
一、給品船　四隻
一、給兵船　二隻
一、水雷母艦　水雷戰隊ノ員數

前記ノ隻數ヲ撰ミタル所以ハ、給與船ノ補給基地ニ赴クモノアルモ必ス其一隻ヲ前進根據地ニ殘留セシメ、且ツ艦隊カ分離別働スル場合ニ際シ、之ヲ二分スルノ便ヲ得セシメンカ爲メニシテ、敢テ軍需ノ積載數量ヨリ打算サレタルモノニアラス。故ニ作戰ノ情況ニ依リ、多量ノ軍需ヲ要スルカ、或ハ給與船ノ容積及設備豊裕ナラサルトキハ此比例ニ準シ、其隻數ヲ增加セサル可ラス

此等ノ各種給與船ニハ何レモ監督官ヲ乘組マシメ、之ニ搭載需品ノ出納經理ヲ擔任セシメ、又一艦隊ニ附屬スル給與船隊ヲ總轄スヘキ專務司令官（將官）ヲ置キ、之レニ必要ノ幕僚ヲ附屬シ、以テ給與船ノ行動、軍需ノ配給及其塡補ヲ掌理セシムルモノトス

第二節　給與ノ種別及方法

○艦隊ノ給與ヲ大別シテ、倉庫給與及給與船給與ノ二種トス、倉庫給與ハ艦隊カ軍港、要港若ハ需品

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

庫所在地ニ泊在セルトキ、海軍一般ノ規定ニ準ヒ、陸上倉庫ヨリ給與ヲ受クルモノニシテ、軍需ノ數量及配給ノ設備最モ豊裕便利ナリ。又給與船給與ハ艦隊カ軍港、要港等ヲ離レ獨立シテ行動シアルトキ、之レニ附屬セル給與船隊ニ給與ヲ仰クモノニシテ、倉庫給與ノ便ナキ所ニ於テ之ニ據ルモノトス。故ニ艦隊カ軍港若ハ要港ノ附近ニ行動シアルカ、或ハ其行動中軍港、要港等ニ寄泊スルトキハ、可成的給與船給與ヲ執ラスシテ、倉庫給與ニ據ラシムヘキモノトス。以下主トシテ給與船給與ニ就キ其方法ノ要領ヲ列記ス

○給與船給與ノ方法ハ艦隊行動上ノ便否ニ準シ、更ニ之ヲ左ノ三法ニ小別ス

(一)一般給與、(二)特別給與、(三)分配給與

一、一般給與ハ艦隊集合シアルトキ、給與船隊ヨリ艦船一般ニ給與ヲ行フモノニシテ、特令ナキ限リ常ニ之ニ據ルモノトス。而テ其要求及供給ノ手續ハ需要艦船ヨリ信號若ハ電信ヲ以テ其所要品目及數量ヲ直接ニ給與船隊司令部ニ要求シ、給與船隊司令部ハ給與船ニ命シテ之ヲ配給セシムルコト、宛カモ軍港ニ於テ鎮守府倉庫ヨリスル軍需供給ノ如クス

一般給與ノ利便トスル處ハ艦隊全般ノ給與統一サル、カ故ニ需要ノ緩急ニ應シテ各種給與船ヲ相融通スルコトヲ得、從テ給與船ノ船操リヲ敏速ニシ、能ク少數ノ給與船ヲ以テ比較的多大ノ需要ヲ充タシ得ルニアリ。故ニ艦隊一地ニ根據スルトキハ多少ノ集散異動アルモ此法ニ依ルヲ可トス。特ニ

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

給與船ノ隻數及準備不充分ナル場合ニ於テ然リトス

二、特別給與ハ艦隊ノ一部若ハ數部カ分離シテ行動スルトキ、給與船ノ一部ヲ割キテ特ニ之ニ隷屬セシメ、各別ニ其給與ヲ分擔セシムルモノナリ。艦隊指揮官特別給與ヲ執ラシムル場合ニハ、豫メ其部隊ニ附屬セシムヘキ給與船ノ種類及隻數幷ニ其期限ヲ指令スルヲ要ス。而テ其給與事務ハ凡テ當該部隊指揮官ノ司令部ニテ之ヲ擔任シ、其軍需ノ補充ハ時ノ便宜ニ準ヒ、直接ニ補給基地ヨリスルカ、或ハ艦隊給與船隊司令部ニ仰クモノトス

特別給與ハ給與船ヲ分割スルタメ、一般給與ニ比スレハ多數ノ給與船ヲ要スルノ不利アリ。然レトモ、艦隊ノ一部カ分離別働セル場合等ニハ、此法ヲ執ルノ外他ニ給與ノ途ナク、若シ强テ一般給與ニ依ラントスルトキハ、其部隊ノ行動ヲ澁滯セシムルノ惡果ヲ生スルコトアリ。故ニ給炭ノ如キ必須ノ需要ノミニ限リ此法ヲ施シ、其他ノ軍需ハ一般給與ヲ以テ配給スルヲ至便ナリトス

三、分配給與ハ艦隊カ給與船隊ヲ伴ハスシテ其根據地ヨリ隔離シテ行動スルトキ、多量ノ軍需ヲ貯藏セル艦船ヨリ、需要艦船ニ分配給與セシムルモノニシテ、例ハ一戰隊カ多數ノ驅逐隊、水雷艇隊ヲ掩護シテ、遠ク敵地ニ對シ作戰セントスル場合等ニ於テ、其行動ノ敏速ヲ期スルカタメ、給與船ヲ隨伴スルコト無ク、戰隊ノ諸艦ヨリ水雷戰隊ノ諸艦艇ニ給與セシムルカ如キ是ナリ。艦隊指揮官分配給與ヲ執ラシムル場合ニハ、豫メ分配スヘキ軍需ノ品目及其數量幷ニ給與艦ト被給與艦ノ配合ヲ指

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

定スルヲ要ス

分配給與ノ利トスル處ハ、給與船ヲ伴ハスシテ一時ノ需要ヲ充タシ得ルト、給與ニ要スル時間ヲ短縮シ得ルトニアリ。故ニ敏速ヲ要スル行動等ニハ、給與船ヲ伴フ場合ニ於テモ尚ホ此法ヲ混用スルコトアリ。特ニ驅逐隊、水雷艇隊ニ對スル一時ノ給與ニハ最モ便利ナリトス。然レトモ之ヲ屢々スルトキハ、給與艦ノ軍需ヲ減耗セシムルコト大ナルカ故ニ、長時日ノ行動等ニ於テハ終始此法ニ依ル可ラス

○艦隊給與ノ業務ハ給與船隊司令部之ヲ掌理スト雖モ、艦隊司令部ハ常ニ麾下艦船ノ給與ヲ監督セサル可ラス。是レ給與ハ作戰ノ實施ト密接ノ關係ヲ有スルカ故ニ、需要艦船隨時任意ノ要求ニ委スル可ラサルヲ以テナリ。之レカ爲メ艦隊指揮官カ需要艦船及給與船隊司令官ニ指令スヘキモノハ左記ノ諸項ナリ

一、給與法ノ種類（特令ナキトキハ一般給與ニ依ルモノトス）

二、配給ノ順序及數量

三、給與ノ時期及時限

艦隊一地ニ碇泊シ艦船ノ行動スルモノ少ク、且ツ給與船隊ノ軍需豊裕ナルトキハ、艦隊指揮官ハ特ニ令シテ各艦隨時ニ必要ノ軍需ヲ給與船隊ニ要求受領セシメ、常ニ其軍需ヲ充實セシムルヲ可トス。然

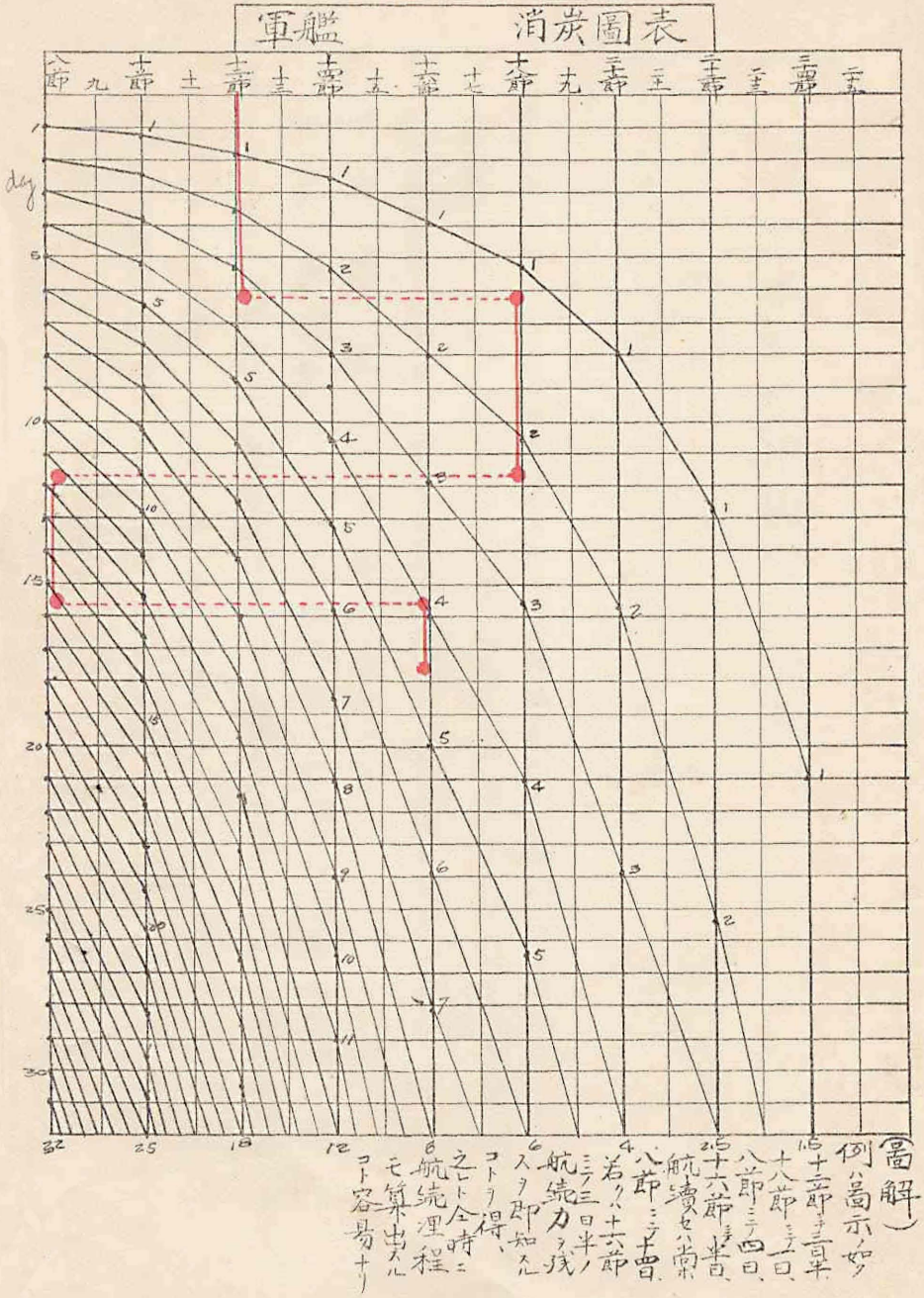
http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

レトモ、麾下艦船ノ任務上其需要ニ緩急ノ差別アルカ、或ハ給與船隊ノ軍需豊裕ナラサルトキハ、必ス需要ノ緩急及ヒ軍需ノ現量ニ準シテ配給ノ順序及數量ヲ指定シ、以テ麾下艦船ノ任務ヲ遂行スルニ支障無カラシメ、且ツ其軍需ノ積量ヲ平均シテ過不足ナカラシメサル可ラス。又全隊作戰ニ從事スル場合等ニハ、常ニ給與ノ時期及時限ヲ指定シ、濫リニ炭水補充等ヲ爲サシメ、作戰ノ進行ヲ澁滯セシメサルヲ要ス

○艦隊ノ給與ヲ監督シ、其需要ト供給ヲ調和シテ遺算ナカラシメントセハ、其艦隊司令部及給與船隊司令部ハ常ニ艦船及給與船ニ搭載セル軍需ノ貯藏現量幷ニ其消耗ノ速度ヲ知悉スルヲ要ス。之レカ爲メ艦隊指揮官ハ艦隊ノ航海セルト碇泊セルトヲ問ハス、毎日時ヲ期シテ艦船及給與船軍需（燃料及清水）ノ現量ヲ報告セシメ、之ヲ艦船及給與船軍需現額表ニ記載シテ一覽ノ便ニ供ヘ、且ツ艦船ノ行動ヲ消炭圖表（附表）ニ記入シテ參考トナスヲ要ス

http://navgunschl.sakura.ne.jp/


軍艦　消炭圖表
八節
九節
十節
十一節
十二節
十三節
十四節
十五節
十六節
十七節
十八節
十九節
二十節
二十一節
二十二節
二十三節
二十四節
二十五節
day
32
25
18
12
6
6
4
2.5
1.5
(圖解)
例ハ圖示ノ如ク
十二節ニ達セル
十八節ニ至リ四日
八節ニ至リ半日
十六節ニ達セル
航續力ヲ殘
若クハ十六節
ニテ三日半ノ
八節ニテ十四
航續力ヲ殘
スヲ即知ル
コトヲ得
之レト全時ニ
航續理程
モ算出スル
コト容易ナリ

HP『海軍砲術学校』公開史料

（附　錄）

艦隊戰務用圖書ノ分類

○隊外ノ部

一、受　令　綴　最高等司令部ヨリノ命令、訓令等一括

二、受　報　綴

三、渉　議　綴　他部ト交渉協議シルタ往復書類（照會、回答共）

四、上申及要求綴　人事、艦政、給與等ニ關シ當該司令部ヨリ海軍省若クハ陸上海軍官衙等ニ差出シタル上申及要求書覆寫並ニ之ニ對スル回答

五、進達報告綴　當該司令部ヨリ最高等司令部ニ進達シタル報告ノ複寫

六、雜　件　綴　通知、伺等凡テ前記五項以外ノモノ

（註）省令、辭令、官報ノ如キ規定ノ受領書類ハ別ニ其種類ニ準シテ綴リ置クモノトス

又電信、信號等ニテ發受シタルモノモ必ス其原文ヲ筆記シテ之レニ適應スル部門ニ綴リ込ムヘキモノトス

又件名摘要簿ヲ具ヘテ之レニ件名ヲ記入ス

○隊内ノ部

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

（令　達）

一、命令、訓令、訓示綴
二、法　令　綴
三、日　令　綴
四、告　示　綴

（註）電信、信號等ニテ發令シタルモノモ必ス其原文ヲ筆記シテ之ニ適應スル部門ニ綴リ込ムヘキモノトス
又件名摘要簿ヲ具ヘテ之ニ件名ヲ記入ス

（報告及通報）

一、現　狀　報　告　綴
二、航泊日誌摘要報告綴
三、艦砲射擊及水雷發射成績報告綴
四、任　務　報　告　綴
五、事　件　報　告　綴

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

六、情況報告綴
七、通報綴
八、雜報綴

（註）電信、信號等ニテ受領シタル報告等モ必ス其原文ヲ筆記シテ之レニ適應セル部門ニ綴込ムヘキモノトス
又件名摘要簿ヲ具ヘテ之レニ記入ス

（隊務用表）

一、令達發送表
二、艦船行動表
三、艦船職員表
四、艦船石炭現額表
五、艦船真水現額表
六、給與船軍需現額表
七、艦船入渠表
八、禮砲記錄

http://navgunschl.sakura.ne.jp/

HP『海軍砲術学校』公開史料

（隊務用圖）

一、戰域ノ戰略兵要圖

二、戰略要點ノ戰術兵要圖

三、艦船行動圖表

四、艦船消炭圖表

http://navgunschl.sakura.ne.jp/